

西東京市環境基本計画見直しに係る
環境アンケート調査結果
報告書

平成 20 年 1 月

西東京市 生活環境部環境保全課

目 次

第1章 はじめに	1
1.1 調査の目的	1
1.2 報告書の構成	1
第2章 一般市民アンケート結果	2
2.1 調査概要	2
2.2 調査結果	2
2.2.1 回答者自身について	2
2.2.2 課題となる環境課題（問1）	5
2.2.3 西東京市の環境について（問2～問3）	7
2.2.4 日常の行動について（問4～問6）	15
2.2.5 交通手段および地域の交通体系のあり方について（問7～問10）	20
2.2.6 農地の今後のあり方について（問11）	22
2.2.7 近隣地域の農産物について（問12～問14）	24
2.2.8 みどりを守るための活動について（問15～問16）	26
2.2.9 石神井川との関わりについて（問17）	27
2.2.10 ポイ捨て及び歩行者喫煙について（問18～問21）	28
2.2.11 市が行う事業について（問22～問25）	30
2.2.12 今後取り組んでみたいこと、市への要望（問26、問27）	32
第3章 事業者アンケート結果	34
3.1 調査概要	34
3.2 調査結果	34
3.2.1 事業所について	34
3.2.2 環境課題の認識について（問1～問2）	36
3.2.3 環境への負荷の実態について（ごみ）（問3～問4）	38
3.2.4 環境負荷の実態について（その他）（問5～問6）	40
3.2.5 取組の状況について（問7～問8）	44
3.2.6 社内での環境への取り組みについて（問9～問15）	54
第4章 農業従事者アンケート結果	59
4.1 調査概要	59
4.2 調査結果	59
4.2.1 回答者自身について	59
4.2.2 営農種・経営形態（問1～問2）	61
4.2.3 農地の今後の活用方法（問3）	62

4.2.4	農業後継者（問4）	64
4.2.5	意欲的な取り組み（問5）	64
4.2.6	農作物の利用用途について（問6）	65
4.2.7	有機堆肥について（問7～問8）	66
4.2.8	今後の環境施策と農地・農業について（問9～問10）	67
第5章	商店者アンケート結果	69
5.1	調査概要	69
5.2	調査結果	69
5.2.1	回答者自身について	69
5.2.2	環境問題に対する考え（問1）	71
5.2.3	環境問題への取り組み（問2）	72
5.2.4	環境の取り組みの公表（問3）	74
5.2.5	農産物の販売（問4）	74
5.2.6	地域での環境保全活動（問5～問7）	75
5.2.7	市の環境保全に対する提案・意見・要望等（問8）	76
第6章	小学生アンケート結果	77
6.1	調査概要	77
6.2	調査結果	77
6.2.1	緑のカーテンについて（問1）	78
6.2.2	通学路や家のまわりの環境（問2）	79
6.2.3	ゴミやポイ捨て（問3）	80
6.2.4	タバコのポイ捨て（問4）	81
6.2.5	環境に関する授業（問5）	82
6.2.6	家での環境教育（問6）	82
6.2.7	環境を守る活動への取り組み（問7）	83
6.2.8	参加したい活動（問8）	84
6.2.9	参加したいと思った理由（問9）	84
6.2.10	散策マップの利用（問10）	84
6.2.10	散策マップの利用（問10）	85
6.2.11	散策マップを使ったことのない理由（問11）	85
6.2.12	キッズISOの認知度（問12）	86
6.2.13	キッズISOへの関心（問13）	86

資料編 アンケート調査票

第1章 はじめに

1.1 調査の目的

西東京市では、平成16年3月に、「西東京市環境基本計画～良好な環境を将来の世代に引き継ぐために～」(以下、「環境基本計画」と記述)を策定した。

環境基本計画の期間は平成16年度から平成25年度の10年間で、5年後に中間見直しを行うこととしている。本アンケートは、中間見直しにあたり、前期5年間における環境基本計画の進捗状況や効果測定を確認し、かつ見直し後の環境基本計画に掲げる将来像実現や具体的な施策の検討に役立てることを目的として行った。

1.2 報告書の構成

アンケートは、「一般市民」、「事業者」、「農業従事者」、「商店者」、「小学生」の5種類の主体を対象に実施した。報告書は計6章から構成されており(本章を含む)2章以降にアンケート結果を掲載している。

- ・ 第2章：一般市民アンケート結果
- ・ 第3章：事業者アンケート結果
- ・ 第4章：農業従事者アンケート結果
- ・ 第5章：商店者アンケート結果
- ・ 第6章：小学生アンケート結果

第2章 一般市民アンケート結果

2.1 調査概要

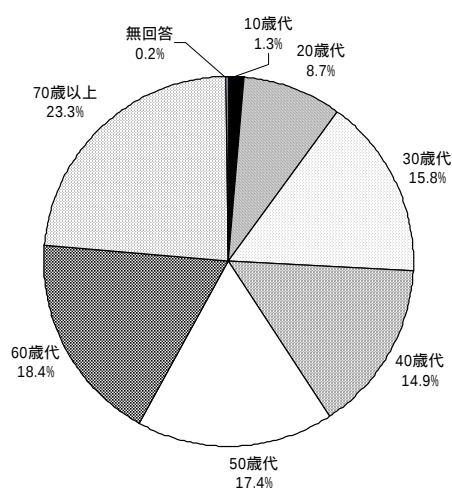
対象者	西東京市在住の18歳以上の市民 159,491人 (平成19年10月1日現在)
サンプル数	2,000人(無作為抽出)
調査期間	平成19年10月5日～平成19年10月17日
調査方法	調査票の郵送配布・郵送回収法
有効回答数(割合)	847(42.4%)

2.2 調査結果

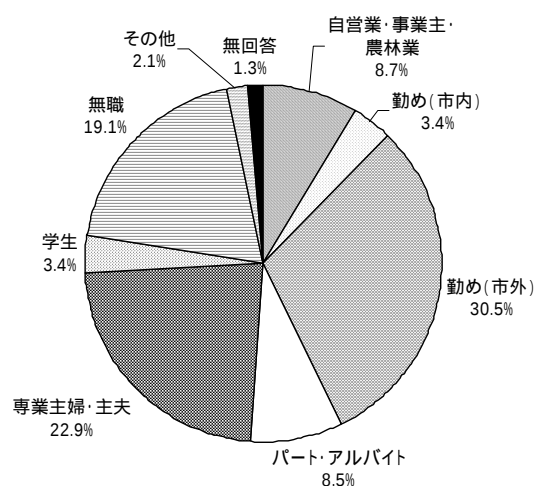
回答総数(n)は、明記されているもの以外はすべて847である。割合(各回答の百分率)はnを基数として算出し、小数点以下第2位を四捨五入したものである。このため、個々の比率の合計が100.0%にならない場合がある。

2.2.1 回答者自身について

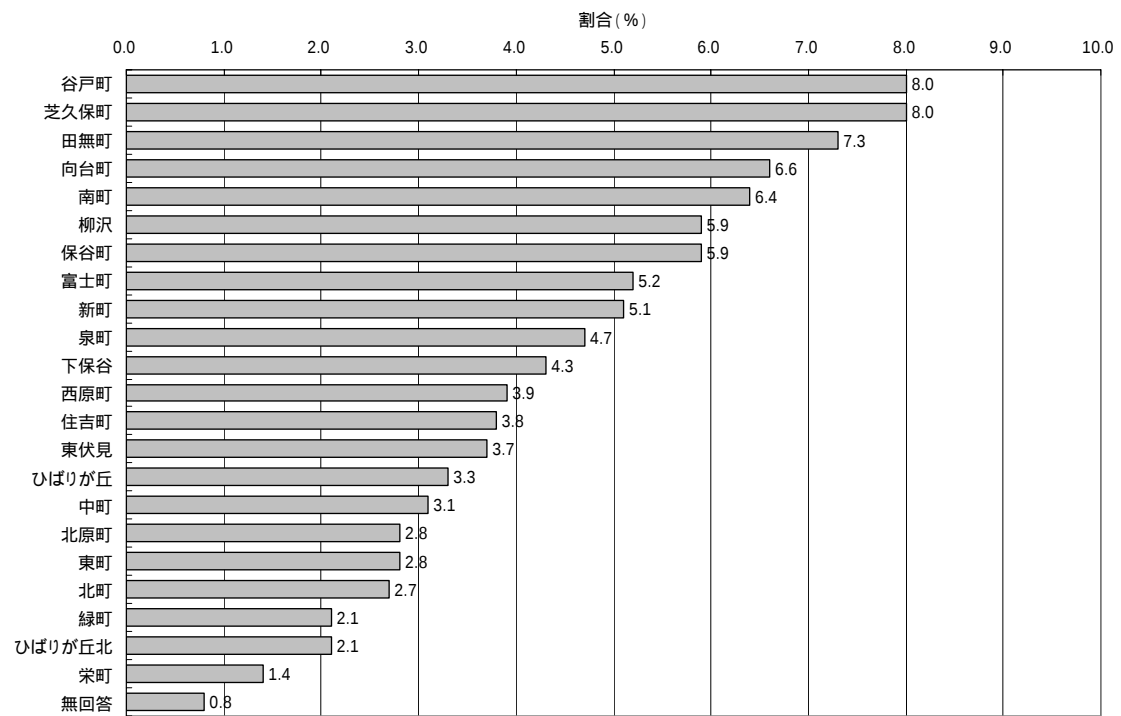
年代



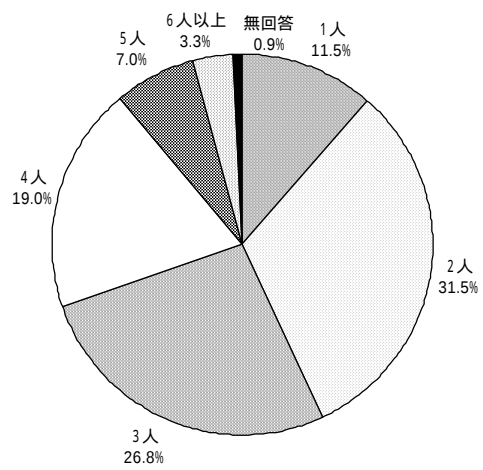
職業



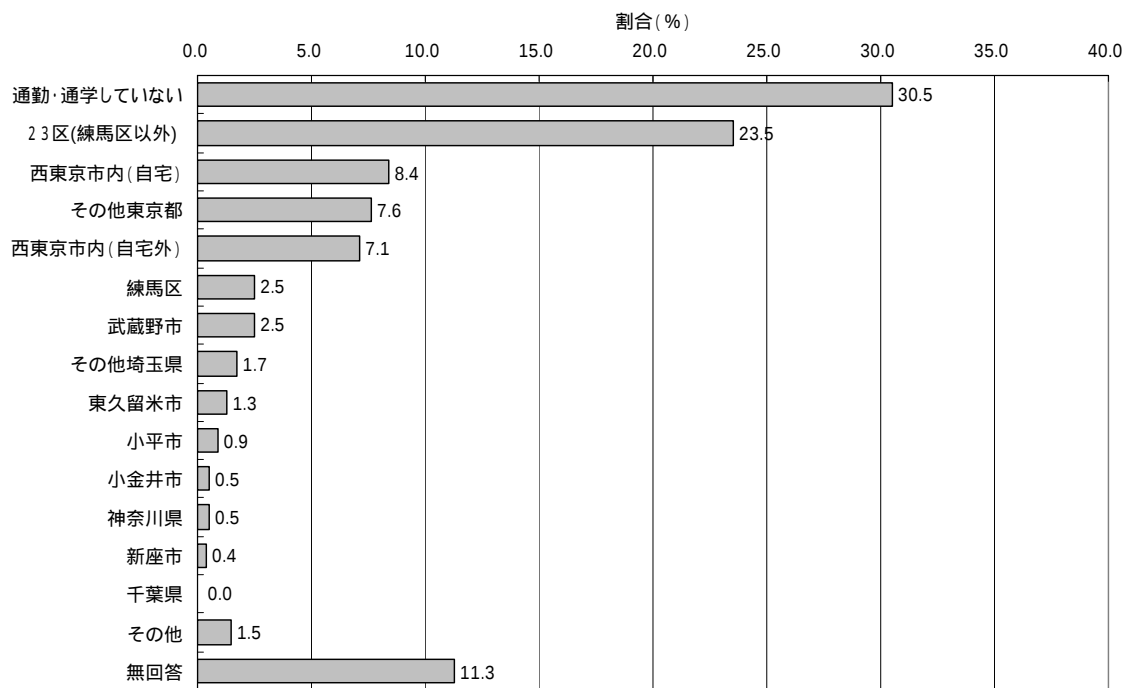
住まいの地域



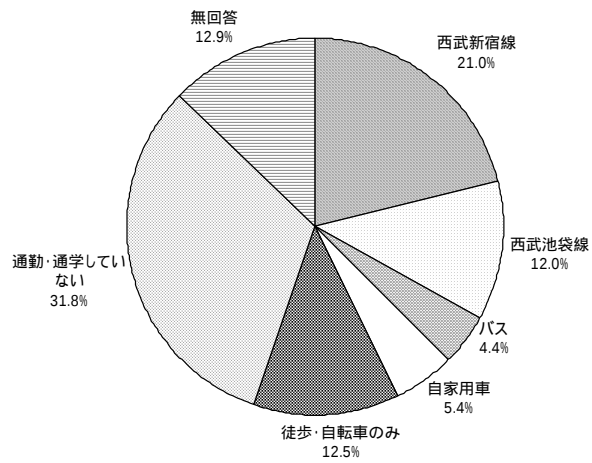
家族の人数



通勤・通学地

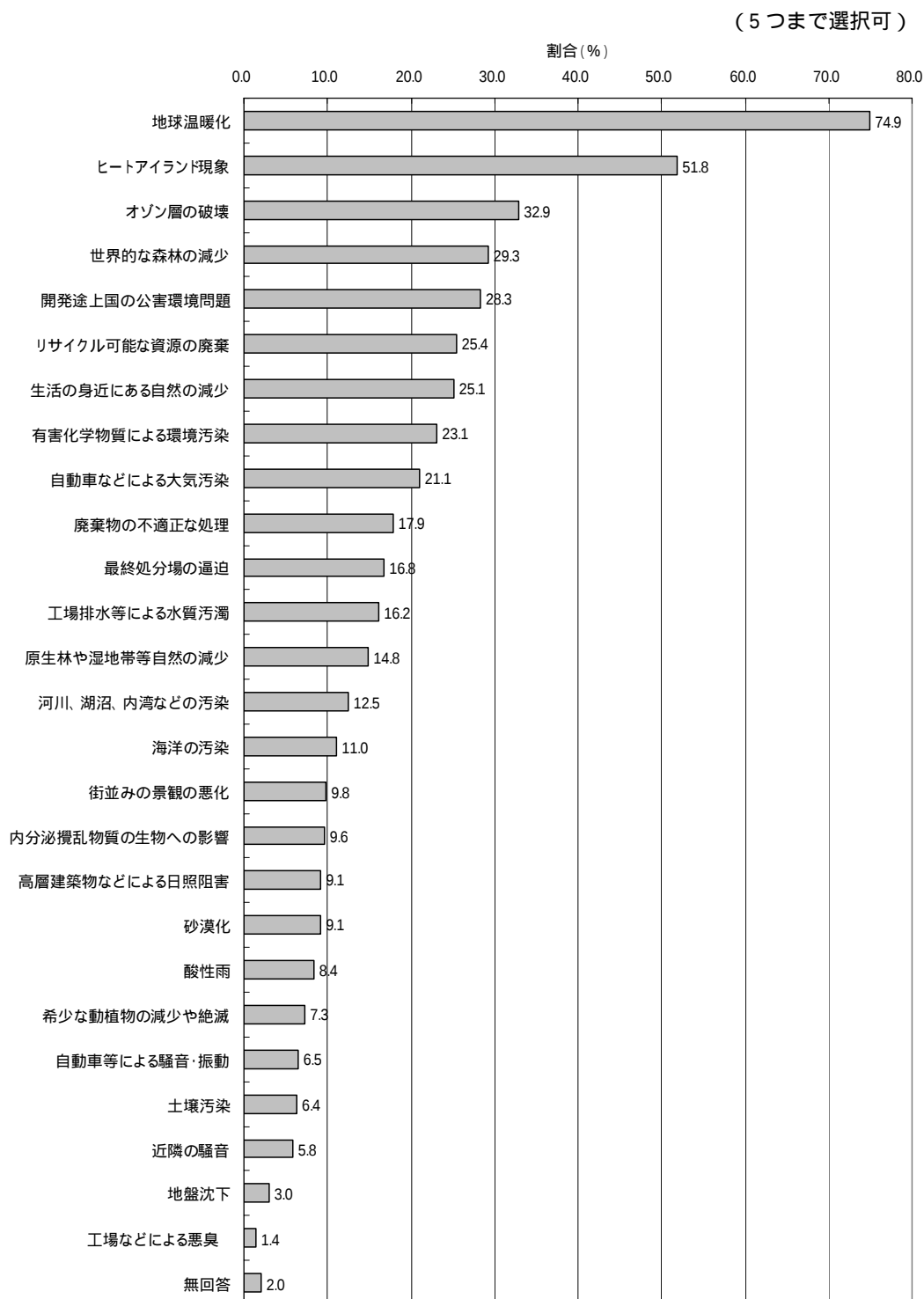


通勤・通学手段



2.2.2 課題となる環境課題（問1）

優先的に解決していくべき環境問題として、「地球温暖化」が最も多く（74.9%）、「ヒートアイランド現象」（51.8%）、「オゾン層の破壊」（32.9%）と続いている。前回のアンケート（平成14年実施）と比べると、「世界的な森林の減少」（20.9%→29.3%）、「開発途上国の大気汚染や水質汚濁などの公害環境問題」（12.7%→28.3%）が大きく伸びていた。



【 年代別の回答 】

表 年代別の回答（１位～１０位）

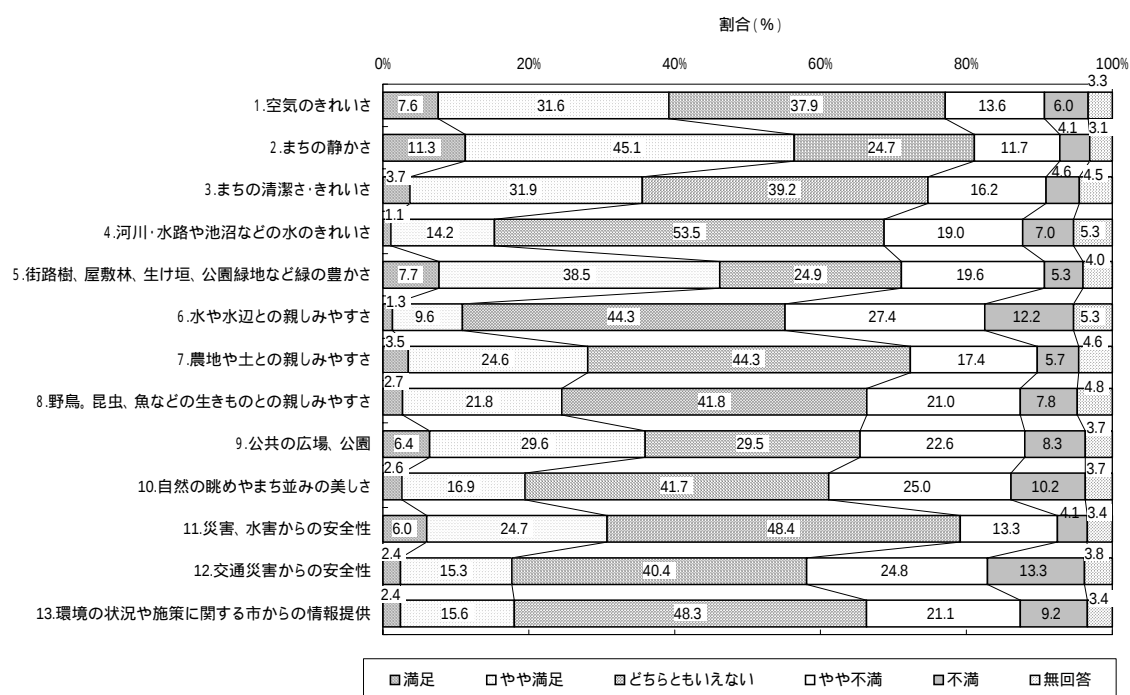
	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳 以上
1 位	地球温暖化	地球温暖化	地球温暖化	地球温暖化	地球温暖化	地球温暖化	地球温暖化
2 位	ヒートアイ ランド現象	ヒートアイ ランド現象	ヒートアイ ランド現象	ヒートアイ ランド現象	ヒートアイ ランド現象	ヒートアイ ランド現象	ヒートアイ ランド現象
3 位	リサイクル 可能な資源 の廃棄	世界的な森 林の減少	オゾン層の 破壊	オゾン層の 破壊	オゾン層の 破壊	開発途上国 の公害環境 問題	開発途上国 の公害環境 問題
4 位	オゾン層の 破壊	リサイクル 可能な資源 の廃棄	世界的な森 林の減少	有害化学物 質による環 境汚染	生活の身近 にある自然 の減少	オゾン層の 破壊	生活の身近 にある自然 の減少
5 位	自動車など による大気 汚染	開発途上国 の公害環境 問題	開発途上国 の公害環境 問題	世界的な森 林の減少	開発途上国 の公害環境 問題	世界的な森 林の減少	リサイクル 可能な資源 の廃棄
6 位	開発途上国 の公害環境 問題	自動車など による大気 汚染	有害化学物 質による環 境汚染	開発途上国 の公害環境 問題	有害化学物 質による環 境汚染	リサイクル 可能な資源 の廃棄	自動車など による大気 汚染
7 位	河川、湖沼、 内湾などの 汚染	最終処分場 の逼迫	生活の身近 にある自然 の減少	生活の身近 にある自然 の減少	世界的な森 林の減少	廃棄物の不 適正な処理	オゾン層の 破壊
8 位	工場排水等 による水質 汚濁	生活の身近 にある自然 の減少	廃棄物の不 適正な処理	リサイクル 可能な資源 の廃棄	最終処分場 の逼迫	有害化学物 質による環 境汚染	最終処分場 の逼迫
9 位	廃棄物の不 適正な処理	工場排水等 による水質 汚濁	自動車など による大気 汚染	最終処分場 の逼迫	自動車など による大気 汚染	自動車など による大気 汚染	廃棄物の不 適正な処理
10 位	有害化学物 質による環 境汚染	河川、湖沼、 内湾などの 汚染	河川、湖沼、 内湾などの 汚染	廃棄物の不 適正な処理	工場排水等 による水質 汚濁	工場排水等 による水質 汚濁	工場排水等 による水質 汚濁

2.2.3 西東京市の環境について（問2～問3）

西東京市の環境の満足度（問2）

「まちの静かさ」のみ、「満足」および「やや満足」と回答した割合が50%を超えていた。また、「街路樹、屋敷林、生け垣、公園緑地など緑の豊かさ」や「公共の広場、公園などみどりに関する項目は比較的満足度が高かった。

一方、「河川・水路や池沼などの水のきれいさ」や「水や水辺との親しみやすさ」については「やや不満」、「不満」と回答した人が「満足」、「やや満足」と回答した人を超えており、水に関する評価が低いことが分かった。



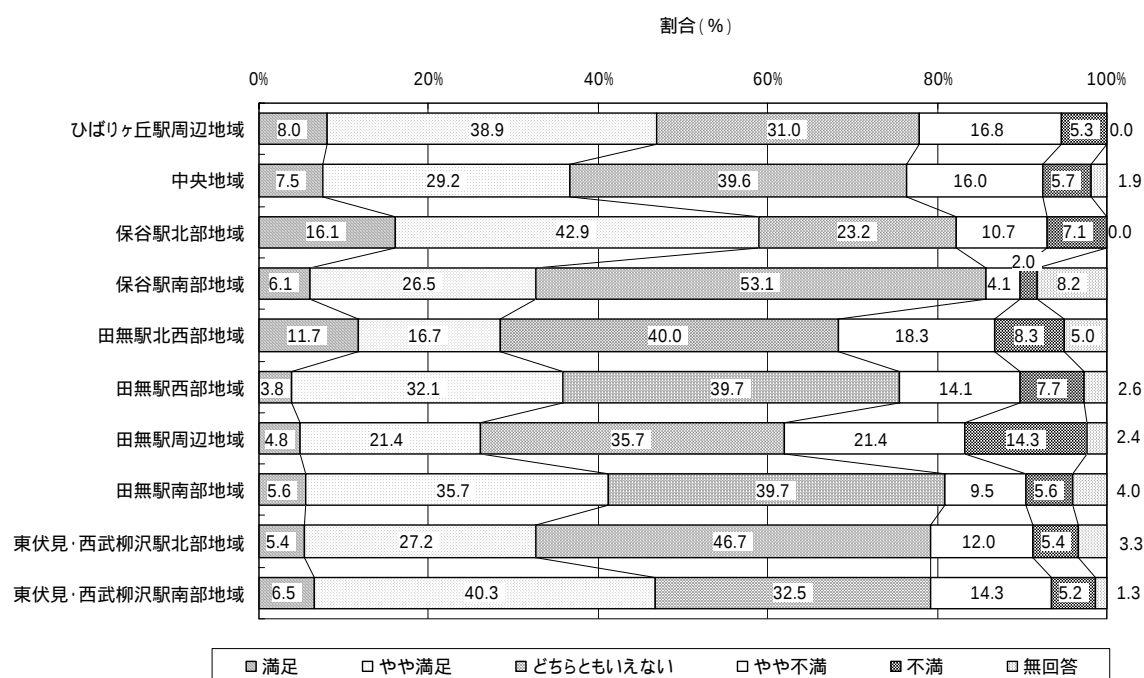
【 地域ごとの回答 】

表 地域の区分と回答者数（n）

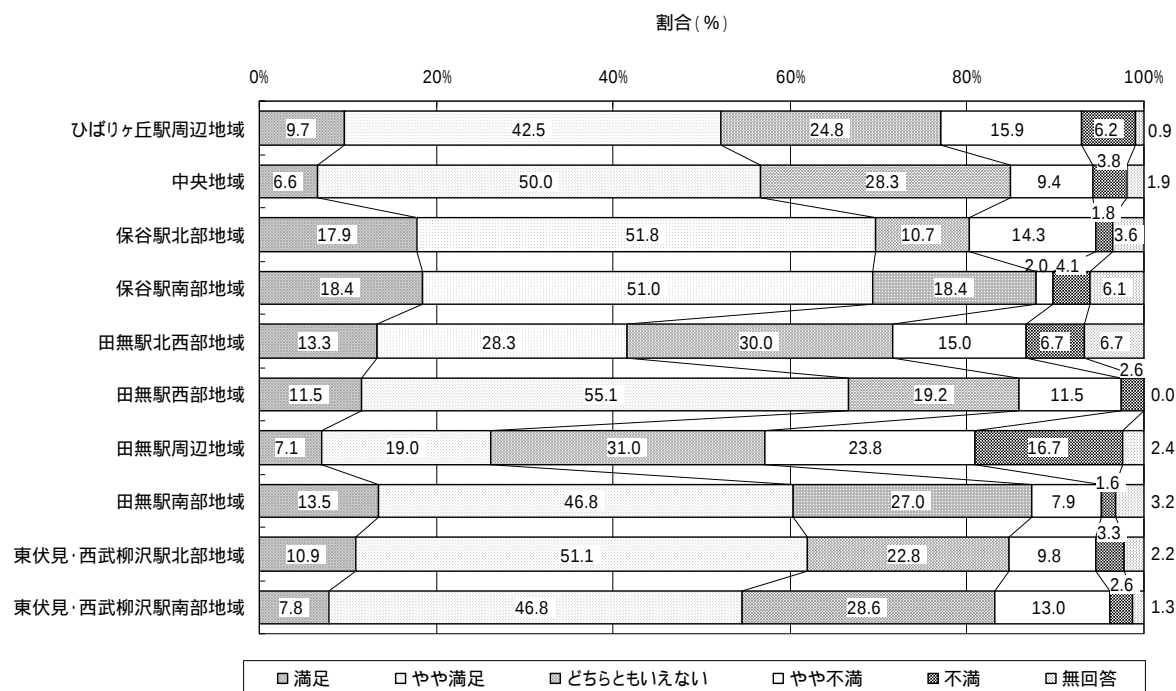
地域区分	該当する地域	回答者数 (n)
ひばりヶ丘駅周辺地域	住吉町 2・3 丁目、ひばりが丘 1～3 丁目、ひばりが丘北 1～4 丁目、栄町 1～3 丁目、緑町 3 丁目、谷戸町 2・3 丁目	113
中央地域	泉町 1～6 丁目、住吉町 1 丁目、住吉町 4～6 丁目、緑町 1・2 丁目、谷戸町 1 丁目、北原町 1～3 丁目	106
保谷駅北部地域	北町 1～6 丁目、下保谷 1～5 丁目	56
保谷駅南部地域	中町 1～6 丁目、東町 1～6 丁目	49
田無駅北西部地域	田無町 7 丁目、西原町 1～5 丁目、芝久保町 4・5 丁目、ひばりが丘 4 丁目	60
田無駅西部地域	田無町 6 丁目、南町 6 丁目、向台町 5・6 丁目、芝久保町 1～3 丁目	78
田無駅周辺地域	田無町 1～5 丁目	42
田無駅南部地域	南町 1～5 丁目、向台町 1～4 丁目、新町 1～6 丁目	126
東伏見・西武柳沢駅北部地域	保谷町 1～6 丁目、富士町 1～6 丁目	92
東伏見・西武柳沢駅南部地域	柳沢 1～6 丁目、東伏見 1～6 丁目	77

（「西東京市都市計画マスタープラン」（平成 16 年 7 月）に記載されている地域区分）

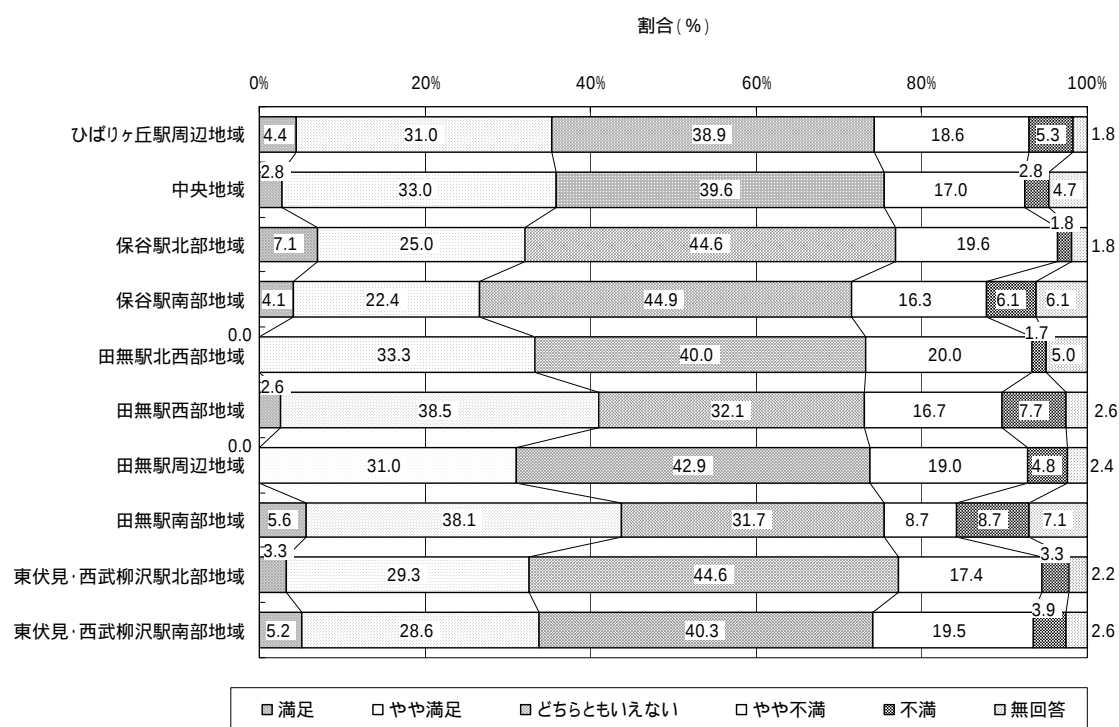
< 空気のきれいさ >



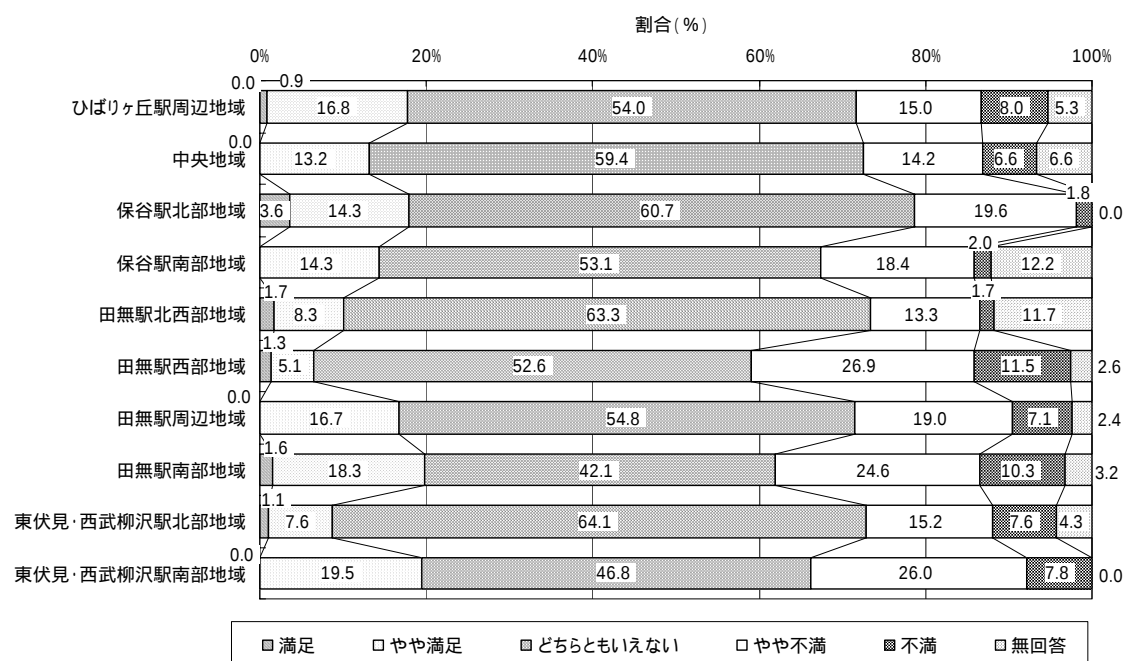
< まちの静かさ >



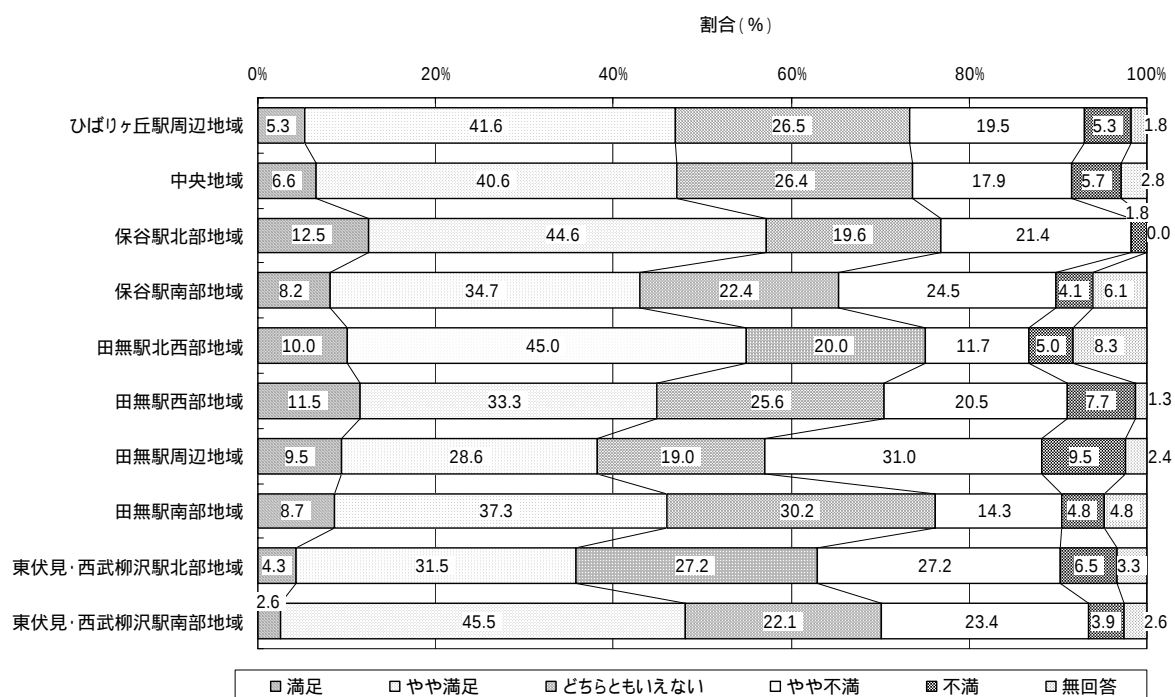
< まちの清潔さ・きれいさ >



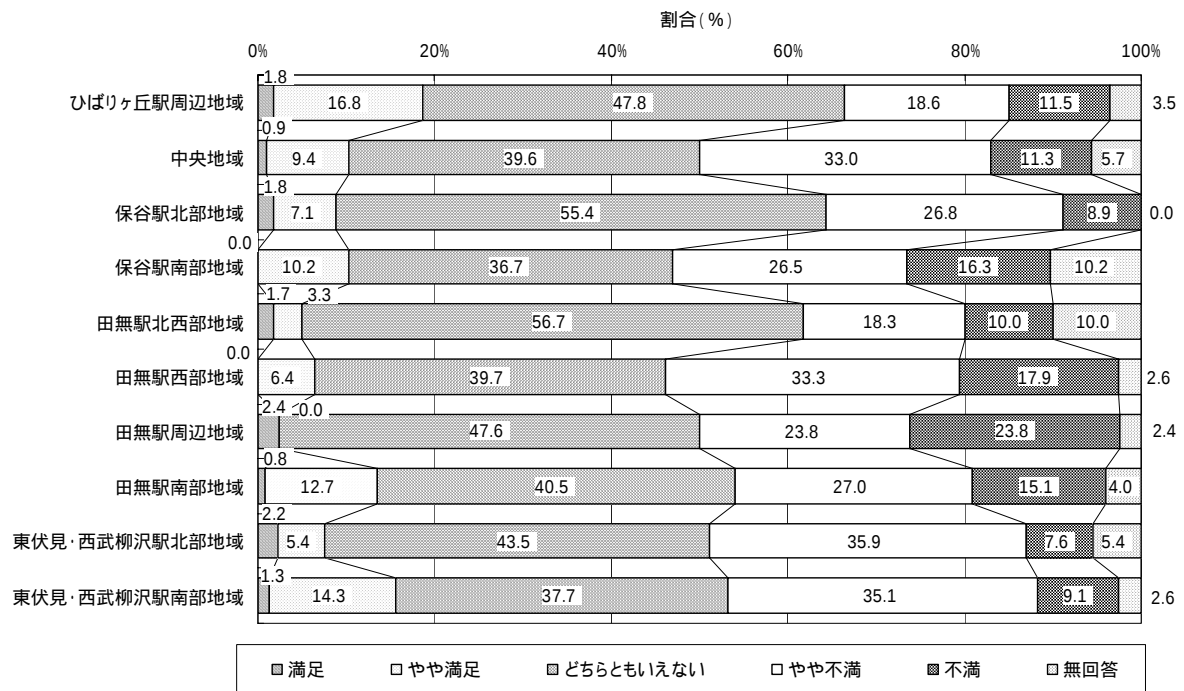
< 河川・水路や池沼などの水のきれいさ >



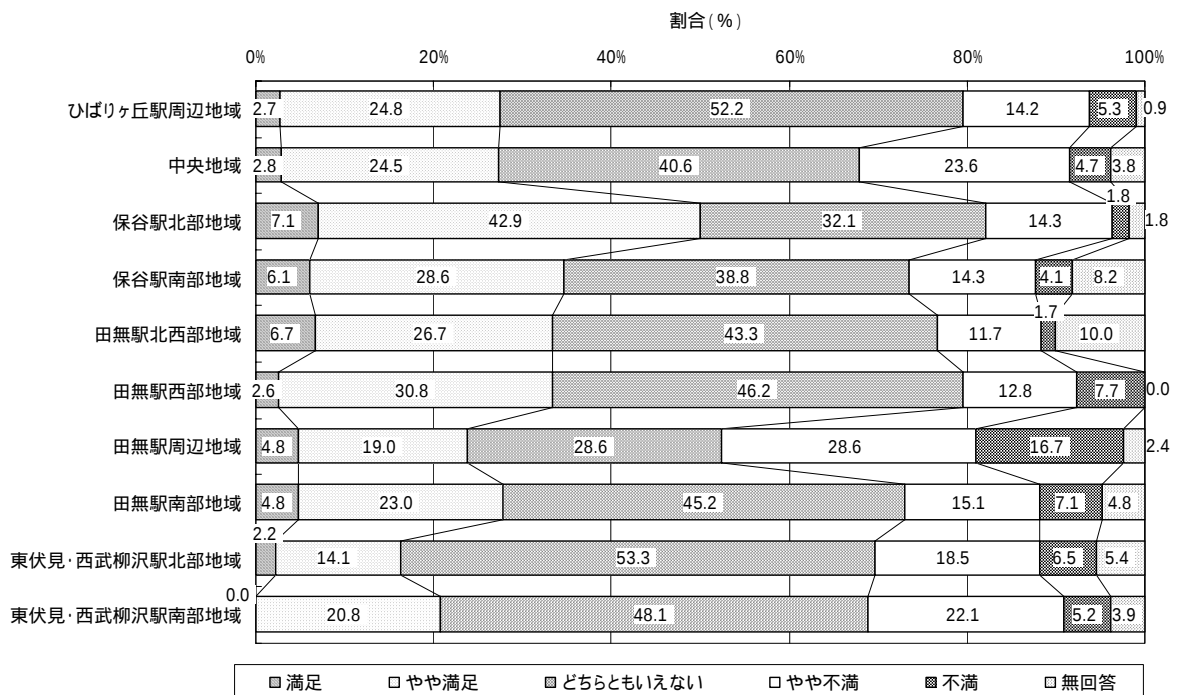
< 街路樹、屋敷林、生け垣、公園緑地など緑の豊かさ >



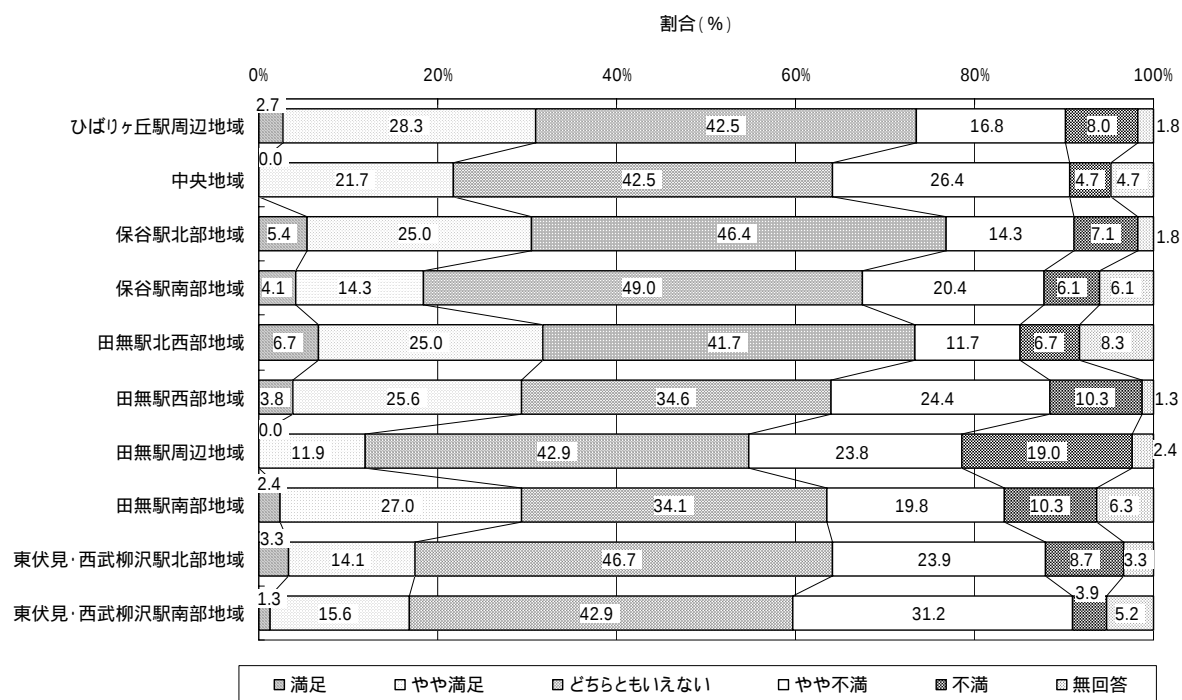
< 水や水辺との親しみやすさ >



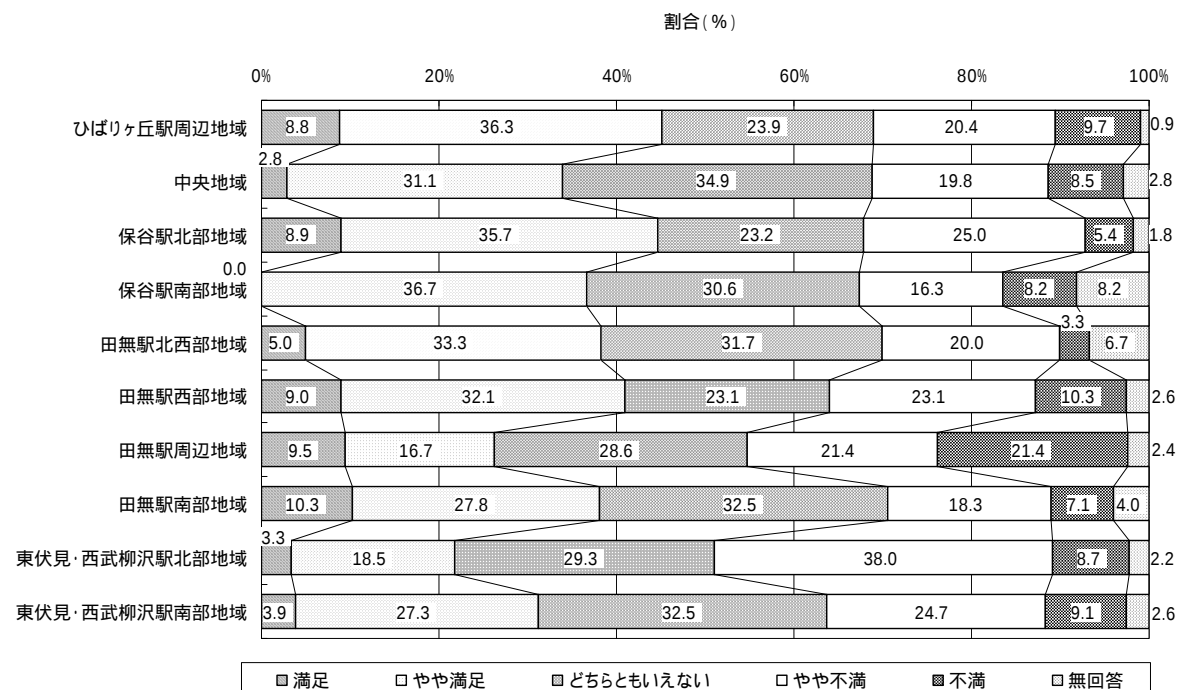
< 農地や土との親しみやすさ >



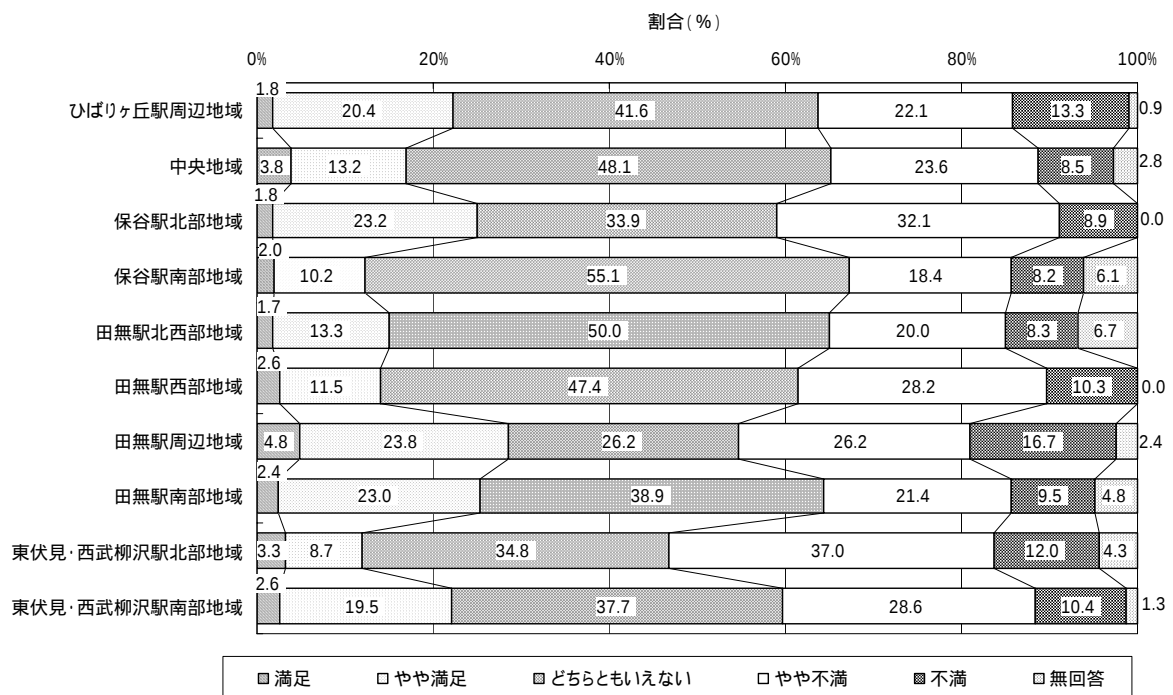
< 野鳥、昆虫、魚などの生きものとの親しみやすさ >



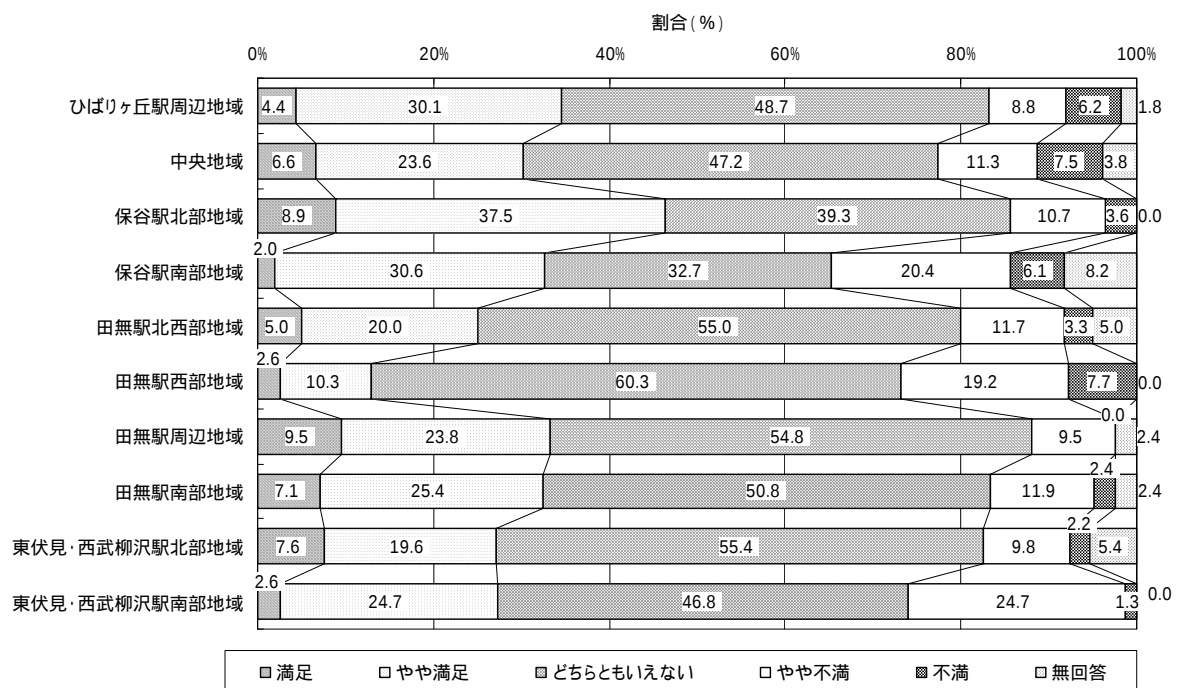
< 公共の広場・公園 >



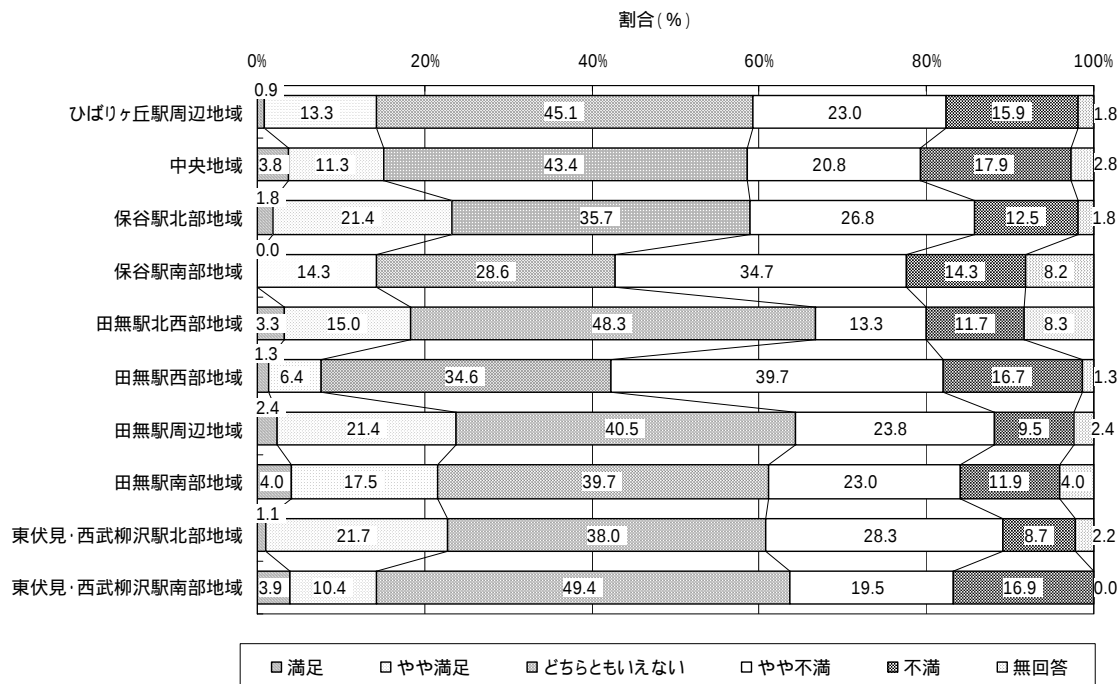
< 自然の眺めやまち並みの美しさ >



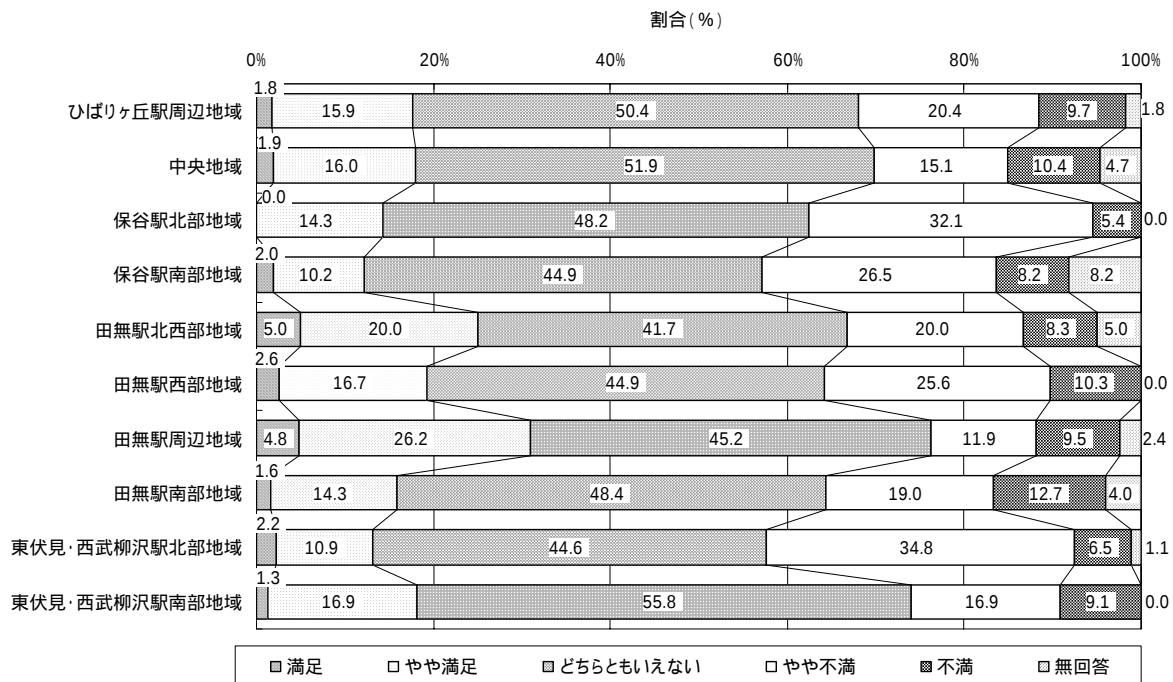
< 災害、水害からの安全性 >



< 交通災害からの安全性 >

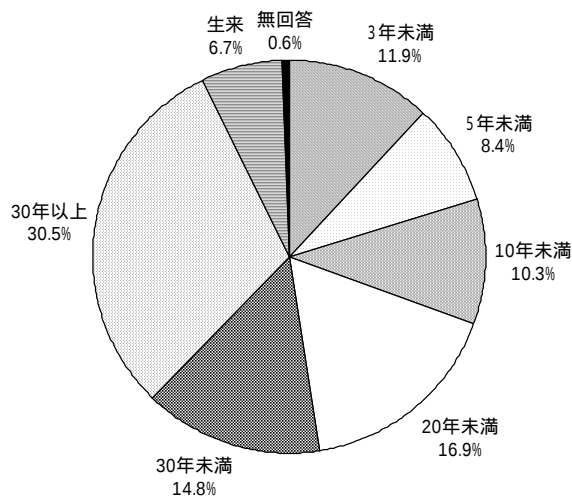


< 環境の状況や施策に関する市からの情報提供 >



居住年数（問3）

「30年以上」が最も多く（30.5%）、「20年未満」（16.9%）、「30年未満」（14.8%）と続いている。居住年数が10年以上の回答者が60%以上であった。

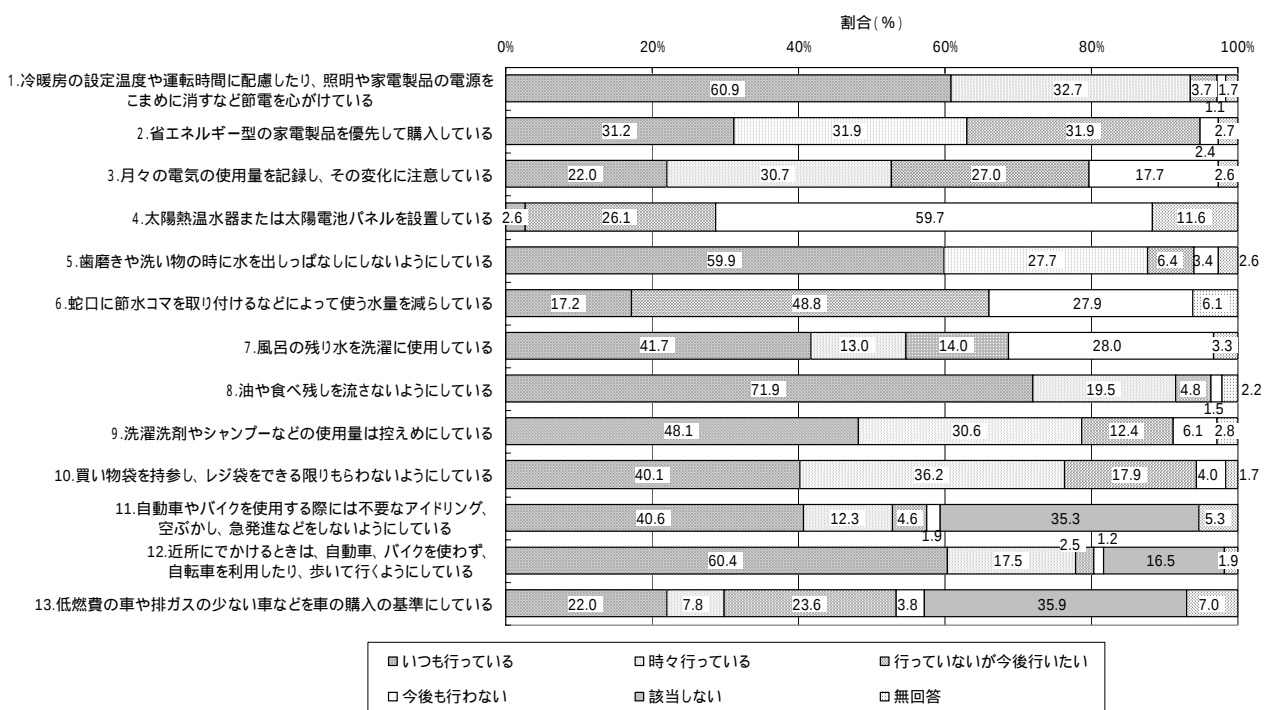


2.2.4 日常の行動について（問4～問6）

家庭での取り組み（問4）

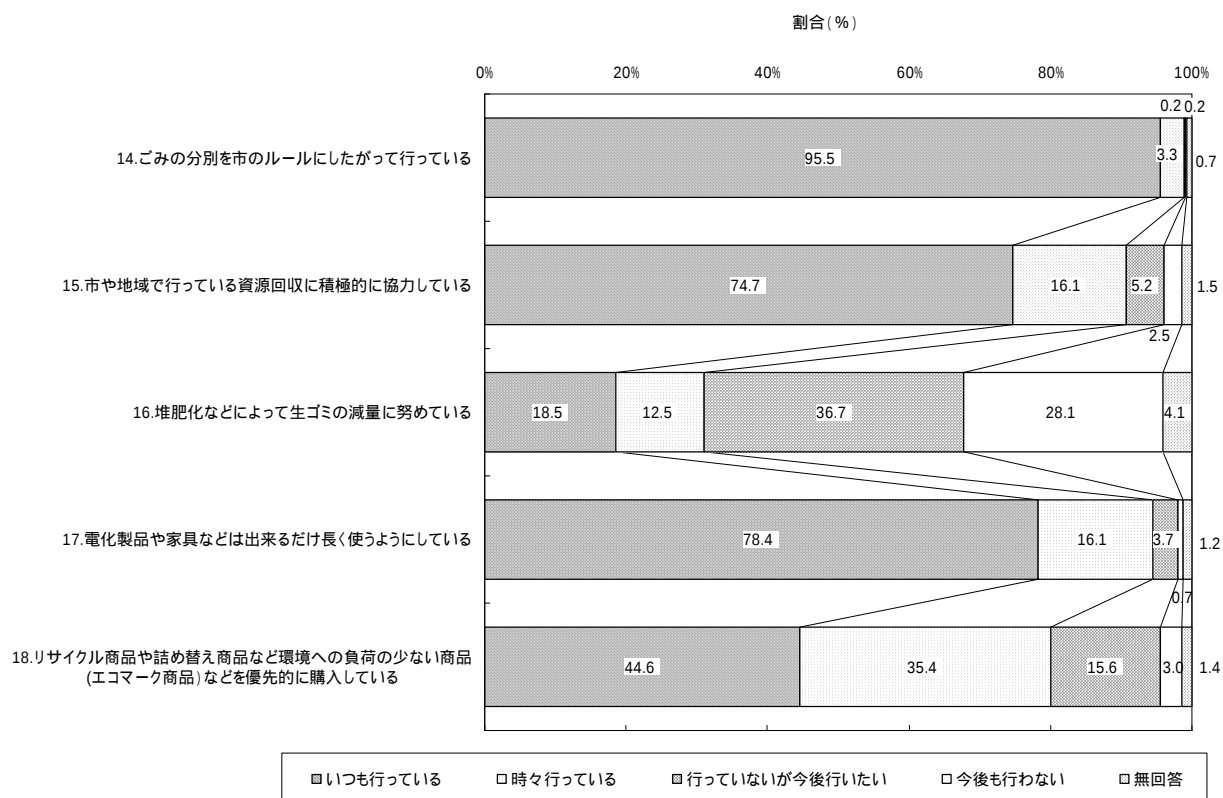
<地球温暖化・ヒートアイランド>

日常生活の中で心がけることによって行うことのできる項目（選択肢1～3、5、7～12）は、50%以上の人が「いつも行っている」または「時々行っている」と回答していた。一方で、選択肢4、6、13といった、取り組むために新たに製品などを購入する必要があるものについては比較的取り組みが進んでいなかった。



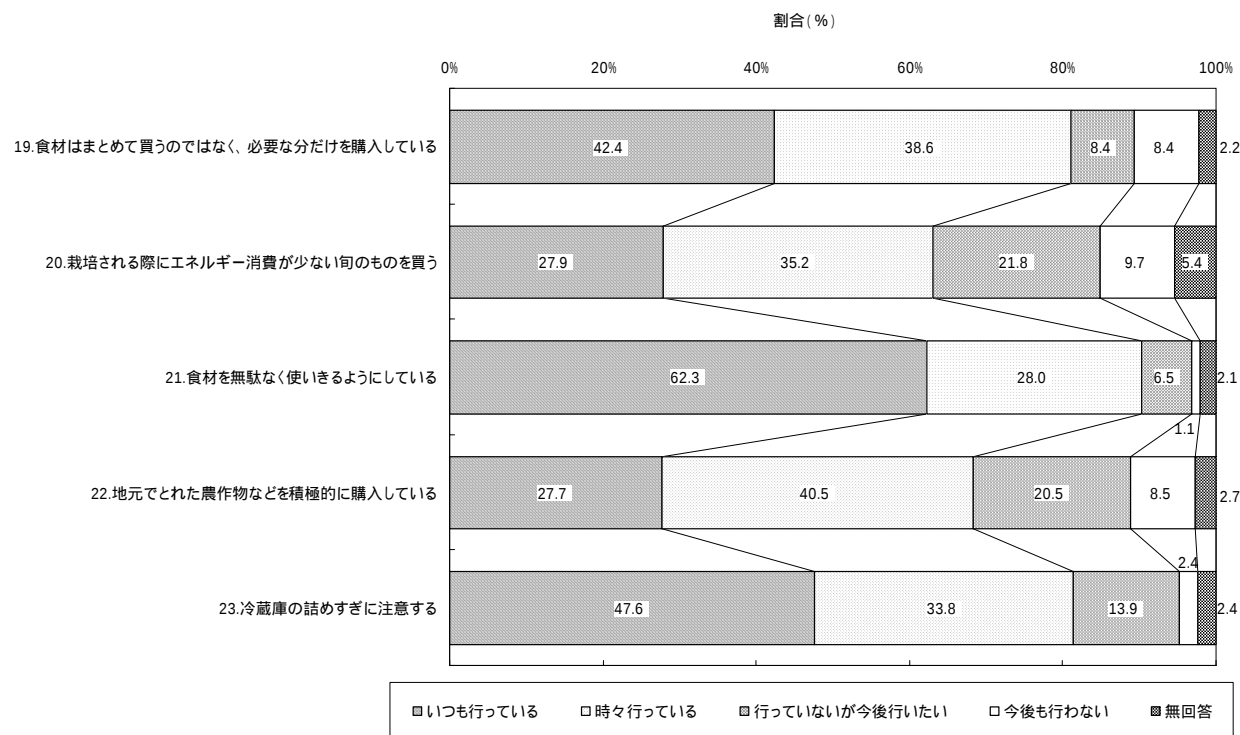
< 廃棄物・リサイクル >

95%以上の人が「ごみの分別を市のルールにしたがって行っている」に対して、「いつも行っている」と回答した。また、80%以上の人が、「市や地域で行っている資源回収に積極的に協力している」に対して「いつも行っている」または「時々行っている」と回答しており、廃棄物・リサイクルに関する市の取り組みが広く行き渡っていることが分かった。



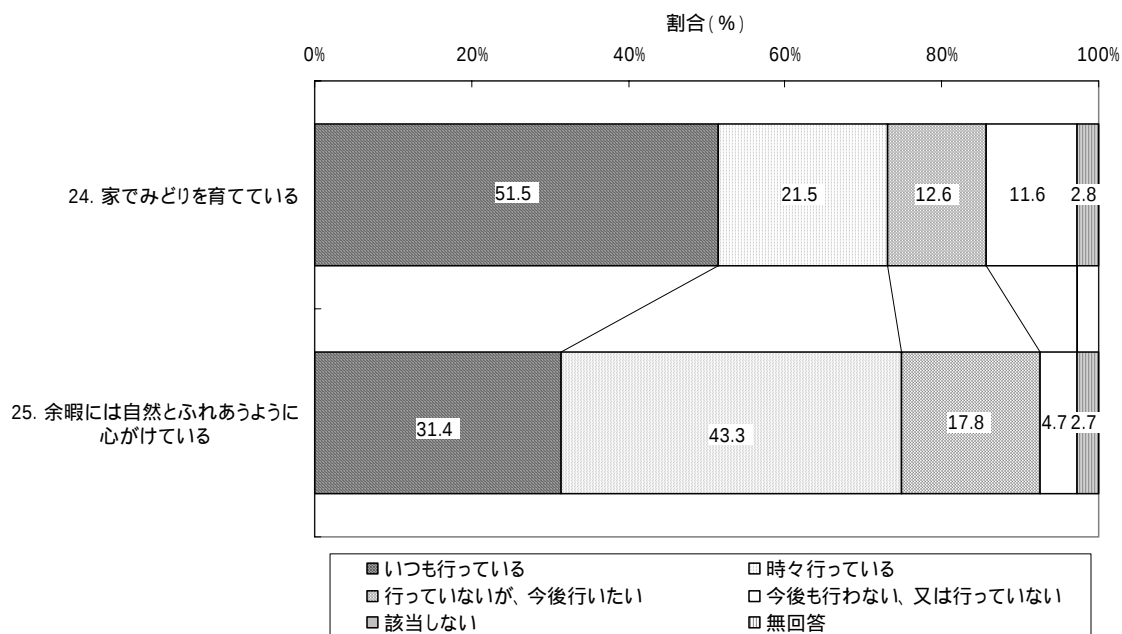
<エコ・クッキング>

すべての項目について、「いつも行っている」または「時々行っている」と回答した人が過半数を超えていた。特に、「食材はまとめて買うのではなく、必要な分だけを購入している」、「食材を無駄なく使いきるようにしている」、「冷蔵庫の詰めすぎに注意する」については、80%以上が「いつも行っている」または「時々行っている」と回答していた。



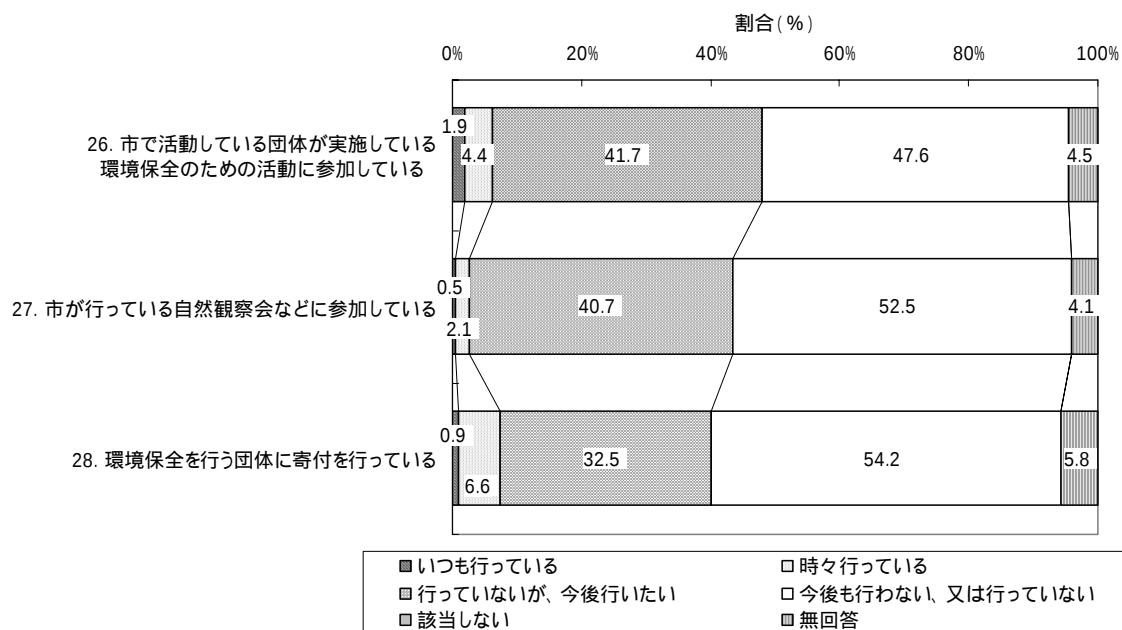
<みどり>

どちらの項目についても、70%以上の人々が、「いつも行っている」または「時々行っている」と回答していた。特に、「家でみどりを育てている」については、50%以上の回答者が「いつも行っている」と回答した。



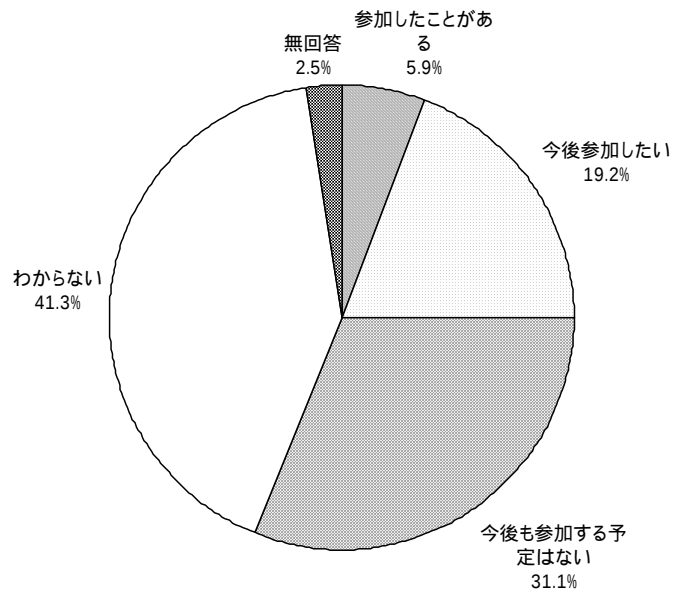
<団体活動への参加>

すべての項目について、「いつも行っている」または「時々行っている」と回答した人は、10%未満であった。特に、「環境保全を行う団体に寄付を行っている」、「市が行っている自然観察会に参加している」については、過半数が「今後も行わない」と回答していた。



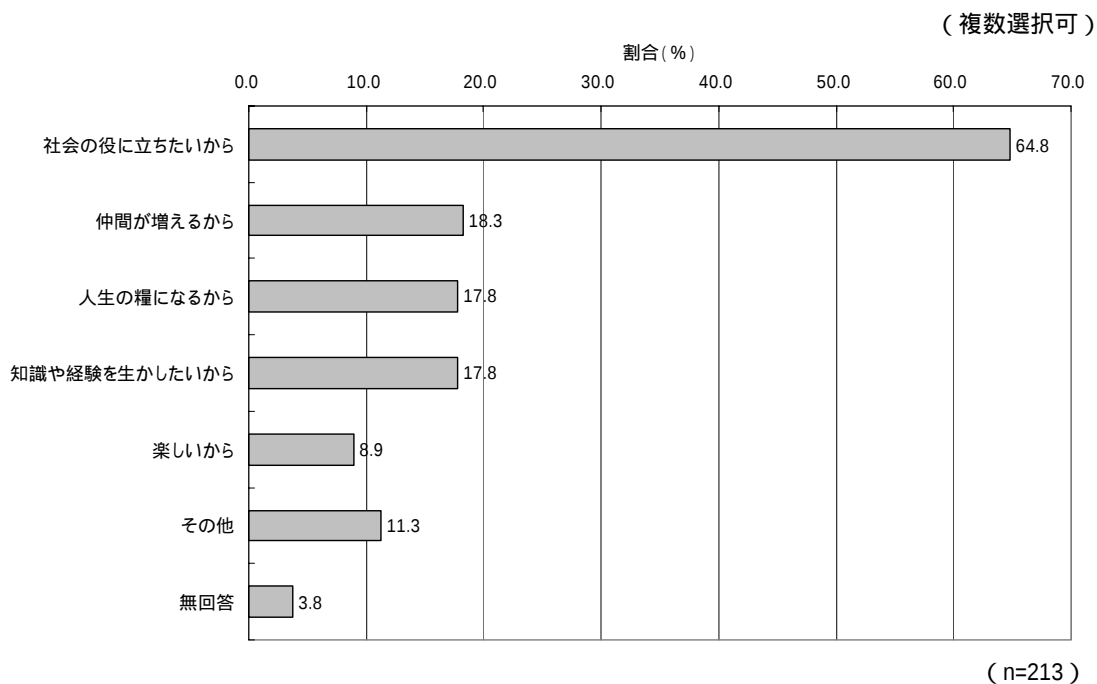
地域での環境保全活動の参加経験（問5）

「わからない」という回答が最も多く（41.3%）、「今後も参加する予定はない」（31.1%）と続いている。「参加したことがある」と回答した人は5.9%であった。



環境保全活動に参加したいと思う理由（問6）

約3分の2の人が「社会の役に立ちたいから」と回答した。「仲間が増えるから」（18.3%）、「人生の糧になるから」（17.8%）、「知識や経験を生かしたいから」（17.8%）の順に続いている。



その他の意見としては、自分の街を自分たちで守りたいというもの、将来のことを考えて参加したいというものが多くみられた。

【 自由意見 】

■ 自分たちの街を自分たちで守りたい

- ・自分の街を大事にしたい。
- ・自分の住んでいる所だから。
- ・自分達の周りの環境を良くするのは当たり前のことだから。
- ・税金を使わずに市民の力で出来ることをしたい。
- ・地域の環境を守って行かなくてはいけないと最近強く思うから。

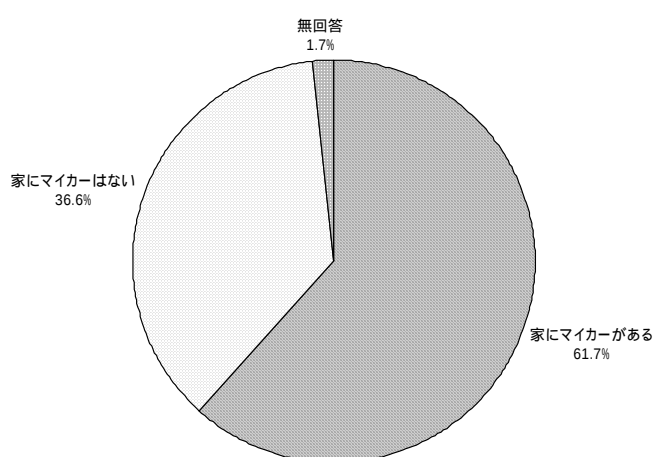
■ 将来の事を考えて参加したい

- ・環境の悪化は困るから。
- ・自然環境が日に日に減少して行くことは忍びないので。
- ・生まれくる子供達のために。
- ・地球全体について危機感を強く抱いている。
- ・未来の子供達のために。
- ・未来の地球のため。

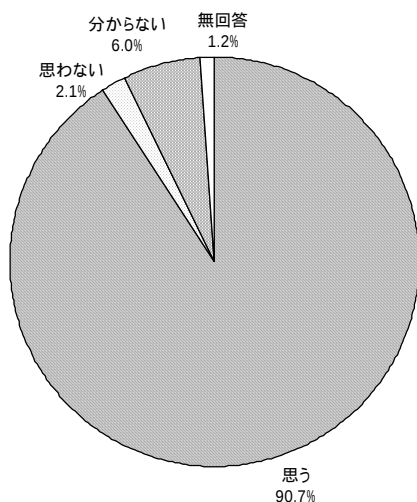
2.2.5 交通手段および地域の交通体系のあり方について（問7～問10）

マイカーの有無、台数（問7）

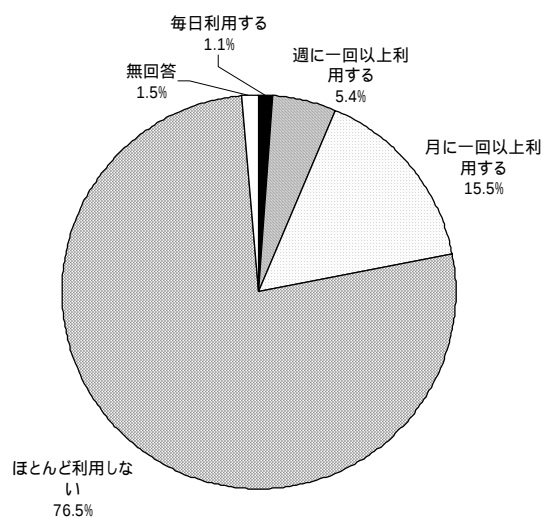
約60%の回答者がマイカーを所有していた。前回のアンケートと比較すると、マイカーを保有している人は4.5%減少し、逆にマイカーを保有していない人が5.8%増加した。



自転車、公共交通機関の利用（問 8）



コミュニティバス（はなバス）の利用頻度（問 9）

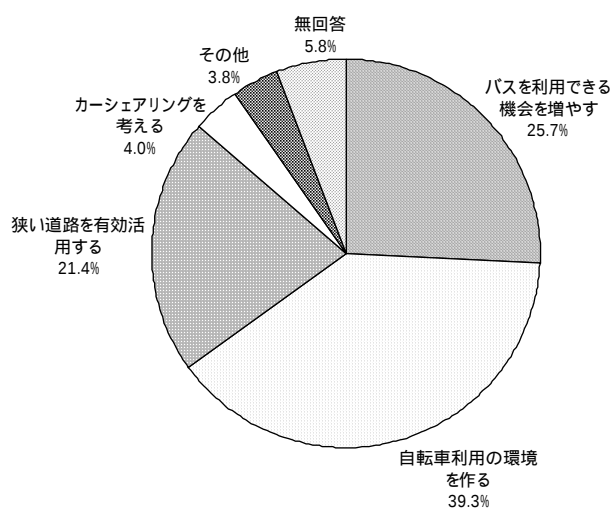


90%を超える回答者が、自転車や公共交通機関を利用した方が環境によいと考えている。

また、はなバスの利用に関しては、約 4 分の 1 の回答者が「利用する」と回答し、その中の約 3 分の 1（全体の 6.5%）が「毎日利用している」または「週に 1 回以上利用している」と回答した。

交通体系のあり方についてまず取りかかるべきもの（問 10）

「自転車利用の環境を作る」と回答した人が最も多く（39.3%）、「バスを利用できる機会を増やす」（25.7%）、「狭い道路を有効活用する」（21.4%）と続いている。



自由意見としては、はなバスの利用環境の向上を望むもの、道路の改善を望むものが多くみられた。

【 自由意見 】

■ はなバスの利用環境の向上

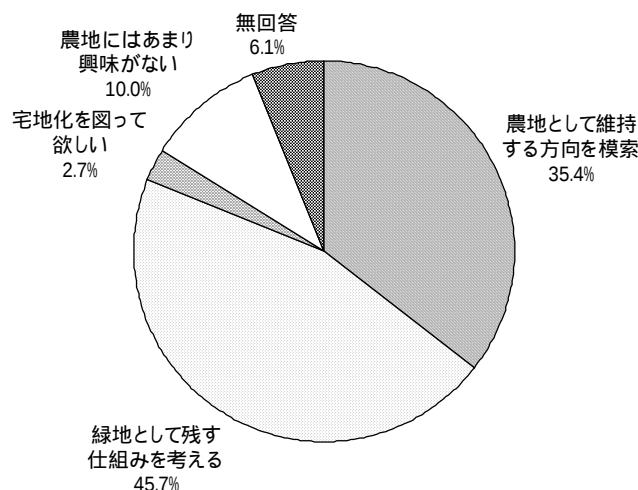
- ・「はなバス」の停留所がない。
- ・「はなバス」は路線バスが通っていない所を運行し、日中は小型バスを走らせる。
- ・家の近所まで来て欲しい。
- ・田無駅から西東京中央病院へ「はなバス」が運転できれば良い。
- ・田無駅への「はなバス」を1日午前午後の2本でもよいので走らせてください。

■ 道路の改善

- ・安全に歩道を歩ける町にして欲しい。
- ・狭い道を広くする。
- ・広い道路網の整備による交通渋滞の緩和。
- ・自転車可の標識がない歩道での自転車通行が多いのは危険だと思う。
- ・田無への交通量集中を減らすための道を整備する。
- ・道路の拡張。
- ・歩道が狭く自転車が乗りづらい。
- ・歩道を自転車に乗っている人が多すぎて歩行者が危ない。
- ・歩道脇の植え込みが高いため、車からは子供や自転車の飛び出しが見えず危険。
- ・開かずの踏切の解消。

2.2.6 農地の今後のあり方について（問 11）

「緑地として残す仕組みを考える」という回答が最も多く（45.7%）、「農地として維持する方向を模索」（35.4%）と続いており、前回のアンケートと同様の傾向がみられた。



農地を維持するための具体的なアイデアとして、以下のものが多く挙げられた。

【 自由意見 】

■ 市民農園、家庭菜園として一般開放

- ・家庭菜園として一般に公開し、募集する。
- ・家庭菜園等の広報を今以上に積極的に行い、農地を維持することの意義を市民に理解してもらう。
- ・市民農園として開放してもらいたい。
- ・農業後継者がいないのなら農地を市民農園などに開放して農地や緑を保存する。

■ 優遇処置をとる

- ・税金などの面で優遇する等。
- ・相続税を減らす。

■ 食育に利用

- ・地域の子供たちが遠足などで農地に触れ、農家の方と交流できたら野菜をもっと身近に感じるのではないか。
- ・幼稚園や小中学校で農地に触れる機会を沢山持った方が良いと思います。食育の一環として。

また、農地として残せなくても緑地として残すためのアイデアとして、以下のものが多く挙げられた。

■ 公園として利用

- ・公園などとし、植林などを沢山行って、もっと緑を多く。
- ・公園にする。
- ・公園にするなど地域の緑地としたり、子供たちが自然と触れあえるような場所として開放して欲しい。
- ・緑の公園や広場など人の集まれる場所がよい。

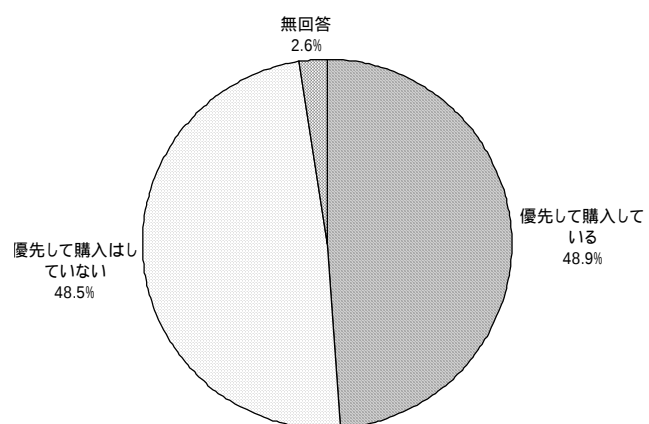
■ 市民への貸し出し

- ・一般市民に農地開放。
- ・貸し農業地として利用したい。
- ・市民農園として市で借り上げ住民に貸し出す。

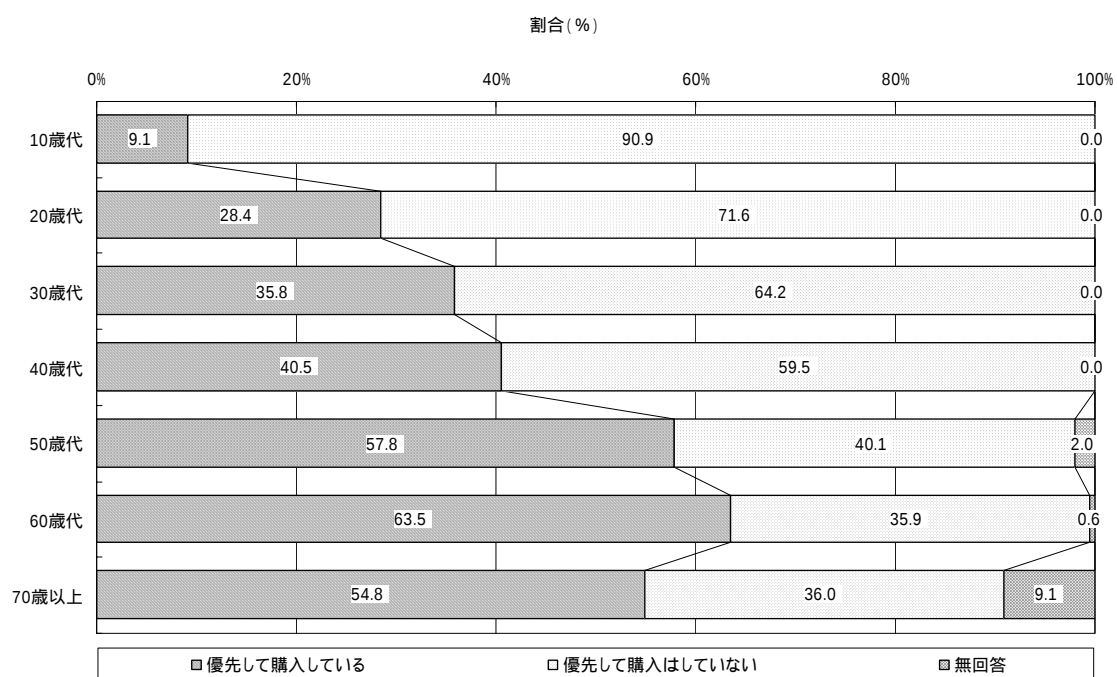
2.2.7 近隣地域の農産物について（問 12～問 14）

近隣地域の農産物の優先的な購入（問 12）

ほぼ半数の人が、「優先して購入している」と回答している。

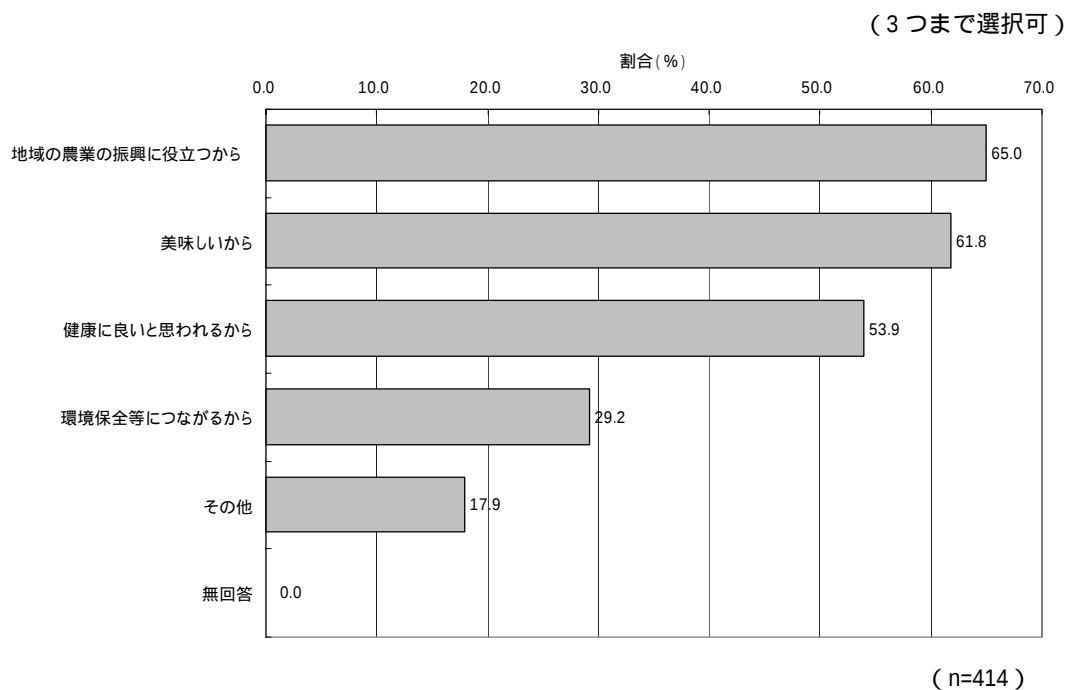


【 年代別回答 】



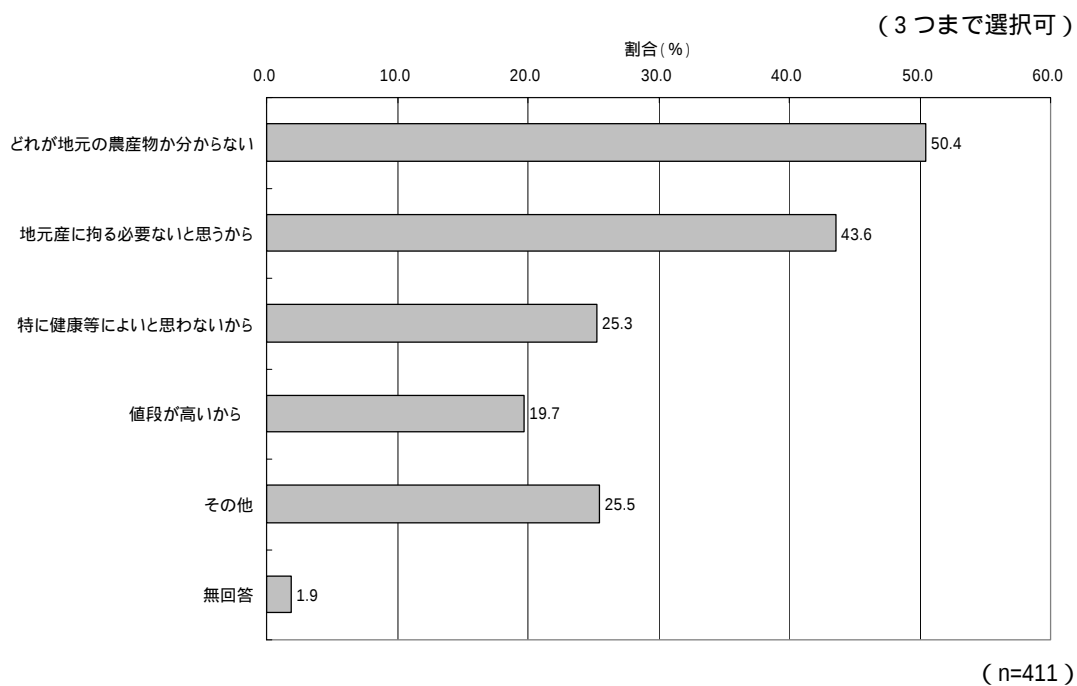
近隣地域の農産物の購入理由（問 13）

約3分の2の人が「地域の農業の振興に役立つから」と回答していた。「美味しいから」（61.8%）、「健康に良いと思われるから」（53.9%）の順となっている。「環境保全等につながるから」と回答した人は29.2%であった。



購入しない理由（問 14）

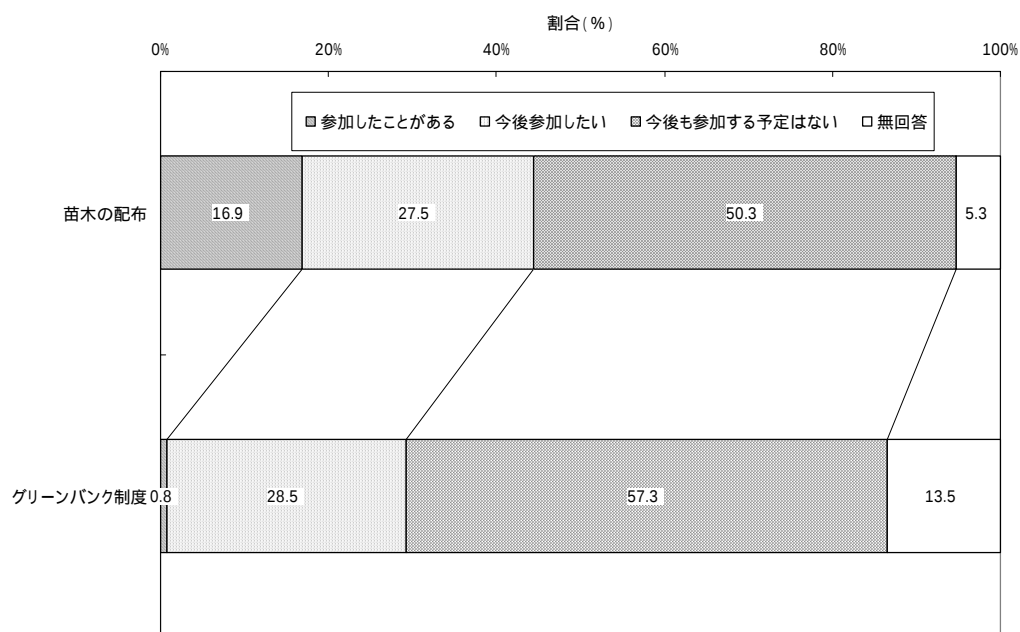
過半数の人が、「どれが地元の農産物が分からない」と回答していた。「地元産に拘る必要がないと思うから」（43.6%）、「特に健康等によいと思わないから」（25.3%）と続いている。



2.2.8 みどりを守るための活動について（問 15～問 16）

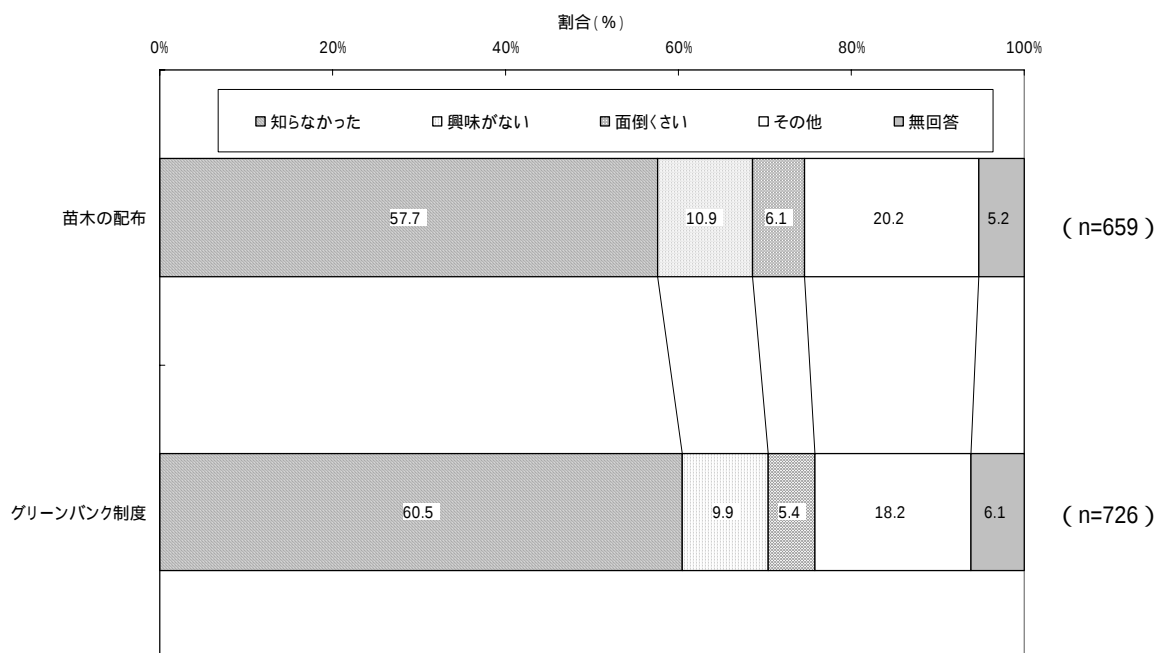
みどりを守るための活動の参加経験（問 15）

「苗木の配布」、「グリーンバンク制度」に参加したことがあると回答した人はそれぞれ 16.9%、0.8%であった。過半数の人が、「今後も参加する予定はない」と回答していた。



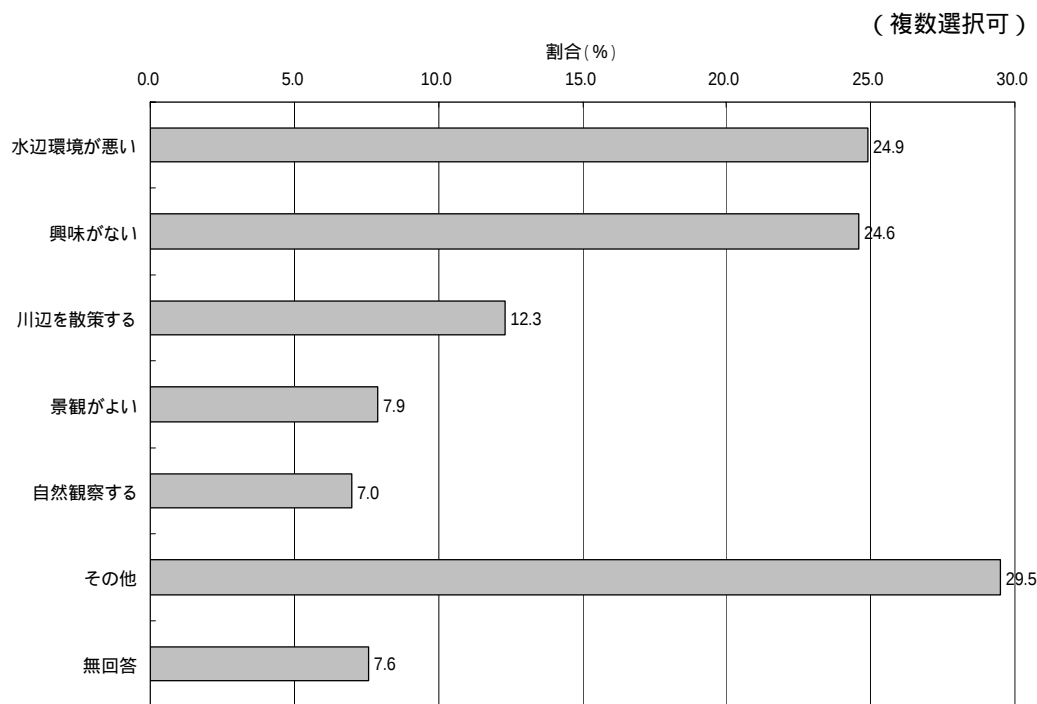
参加したことがない、参加しない理由（問 16）

苗木の配布、グリーンバンク制度ともに半数以上の人が「知らなかった」と回答した。



2.2.9 石神井川との関わりについて（問 17）

石神井川については、「水辺環境が悪い」と回答した人が最も多く（24.9%）、「興味がない」（24.6%）と続いている。一方、「川辺を散策する」、「自然観察する」といった、石神井川と関わりを持つような活動を行っている人は、それぞれ 12.3%、7.0%であった。



その他の意見としても、川が汚れているというものが多くみられた。

【 自由意見 】

■ 川の汚れ

- ・汚い／臭う。
- ・ゴミなど捨てず川を大切にしたい。
- ・川が汚れているので浄化を望む。
- ・川というより排水路。
- ・魚が棲む川に戻してあげたい。
- ・観察、散策する造りではない。
- ・親水できるようにはなっていないが川だとは分かる。

■ 川との関わり

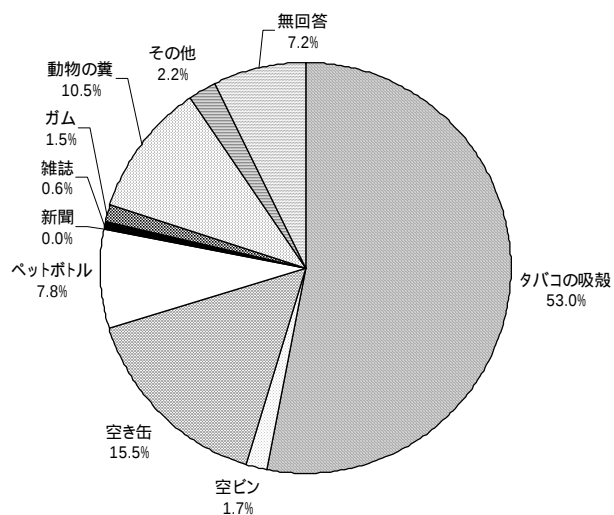
- ・石神井川がどこにあるのか知らない。
- ・行ったことがない／見たことがない。
- ・関わりがない。
- ・分からない。
- ・あまり行かない。

2.2.10 ポイ捨て及び歩行者喫煙について（問 18～問 21）

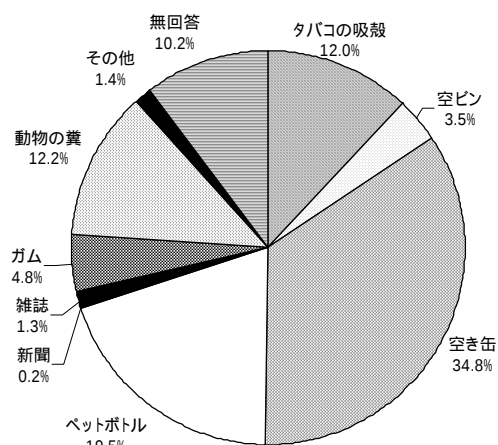
西東京市内でポイ捨てが目立つゴミ、資源物等（問 18）

「タバコの吸い殻」、「空き缶」、「ペットボトル」、「動物の糞」の順に目立つという意見が多くみられた。

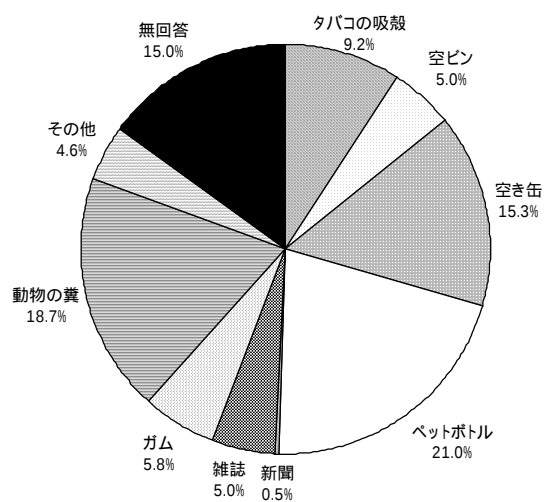
< 1 位 >



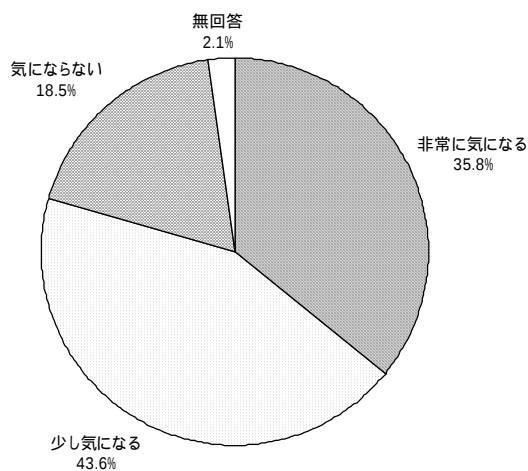
< 2 位 >



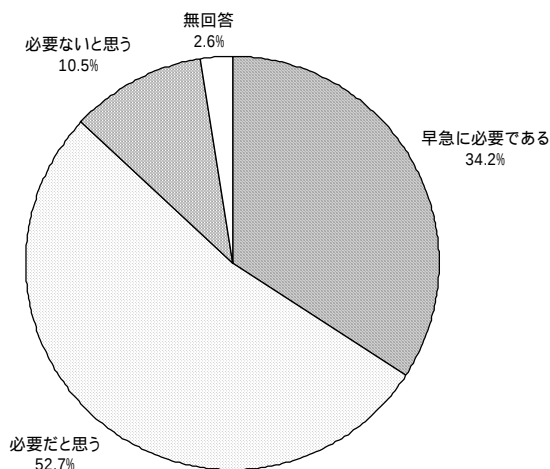
< 3 位 >



歩行喫煙について（問 19）



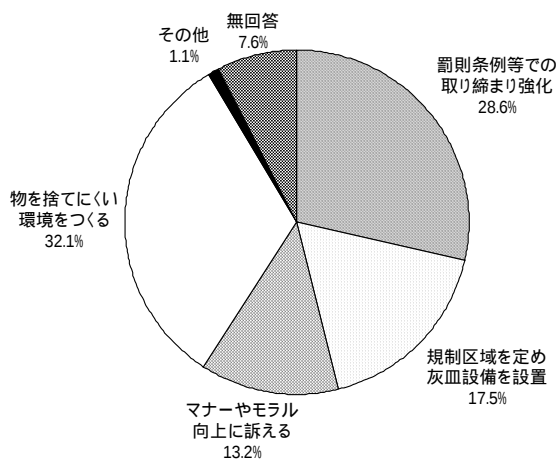
ポイ捨て、歩行喫煙の対策の必要性（問 20）



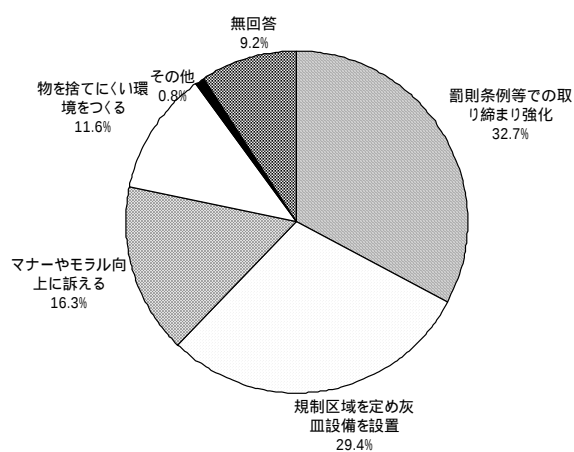
約 80%の人が歩行喫煙に対し、「非常に気になる」または「少し気になる」と回答していた。また、85%を超える人がポイ捨て、歩行喫煙の対策が「早急に必要である」または「必要だと思う」と回答した。

ポイ捨て対策、歩行喫煙対策の方法（問 21）

< ポイ捨ての対策方法 >



< 歩行喫煙の対策方法 >

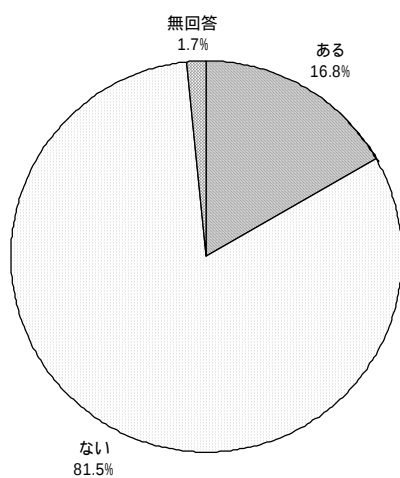


どちらについても、「罰則条例等で取り締まりを強化した方がよい」、「規制区域を定め、灰皿設備を設置する」といった、市が主導して進めていく項目に対する回答が多くみられた。

2.2.11 市が行う事業について（問 22～問 25）

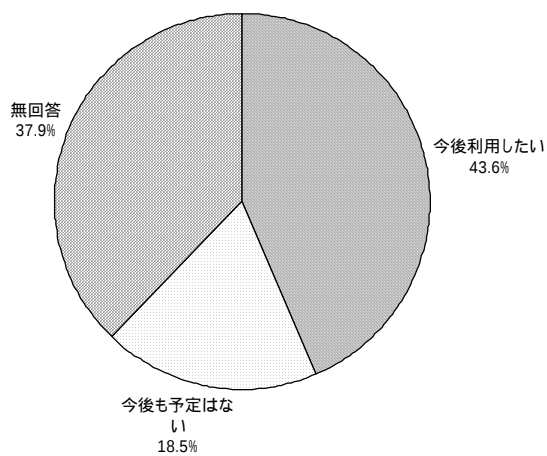
散策マップの利用（問 22）

80%以上の人が、散策マップを利用したことが「ない」と回答した。



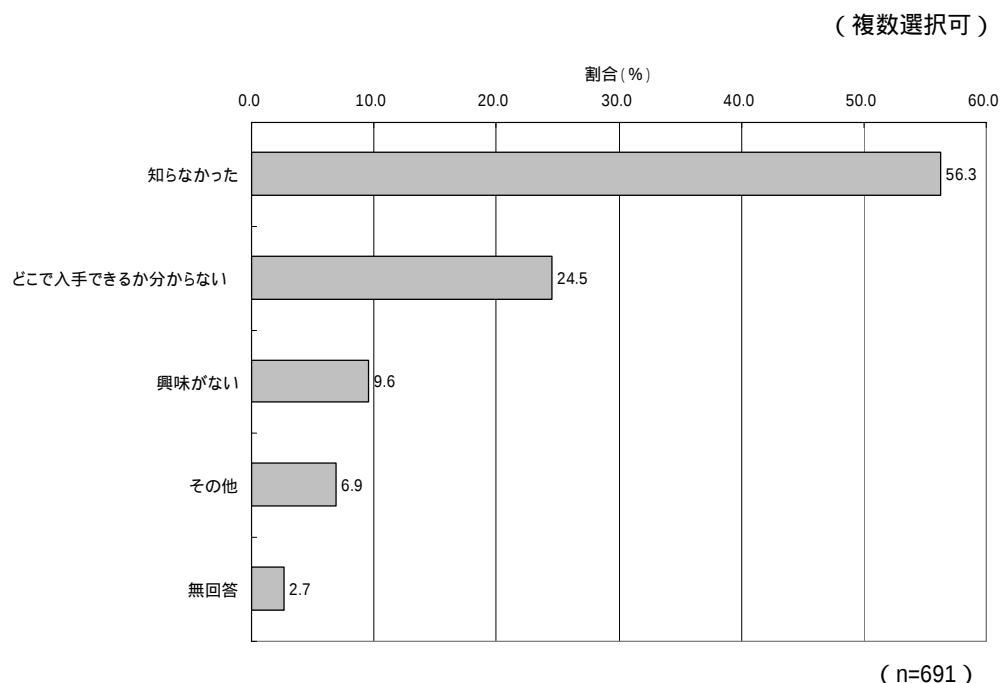
散策マップを利用したことがない人の今後の利用可能性（問 22）

今後利用したいと回答した人（43.6%）が、今後も予定はないと回答した人（18.5%）を大きく上回った。



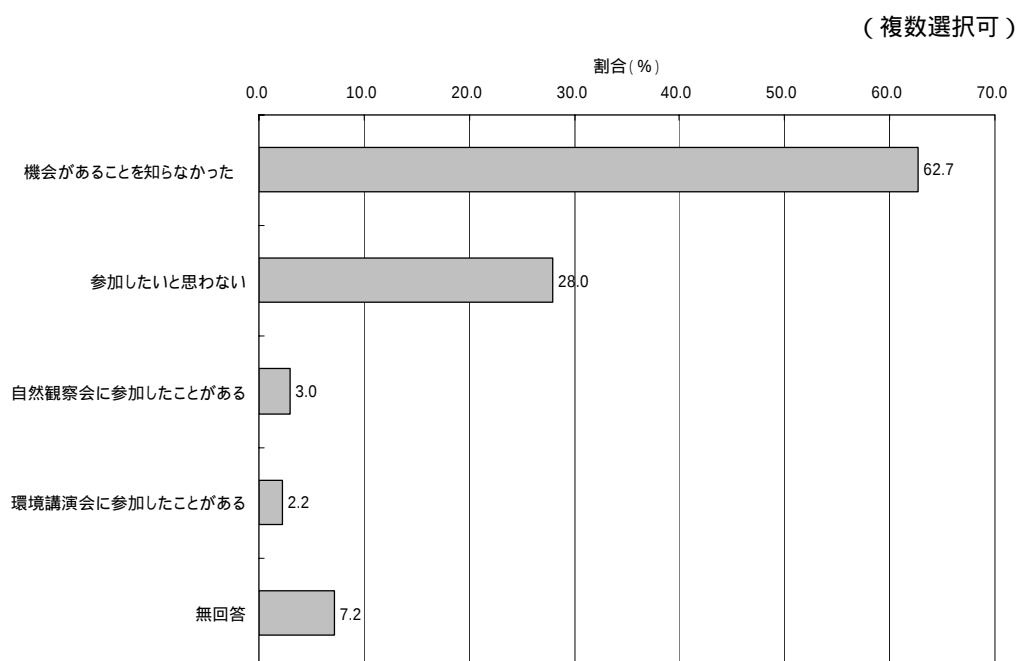
散策マップを利用しない理由（問 23）

「知らなかった」と回答した人が最も多く、半数を超えていた（56.3%）。続いて「どこで入手できるか分からない」が多く（24.5%）、散策マップに関する情報を入手していないという傾向がみられた。



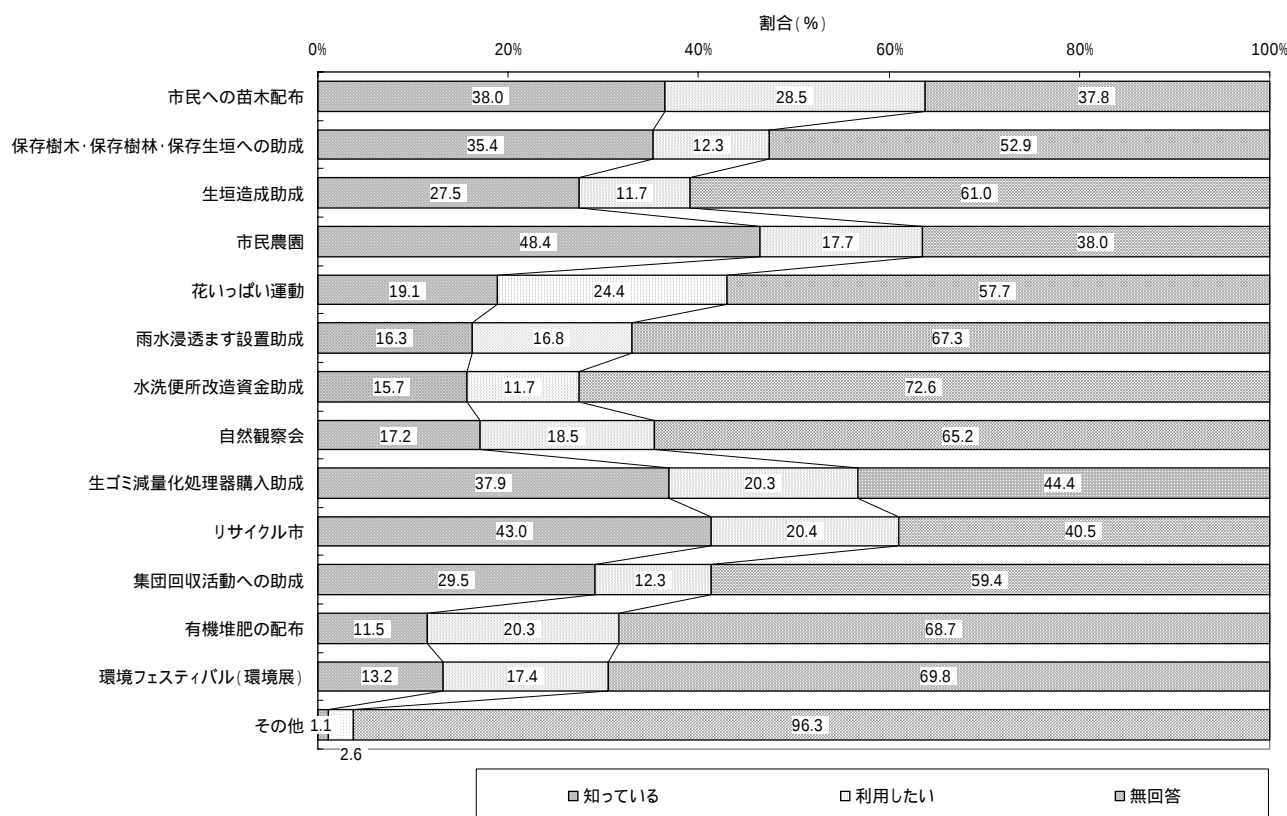
自然観察会、環境講演会の参加経験（問 24）

自然観察会、環境講演会に参加したことがあると回答した人は、それぞれ 3.0%、2.2%に留まった。また、60%を超える人が、「機会があることを知らなかった」と回答していた。



その他の事業（問 25）

「市民への苗木配布」、「保存樹木・保存樹林・保存生垣への助成」、「市民農園」といったみどりに関するもの、また「生ゴミ減量化処理器購入助成」、「リサイクル市」、「集団回収活動への助成」といったゴミの減量・リサイクルに関するものに対して、「知っている」、「利用したい」と回答する人の割合が比較的高かった。



2.2.12 今後取り組んでみたいこと、市への要望（問 26、問 27）

行政や地域と協力して取り組んでみたいこと（問 26）

■ ごみ、リサイクル

- ・まずは区分に従ってごみの分別を徹底することを心がけたい。
- ・ポイ捨てなどのごみ問題。
- ・空き缶やペットボトルなどリサイクル可能な物を 10 円位で回収してくれるといったリサイクル活動があれば取り組みたい。
- ・ゴミの減量推進は必要であるが赤字になっていないのに「ゴミ有料化」になるのは不満である。「分別種類が多い」に「市民に協力してもらおう」＝「資源分別コスト減」＝「有料化しない」となって欲しい。
- ・クリーンな市を目指してください。
- ・リサイクル市をもっとやって欲しい。月 1 回では少ない。個人でやるよりも人が集まるから。

■ 地球温暖化・エネルギー問題

- ・ 今最も気になるのが地球温暖化問題です。個人でできることは何でもやっていきたいと考えています。行政から積極的に広報やサポートしていただくと有難いです。
- ・ 地球温暖化対策にはアンテナを張り巡らせ自分なりに取り組めることを実施していきたい。
- ・ 無駄なエネルギーの消費削減に努めたいと思います。

■ みどり

- ・ 市民農園を増やしてください。
- ・ 街路樹や車道と歩道の間に植木を植えるなどの緑化運動があれば協力したい。
- ・ 緑を増やす事業があれば積極的に参加しようと思います。
- ・ 地域の緑を守るために住人と協力し合って自然環境の確保に取り組むことが大事だと思います。

■ 環境学習、市の PR

- ・ リサイクルの活用についての PR が不足している。
- ・ 分かり易い PR を望む。
- ・ 各自が心優しくなる示唆、教育、PR などが一番と思う。
- ・ 少し無関心な所があったので、もう少し環境保全に関心を持ちたいと思った。
- ・ 身近でできる取り組みを見てすぐにわかるような表を作って各家庭に配布してもらいたい。
それを見ながら環境保全を意識してやっていきたい。
- ・ まだ知らないことばかりだと思ったので、まずは知ることから始めたい。
- ・ 市がどんな取り組みをしているのか分からない。

第3章 事業者アンケート結果

3.1 調査概要

対象者	西東京市内の従業員数が概ね5人以上の5,396事業者 (平成16年事業所・企業統計調査)
サンプル数	200事業所(平成16年事業所・企業統計調査(総務省統計局)による事業所リストより無作為抽出)
調査期間	平成19年10月6日～平成19年10月16日
調査方法	調査票の郵送配布・郵送回収法
有効回答数(割合)	62(31.0%)

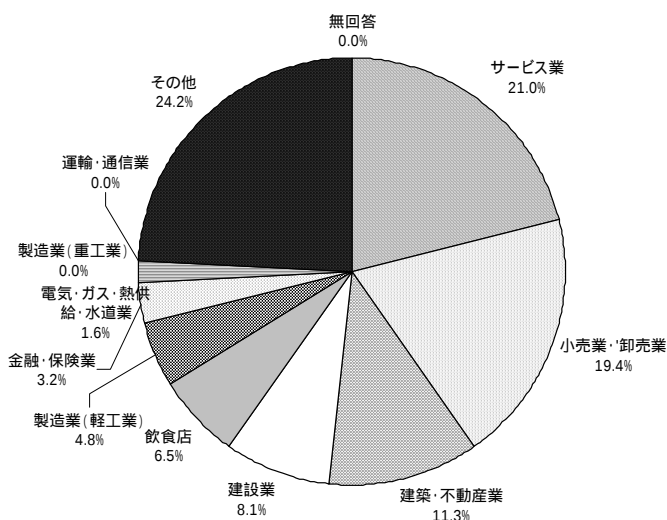
事業所・企業統計調査によるリストでは、従業員数に関する情報が判別できなかったため、抽出したすべての事業所の従業員数が5人以上であるとは限らない。

3.2 調査結果

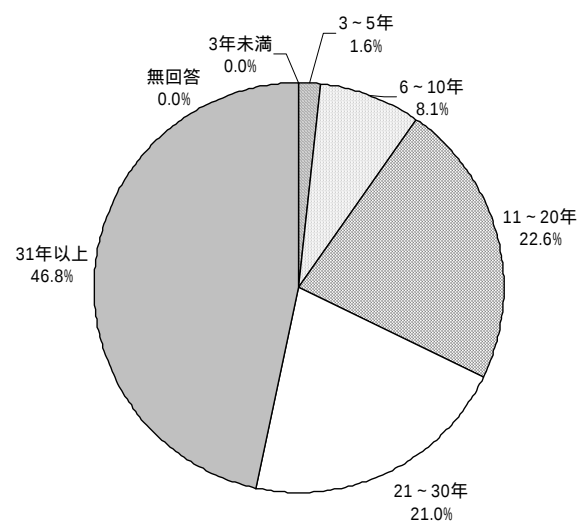
回答総数(n)は、明記されているもの以外はすべて62である。割合(各回答の百分率)はnを基数として算出し、小数点以下第2位を四捨五入したものである。このため、個々の比率の合計が100.0%にならない場合がある。

3.2.1 事業所について

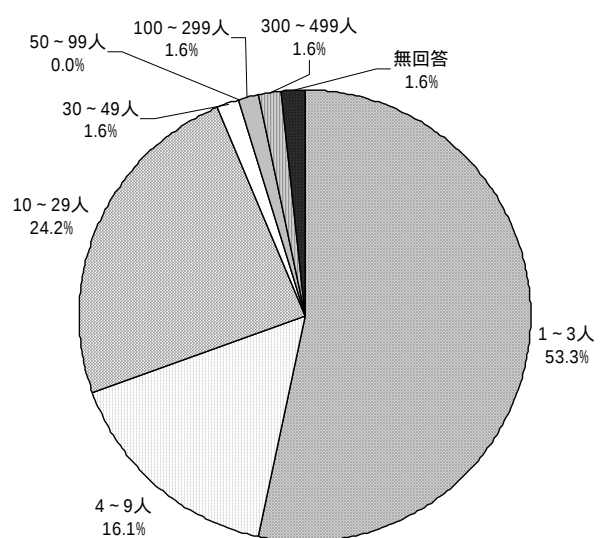
業種



営業年数



従業員数



「500人～999人」および「1000人以上」という回答はみられなかった。

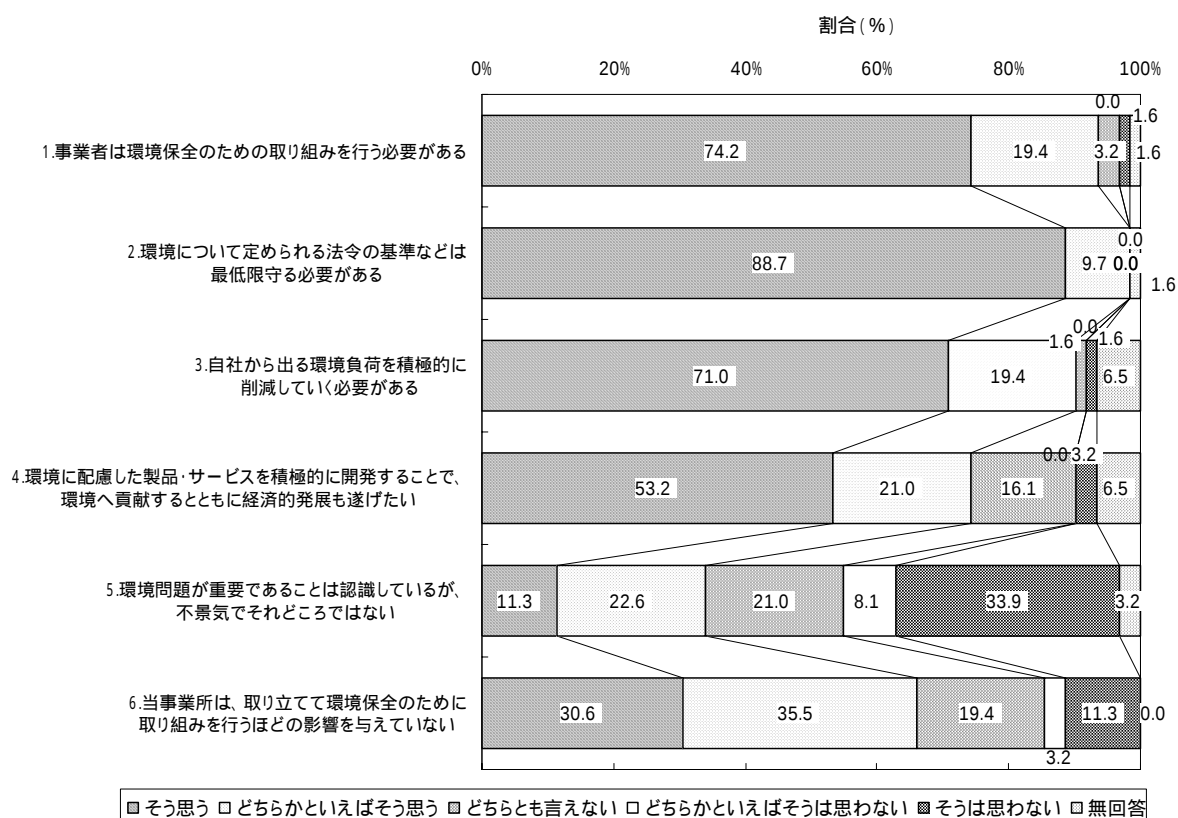
3.2.2 環境課題の認識について（問1～問2）

環境問題に対する考え（問1）

「事業者は環境保全のための取り組みを行う必要がある」、「環境について定められる法令の基準などは最低限守る必要がある」、「自社から出る環境負荷を積極的に削減していく必要がある」については、9割を超える事業者が「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した。

「環境問題が重要であることは認識しているが、不景気でそれどころではない」については、前回のアンケートと比較して「どちらかといえばそう思う」が約4%増加したが、「そうは思わない」と回答した事業者も約7%増加した。

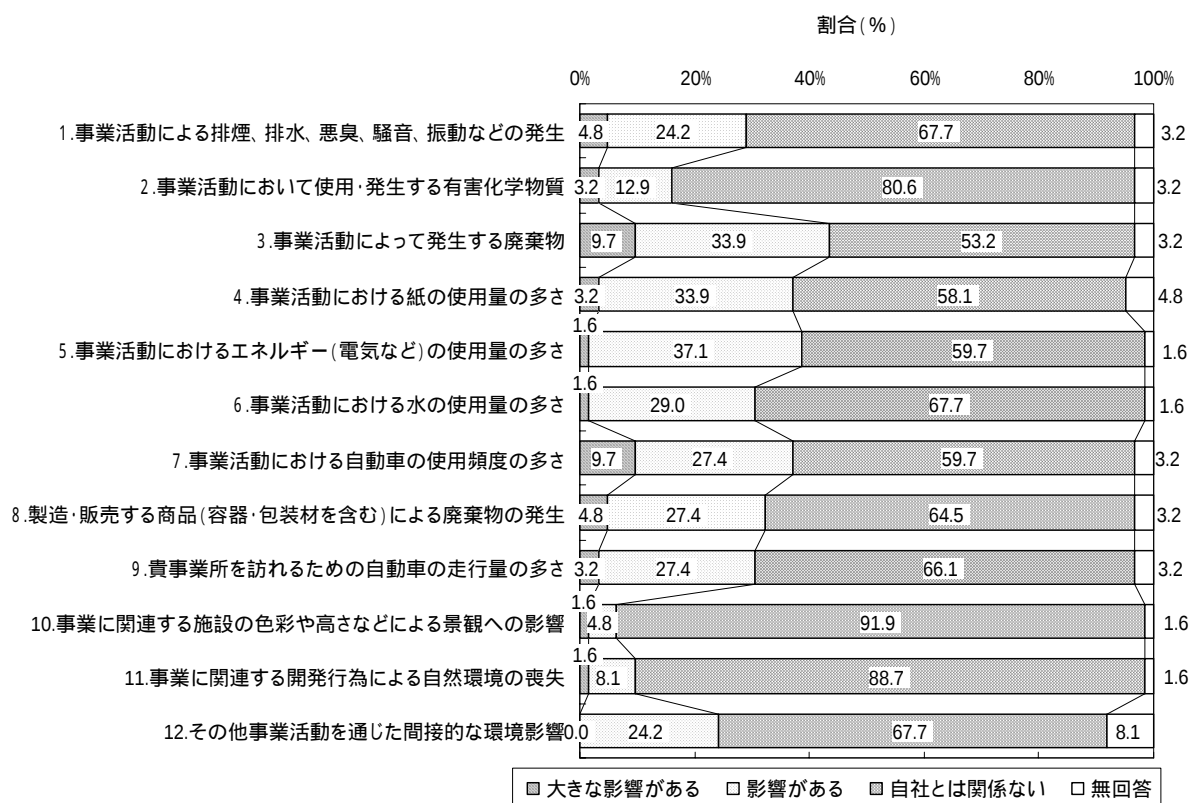
「当事業所は、取り立てて環境保全のために取り組みを行うほどの影響を与えていない」については、30.6%の事業者が「そう思う」と回答し、前回のアンケートに比べて約12%増加した。



環境に影響を与える活動・製品（問2）

すべての項目において、「自社とは関係ない」と回答した事業者が5割を超えた。

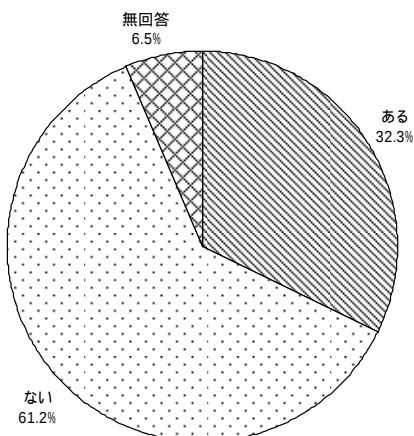
「大きな影響がある」または「影響がある」と回答した事業者の割合が最も大きかったのは、「事業活動によって発生する廃棄物」で（43.6％）、「事業活動におけるエネルギー（電気など）の使用量の多さ」（38.7％）、「事業活動における自動車の使用頻度の多さ」、「事業活動における紙の使用量の多さ」（ともに37.1％）と続いている。



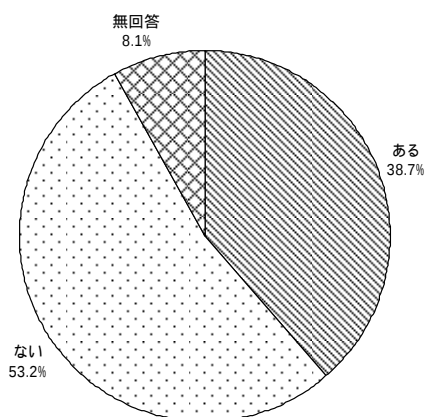
3.2.3 環境への負荷の実態について（ごみ）（問3～問4）

産業廃棄物は32.3%、事業系一般廃棄物については38.7%の事業者が「ある」と回答していた。産業廃棄物について「ある」と回答した事業者は、前回調査時より27%減少していた。

産業廃棄物の排出（問3 A-1）



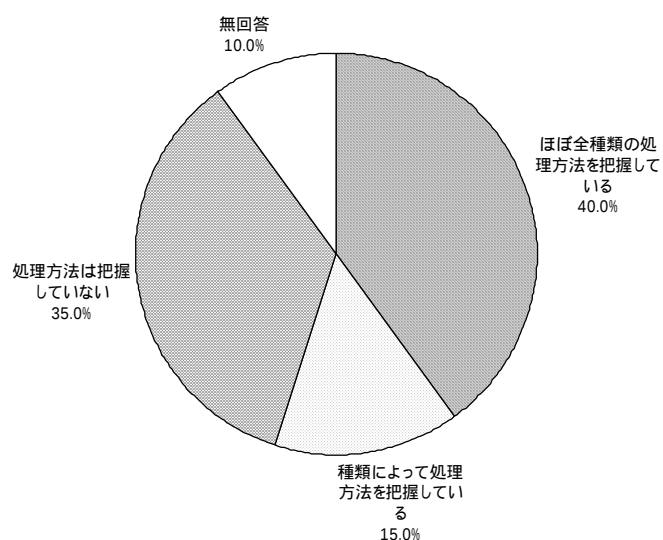
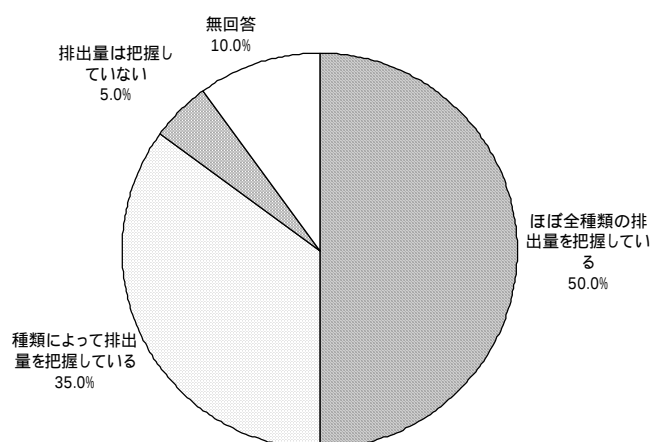
事業系一般廃棄物の排出（問3 A-2）



廃棄物の排出量の把握状況（問3 B）

排出量については、「ほぼ全種類の排出量を把握している」(50.0%)、「種類によって排出量を把握している」(35.0%)と、8割以上の事業者が把握していた。

処理方法については、「ほぼ全種類の処理方法を把握している」(40.0%)、「種類によって把握している」(15.0%)と、把握していると回答した事業者が半数強であるが、「処理方法は把握していない(すべて委託業者に任せている)」と回答した業者も3割を超えていた。



廃棄物のリサイクル等への有効活用の取り組み（問４）

廃棄物の有効活用について、取り組んでいるものの種類と内容について、自由記述で回答を求めたところ、以下の回答があった。

- ・糠。業者が引き取る。
- ・空きビン、醤油、洗剤、発砲スチロール等は各事業所に引き取ってもらっている。
- ・チラシやパンフレット等の紙はリサイクルに出す。
- ・お客様の不用メガネをスリランカに送っている。
- ・木屑はチップ化、石膏ボードは無水石膏化、金属屑は精錬。
- ・レントゲン撮影写真廃液の処理後、汚泥を鉱山会社でリサイクルしている。

また、以下の廃棄物について、有効活用していると回答が寄せられた。

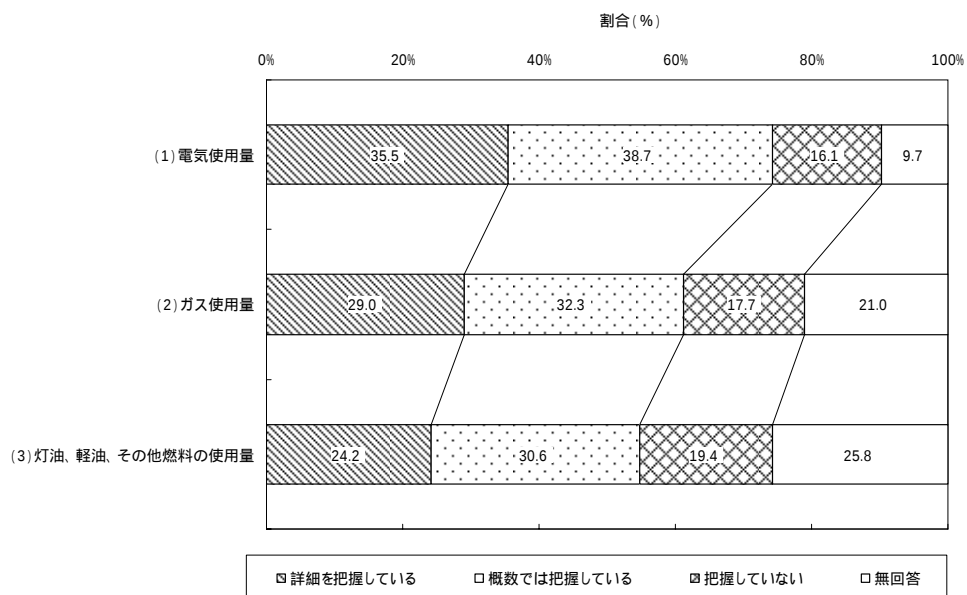
- ・使い捨てカメラ。
- ・段ボール箱。
- ・ペットボトル、空き缶。
- ・ステンレス、トタン板。
- ・家電リサイクル品。
- ・新聞、書籍、雑誌、パンフレット類。
- ・材木、鉄屑。
- ・包装用段ボール、クッション材。

3.2.4 環境負荷の実態について（その他）（問5～問6）

環境負荷等の数値についての把握（問5）

<エネルギーの使用量>

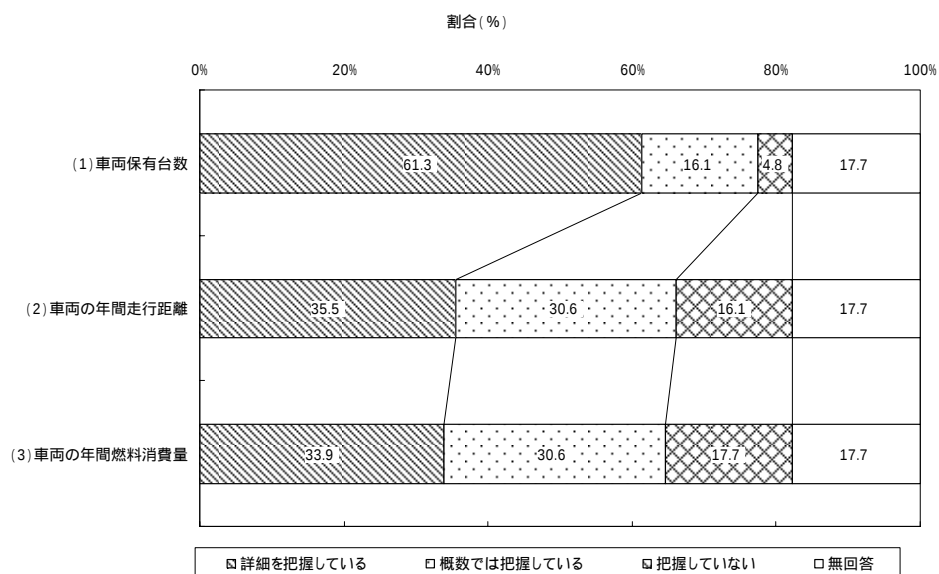
「電気」、「ガス」、「灯油・軽油・その他の燃料」のすべての項目について、半数以上の事業者が「詳細を把握している」または「概数では把握している」と回答していたが、前回調査時と比較すると、回答率は減少していた。



<車両の利用について>

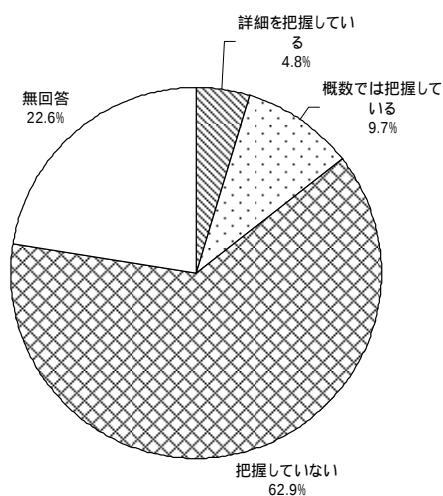
車両の保有台数については、「詳細を把握している」との回答が 61.3%と多く、また「概数では把握している」(16.1%)との回答を合わせて、約 8 割の事業者が把握していると回答した。

年間走行距離、年間燃料消費についても、約 6 割の事業者が詳細または概数で把握しているという結果であった。



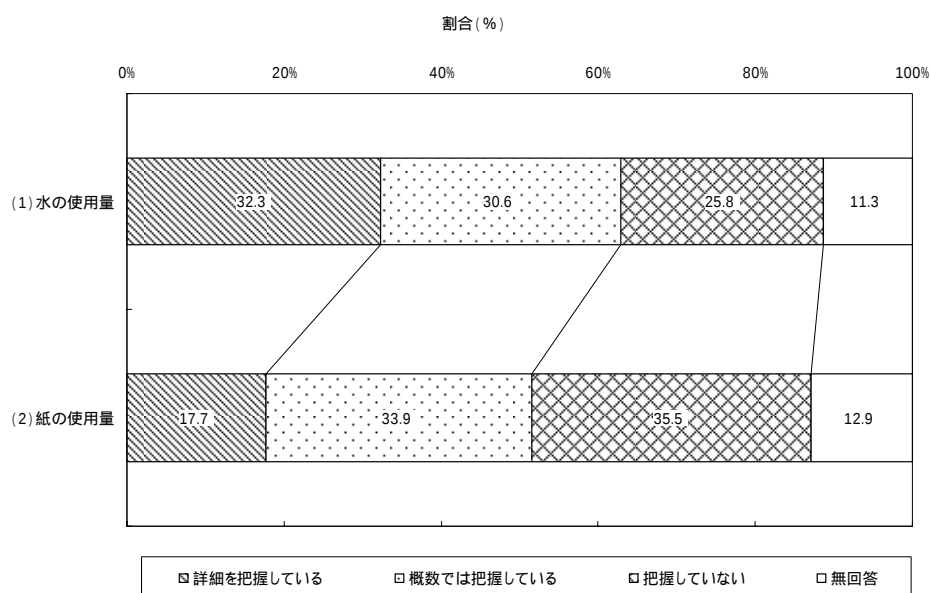
< エネルギーの使用量と車両の利用による二酸化炭素（CO2 排出量） >

二酸化炭素排出量に関しては、「詳細を把握している」または「概数では把握している」と回答した事業者が全体の 14.5%にとどまり、62.9%が「把握していない」という結果となった。

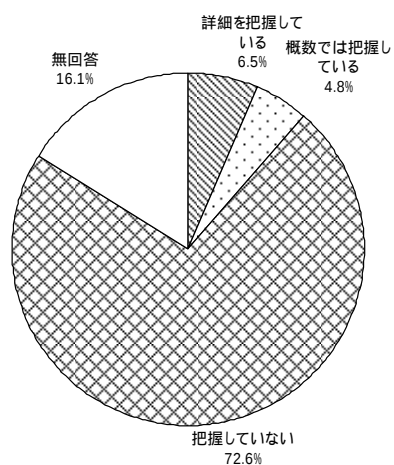


< 資源の使用量 >

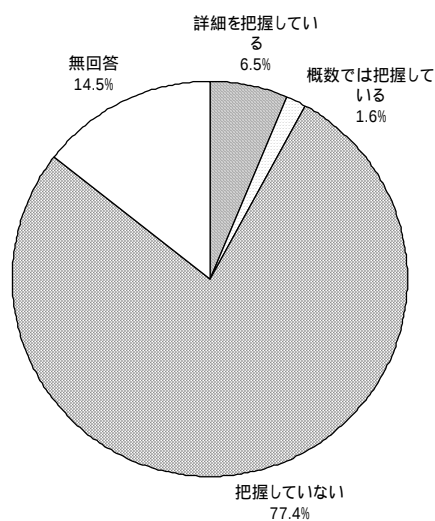
水の使用量について約 6 割の事業者が「詳細を把握している」または「概数では把握している」と回答したものの、紙の使用量についてはそれが約半数に留まり、3 分の 1 以上の事業者が「把握していない」と回答した。



<大気汚染物質（NO₂ など）排出量>



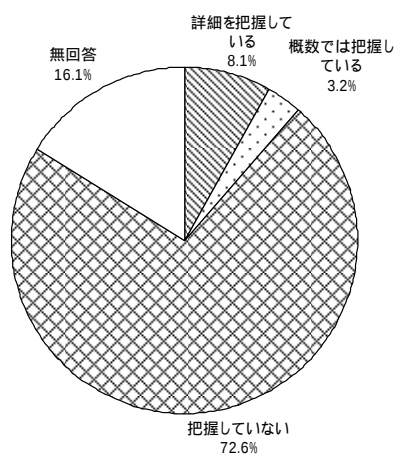
<水質汚染物質（BOD など）排出量>



「把握していない」と回答した事業者は、大気汚染物質については72.6%、水質汚濁物質では77.4%にのぼり、いずれも前回調査時の結果を上回っていた。水質汚濁物質については、「詳細を把握している」または「概数では把握している」と回答した事業者は1割に満たない結果となった。

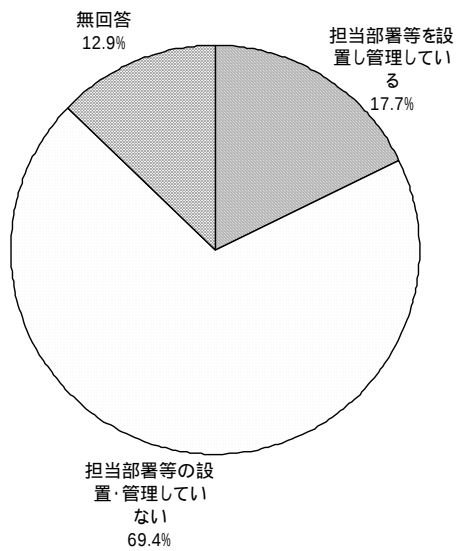
<化学物質の排出量・移動量>

化学物質の排出量・移動量については、「把握している」と回答した事業者が11.3%であったのに対し、「把握していない」と回答した事業者が全体の7割を超えていた。



環境への負荷を管理するための担当部署・担当者の設置状況（問6）

- ・環境負荷を管理するために、担当部署・担当者を設置し、管理しているかについて聞いたところ、「担当部署・担当者の設置・管理はしていない」と回答した事業者が約7割であった。



3.2.5 取組の状況について（問7～問8）

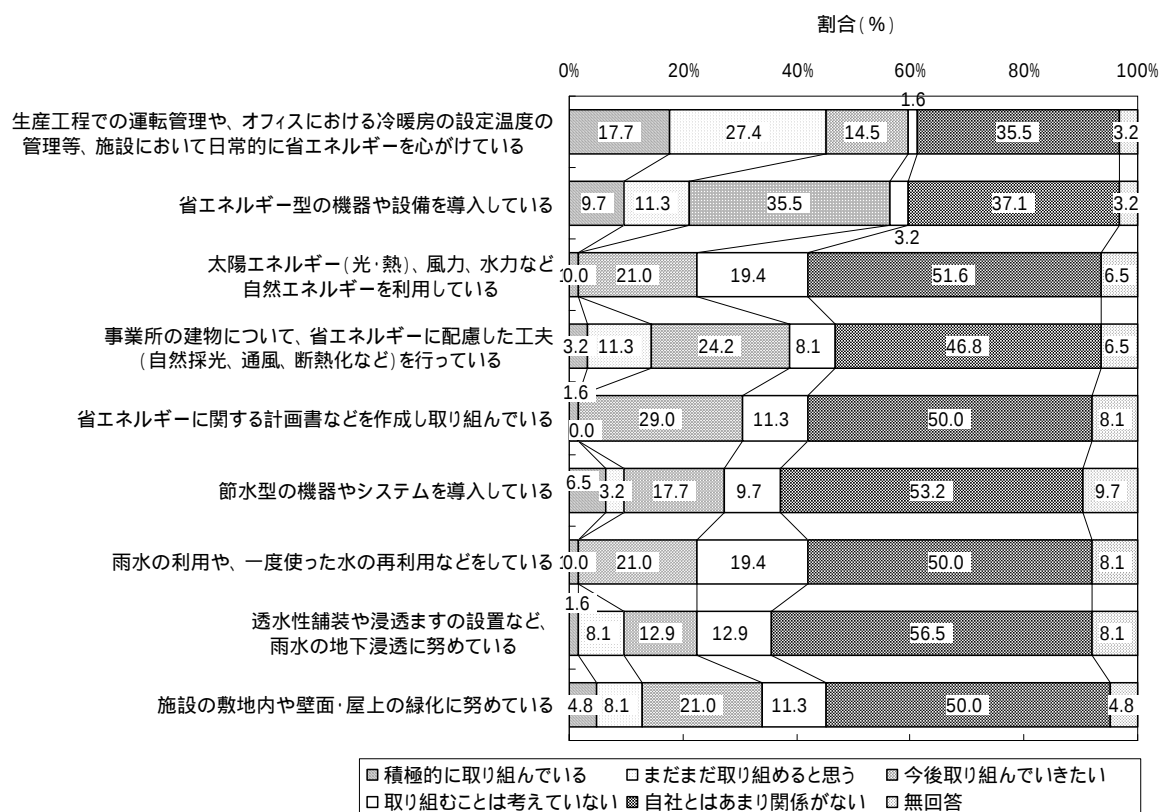
エネルギー・水について（問7）

「生産工程での運転管理や、オフィスにおける冷暖房の設定温度の管理等、施設において日常的に省エネルギーを心がけている」については、「積極的に取り組んでいる」、「取り組んでいるが、まだまだ取り組めると思う」、「今後取り組んでいきたい」と回答した事業者が約6割であった。

「省エネルギー型の機器や設備を導入している」については、「取り組んでいる」との回答が合わせて21%であったのに対し、「今後取り組んでいきたい」と回答した事業者が全体の35.5%と多くなっている。

その次に取り組まれているものは、「事業所の建物について、省エネルギーに配慮した工夫（自然採光、通風、断熱化などを行っている）」「施設の敷地内や壁面・屋上の緑化に努めている」となっている。

「太陽エネルギー（光・熱）、風力、水力など自然エネルギーを利用している」「省エネルギーに関する計画書などを作成し取り組んでいる」「雨水の利用や、一度使った水の再利用などを行っている」の3項目については、取り組んでいる事業者は少ないが、「今後取り組んでいきたい」と回答した事業者がすべての項目で2割を超えている。

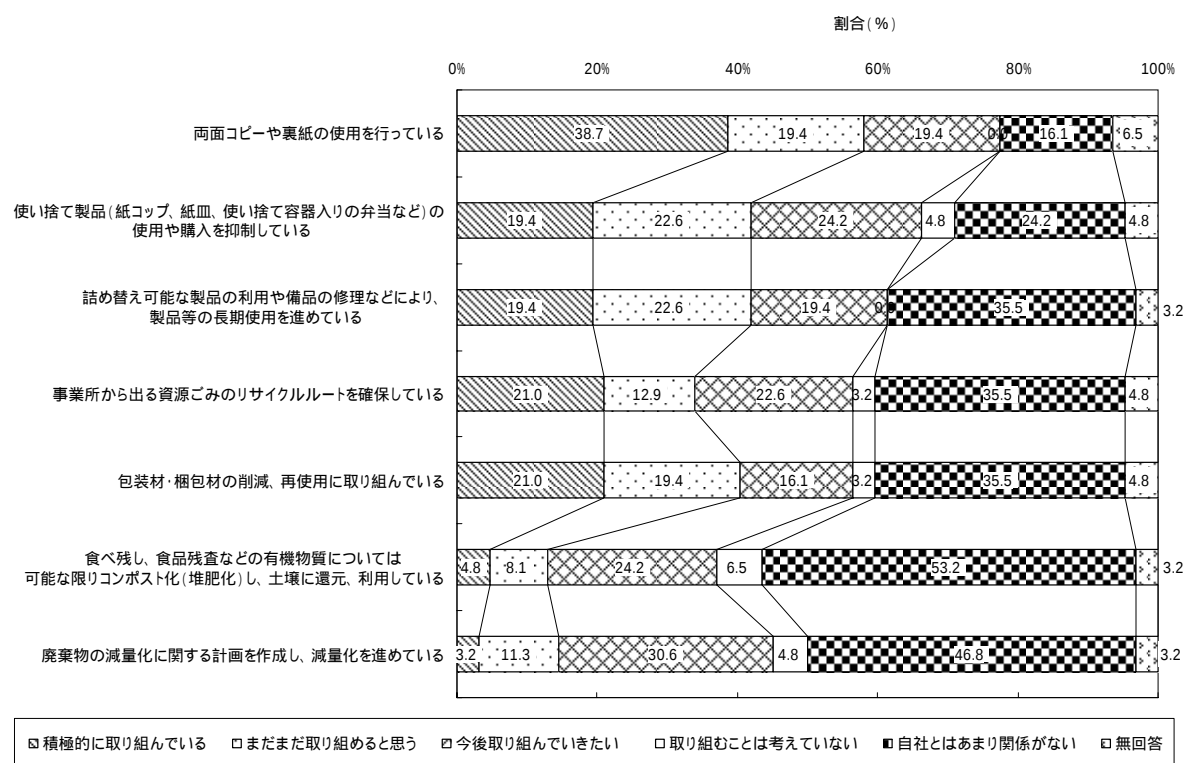


廃棄物について（問7）

廃棄物については、「両面コピーや裏紙の使用を行っている」の項目について、「取り組んでいる」と回答した事業者が最も多く、58.1%となっている。「今後取り組んでいきたい」を合わせると77.5%であり、意識が高いことが伺える。

「使い捨て製品（紙コップ、紙皿、使い捨て容器入りの弁当など）の使用や購入を抑制している」、「詰め替え可能な製品の利用や備品の修理などにより、製品等の長期使用を進めている」、「包装材・梱包材の削減、再使用に取り組んでいる」の3項目については、取り組んでいると回答した事業者が4割を超えている。

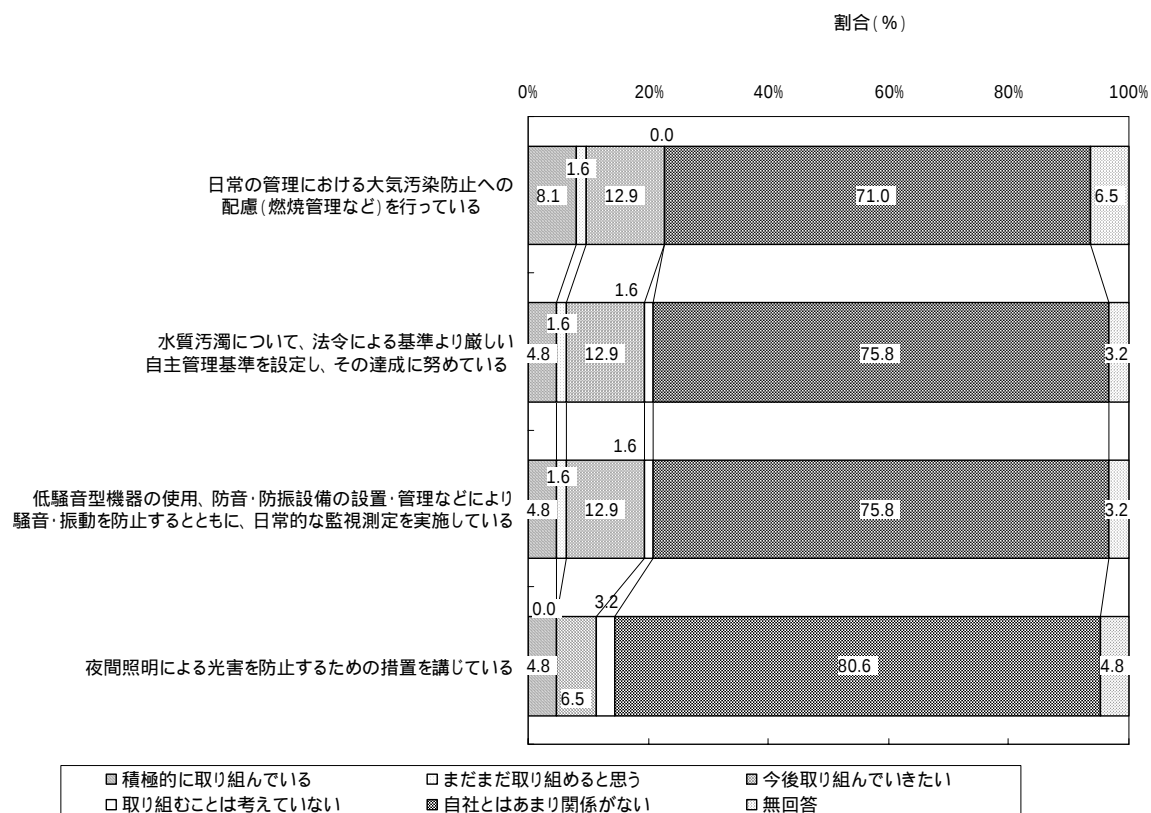
「コンポスト化」、「減量化に関する計画の作成」については、現在取り組んでいると回答した事業者は少ないが、「今後取り組んでいきたい」と回答した事業者が他の項目より多くなっている。



大気汚染・水質汚濁などの公害の防止（問7）

「積極的に取り組んでいる」または「まだまだ取り組めると思う」と回答した事業者はすべての項目において1割未満であった。

「日常の管理における大気汚染防止への配慮（燃焼管理など）を行っている」、「水質汚濁について、法令による基準より厳しい自主管理基準を設定し、その達成に努めている」、「低騒音型機器の使用、防音・防振設備の設置・管理等により、騒音・振動を防止するとともに、日常的な監視測定を実施している」の3項目については、「今後取り組んでいきたい」と回答した事業者が12.9%であった。また、「日常の管理における大気汚染防止への配慮（燃焼管理など）を行っている」については、「取り組むことは考えていない」と回答した事業者はみられなかった。

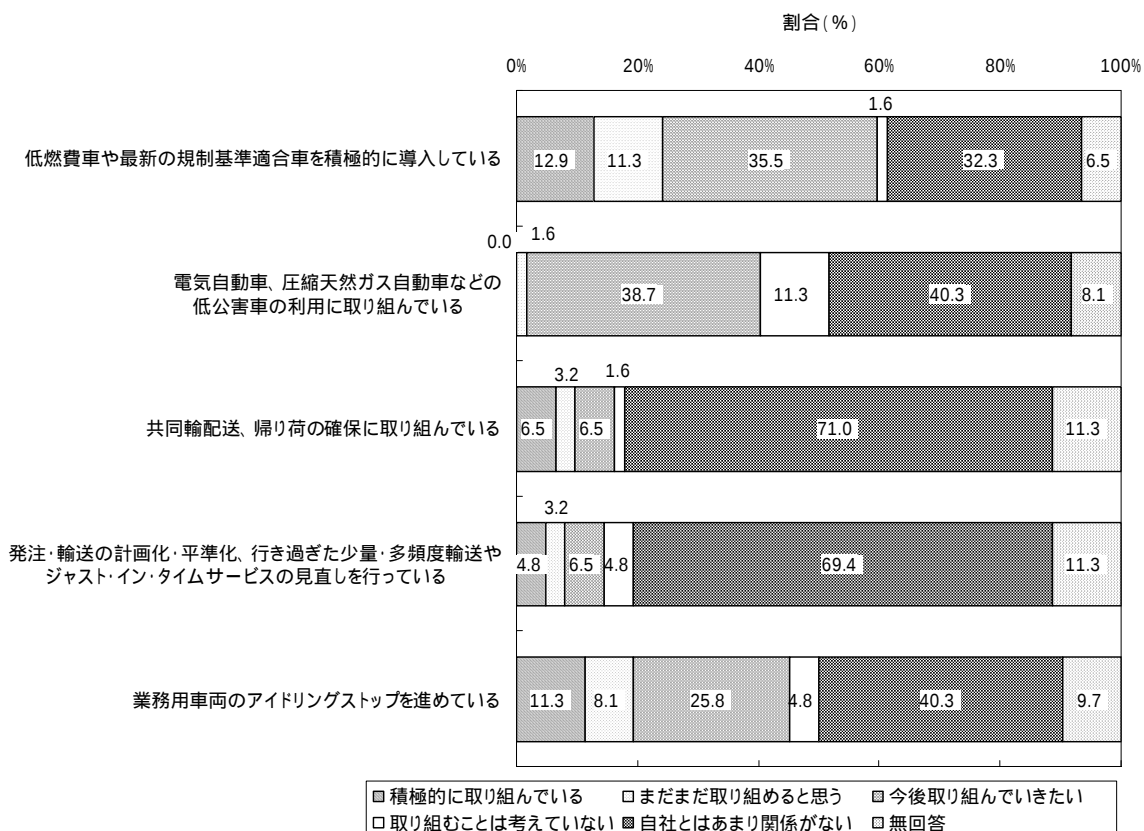


自動車の利用について（問7）

「低燃費車や最新の規制基準適合車を積極的に導入している」、「業務用車両のアイドリングストップを進めている」の2項目については、取り組んでいると回答した事業者が2割前後であり、また「今後取り組んでいきたい」と回答した事業者も合わせると、他の項目よりも比較的取り組む意識が高い。

「電気自動車、圧縮天然ガス自動車などの低公害車の利用に取り組んでいる」については、現在取り組んでいる事業者は1.6%であるが、「今後取り組んでいきたい」と回答した事業者が38.7%と多く見られる。

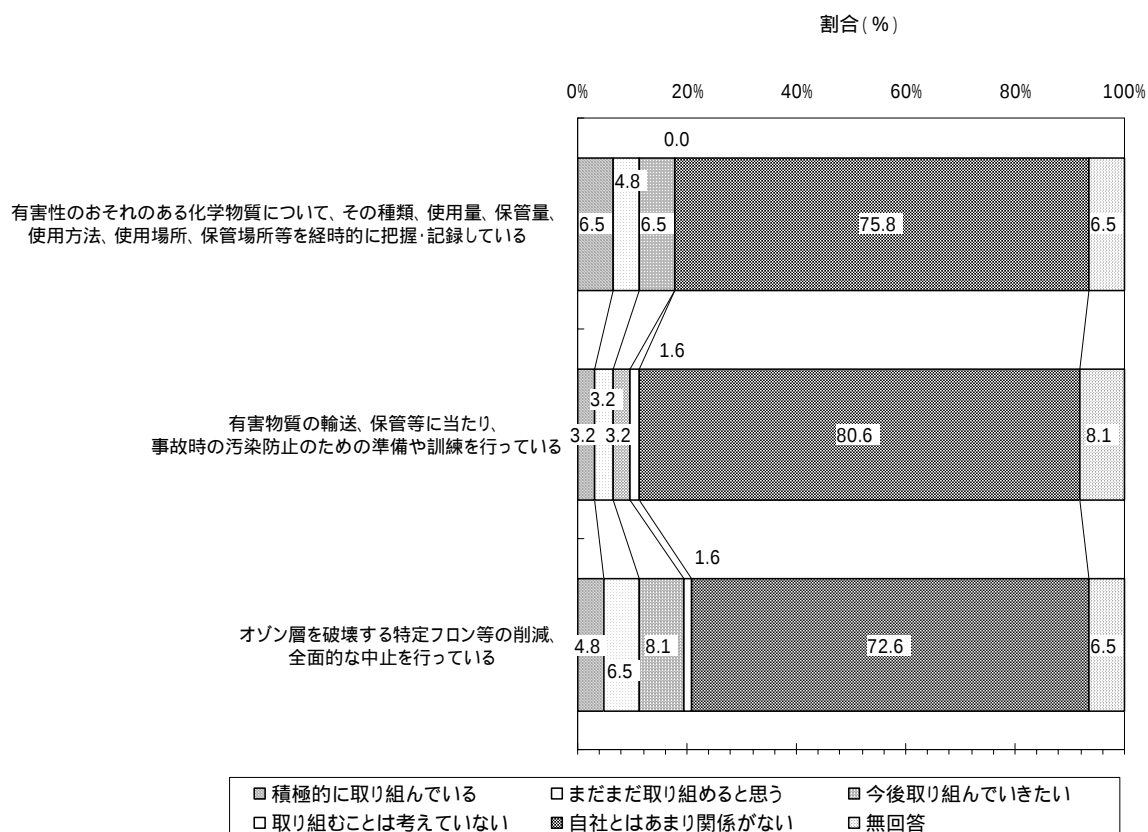
「共同輸配送、帰り荷の確保」、「発注・輸送の計画課・標準化、ジャスト・イン・タイムサービスの見直し」の2項目については、「自社とはあまり関係がない」と回答した事業者が約7割と多くなっている。



化学物質対策（問7）

化学物質については、公害の防止と同様に、すべての項目において、「自社とはあまり関係がない」と回答した事業者が多く見られた。

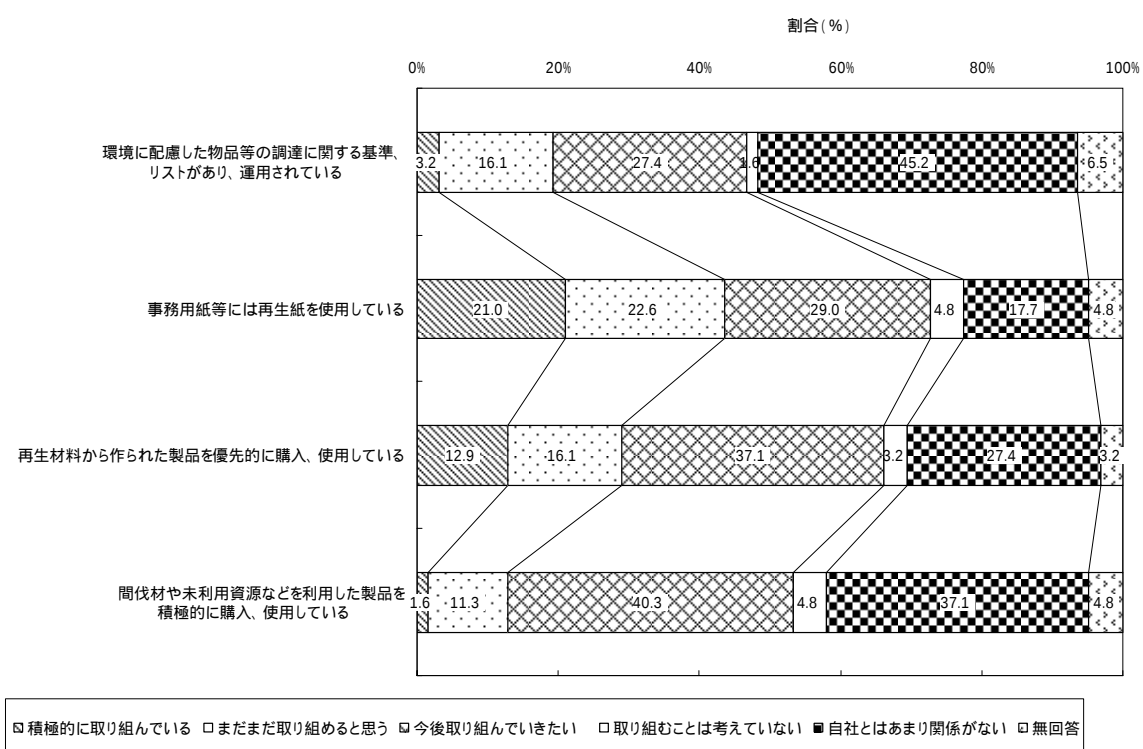
「取り組むことは考えていない」との回答はほとんどなく、「有害物質の輸送、保管等に当たり、事故時の汚染防止のための準備や訓練を行っている」、「オゾン層を破壊する特定フロン等の削減、全面的な中止を行っている」の2項目において、全体の1.6%となっている。



グリーン購入（問7）

「事務用紙には再生紙等を使用している」「再生材料から作られた製品を優先的に購入、使用している」の項目について、取り組んでいると回答した事業者が3～4割であり、他の項目に比べ取り組む意向が高い。

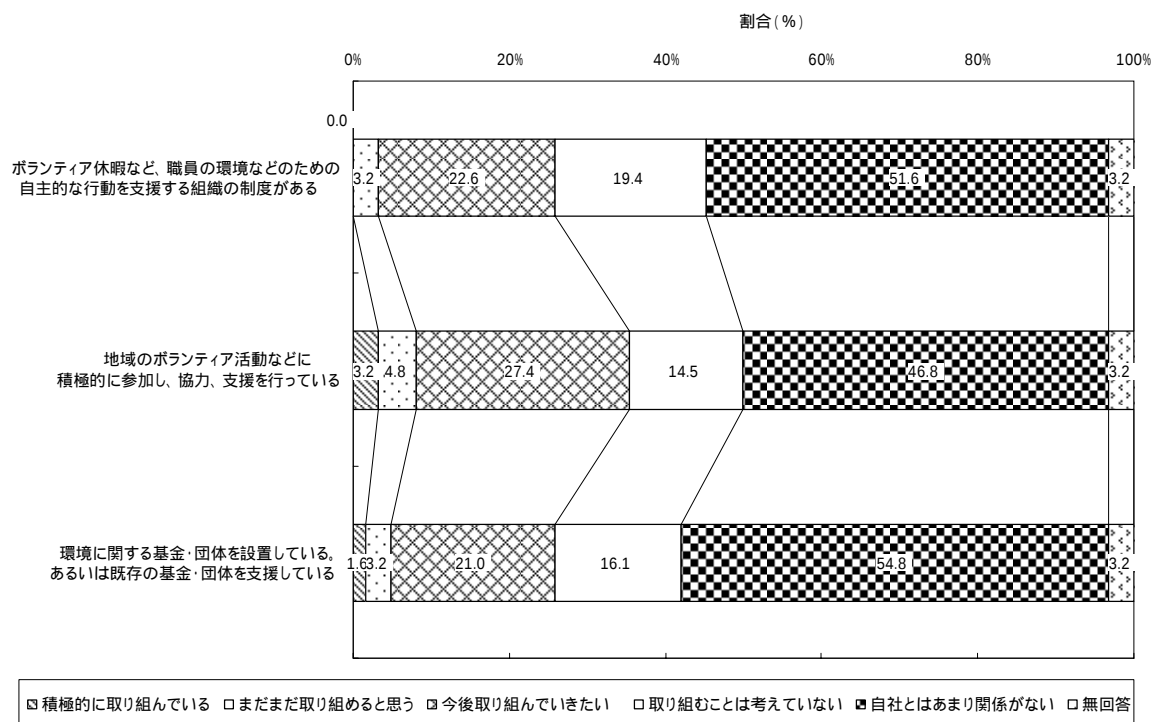
「今後も取り組むことは考えていない」と回答した事業者は、いずれの項目についても5%を下回った。



社外での環境保全活動の推進（問7）

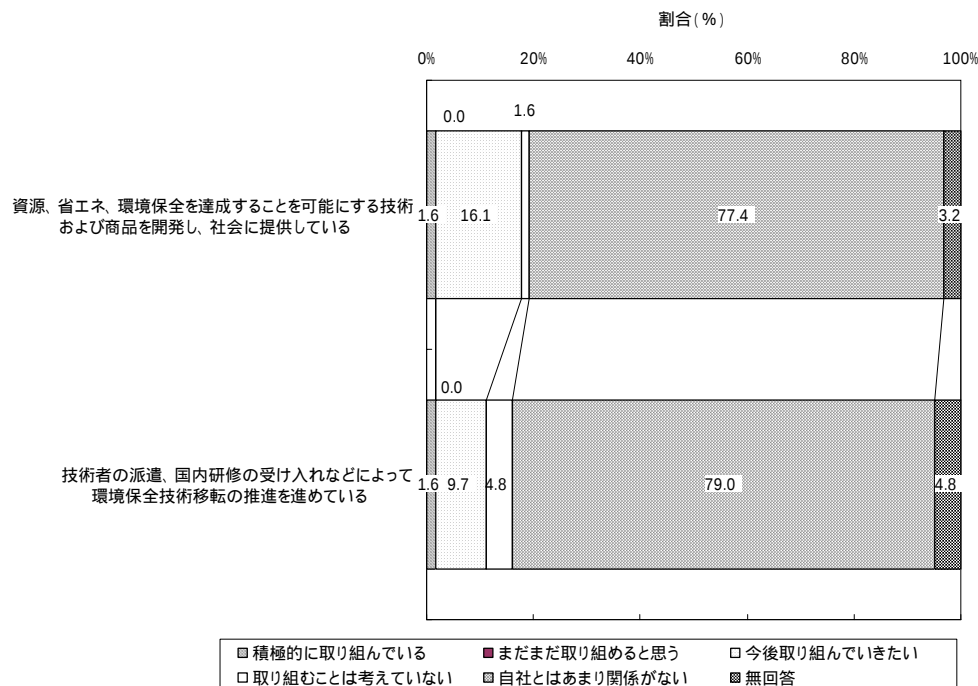
社外での環境保全活動の推進について聞いたところ、すべての項目において、半数近くの事業者が「自社とはあまり関係がない」と回答する結果となった。

「積極的に取り組んでいる」または「まだまだ取り組めると思う」と回答した事業者はすべての項目において1割以下にとどまっていた。しかし、すべての項目について、「今後取り組んでいきたい」の回答率は、「今後も取り組むことは考えていない」よりも高かった。



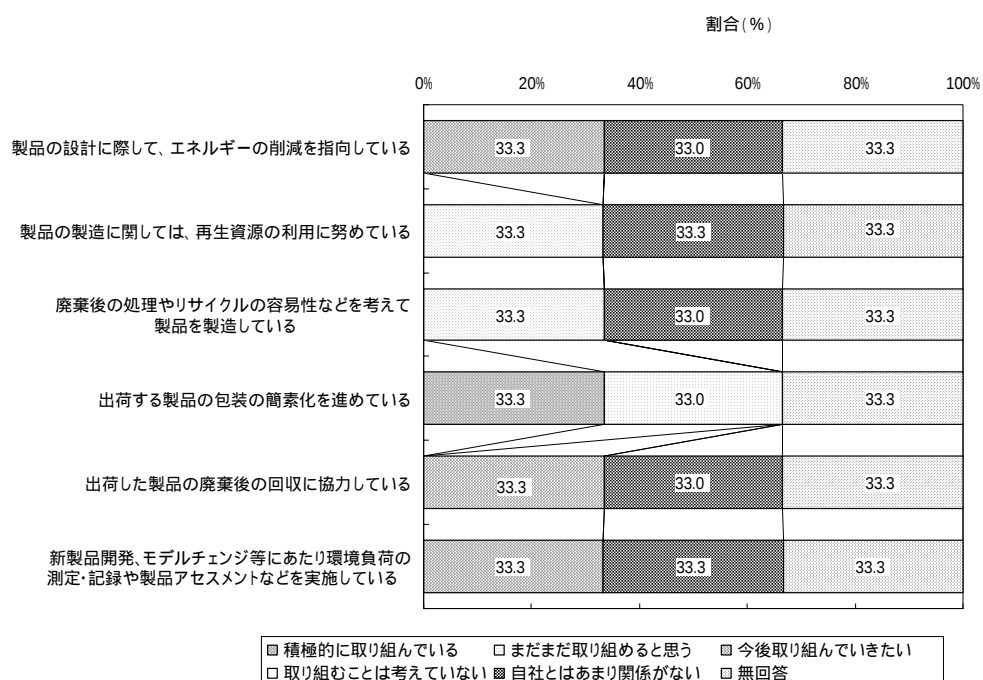
エコビジネス、技術開発（問 7）

エコビジネスや技術開発については、「自社とはあまり関係がない」と回答した事業者が、どちらの項目においても約 8 割と多くなっている。



製品の開発・設計等における環境配慮（問 7）

「無回答」および「自社とは関係ない」という回答を除けば、すべて「積極的に取り組んでいる」または「まだまだ取り組めると思う」という回答であった。



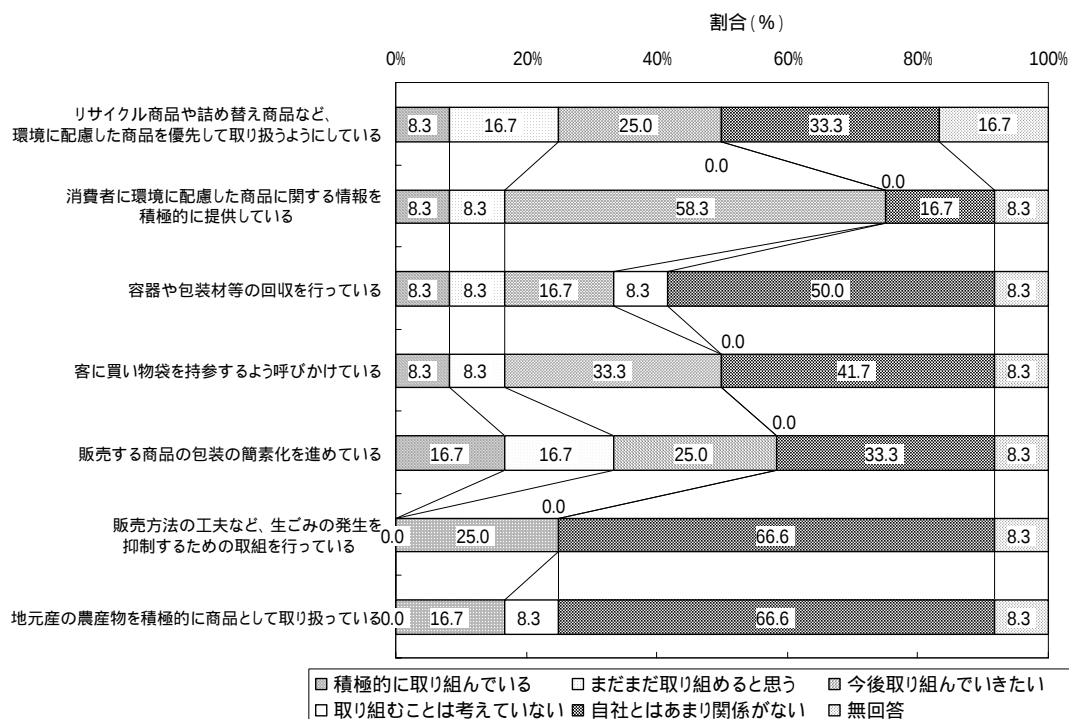
（n=3：製造業の事業者による回答）

商品の流通・販売業における環境配慮（問7）

最も多く取り組まれていることは、「販売する商品の包装の簡素化を進めている」で、「積極的に取り組んでいる」、「取り組んでいるが、まだまだ取り組めると思う」を合わせて33.4%であった。

次いで「リサイクル商品や詰め替え商品など、環境に配慮した商品を優先して取り扱うようにしている」と続いている。

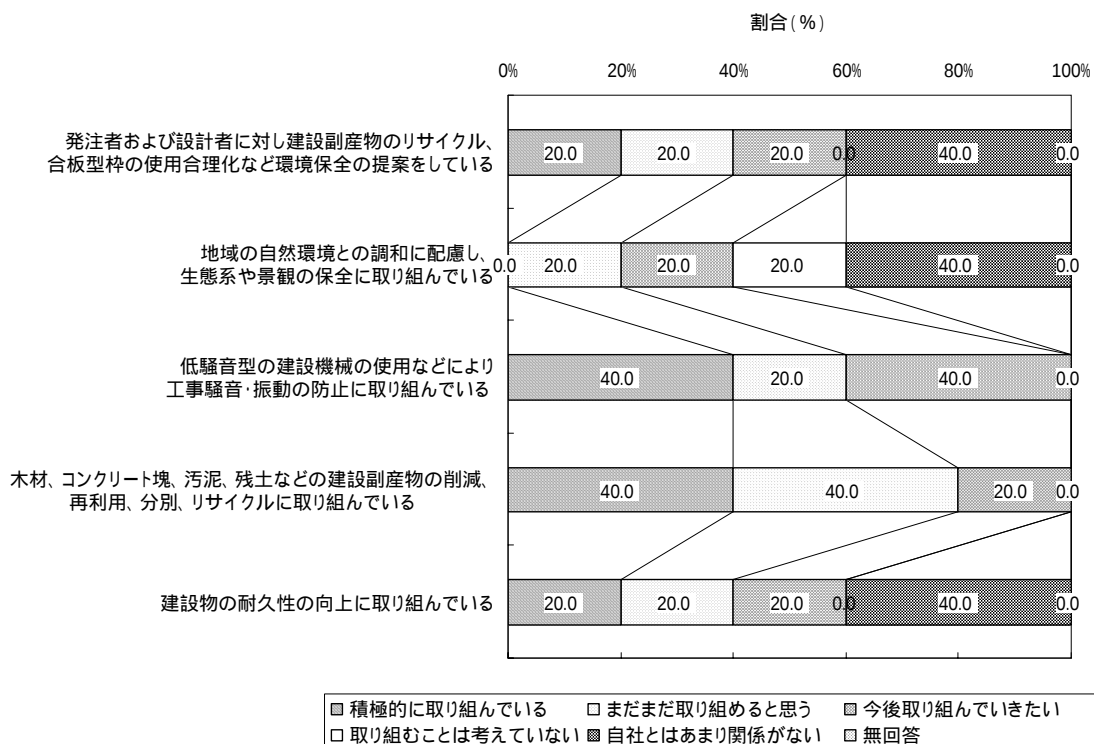
「消費者に環境に配慮した商品に関する情報を積極的に提供している」については、「今後取り組んでいきたい」と考えている事業者が58.3%と、他の項目より多く見られた。



（n=12：小売業・卸売業の事業者による回答）

建築物の建築・解体にあたっての環境配慮（問 7）

「木材、コンクリート塊、汚泥、残土などの建設副産物の削減、再利用、分別、リサイクルに取り組んでいる」については、8 割の事業者が、「積極的に取り組んでいる」または「取り組んでいるが、まだまだ取り組めると思う」と回答した。「低騒音型の建設機械の使用などにより工事騒音・振動の防止に取り組んでいる」についても 6 割の事業者が同じように回答している。



（n=5：建設業の事業者による回答）

その他の取組（問 8）

問 7 の他に環境保全のために行っている取組みについて回答を求めたところ、以下の取組みが挙げられた。

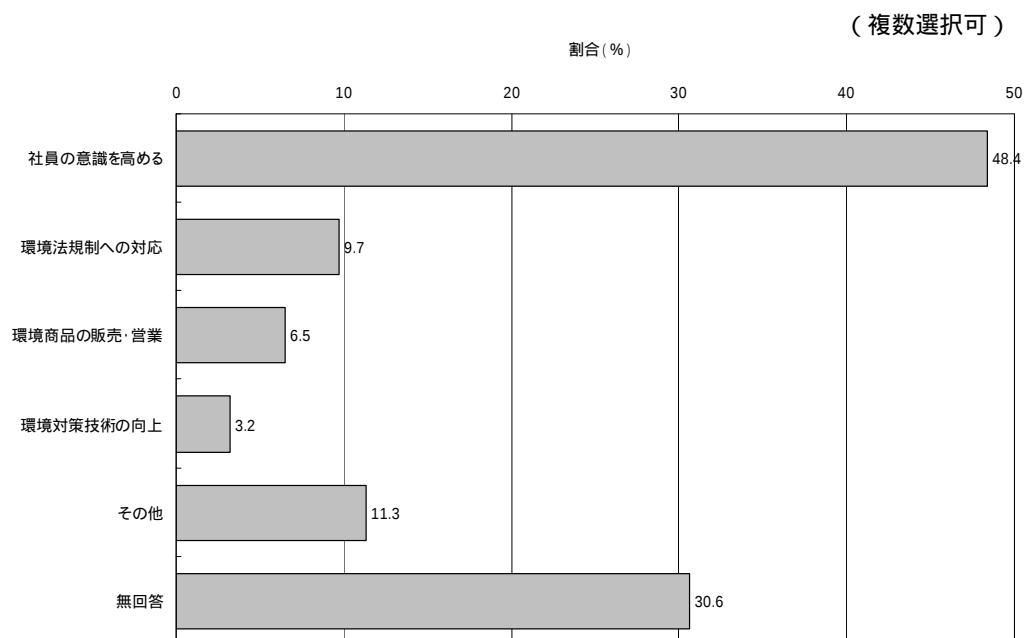
- ・建築物の内外装の光触媒によるコーティング。
- ・ホルムアルデヒド等の揮発性化学物の空気汚染を防ぐコーティング。
- ・ホルムアルデヒド放散量測定。

3.2.6 社内での環境への取り組みについて（問 9～問 15）

事業所で行っている環境教育について（問 9）

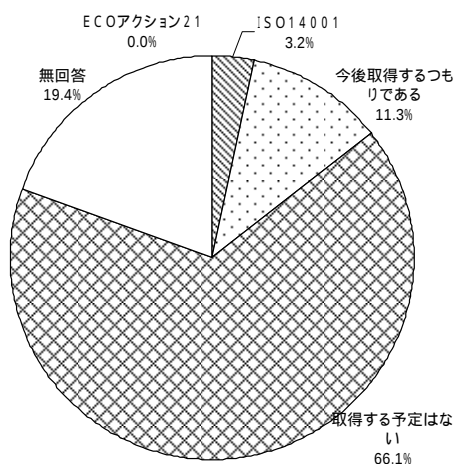
「社員への意識を高める」取り組みを行っている事業者が多く、約半数の 48.4%であった。

「環境法規制への対応」、「環境商品の販売・営業」、「環境対策技術の向上」については、いずれも 1 割以下の回答であった。



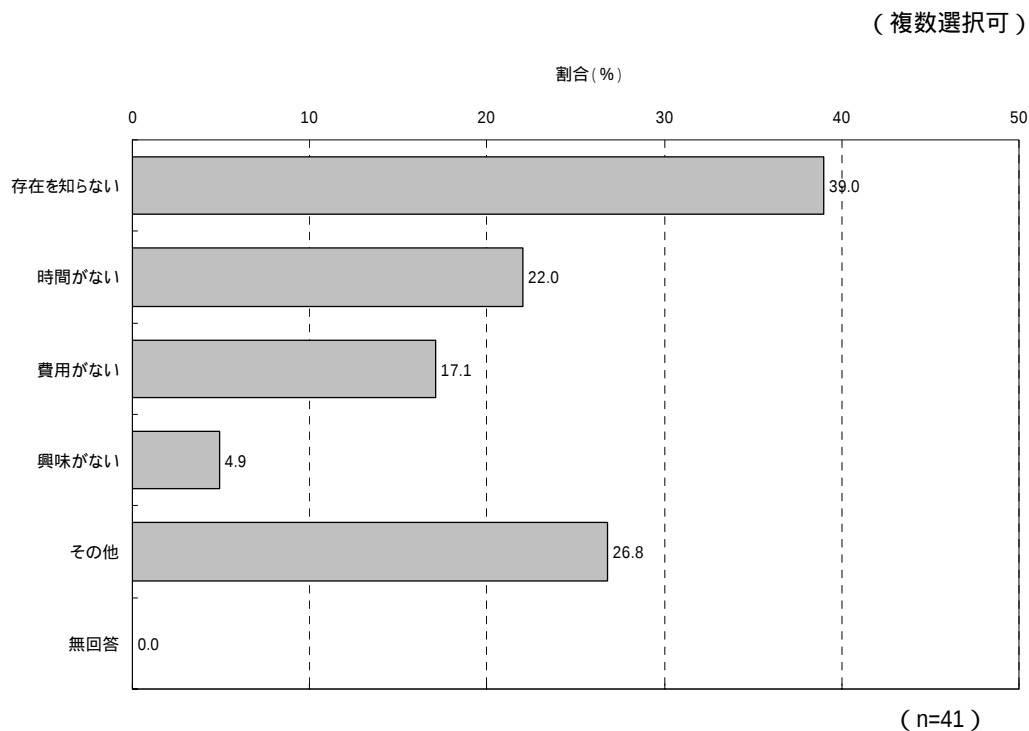
環境管理のための社内制度の導入（問 10）

環境管理のための社内制度の導入については、ISO14001 を取得している事業者が全体の 3.2%、今後取得するつもりである事業者が 11.3%であったのに対し、66.1%の事業者が「取得する予定はない」と回答していた。



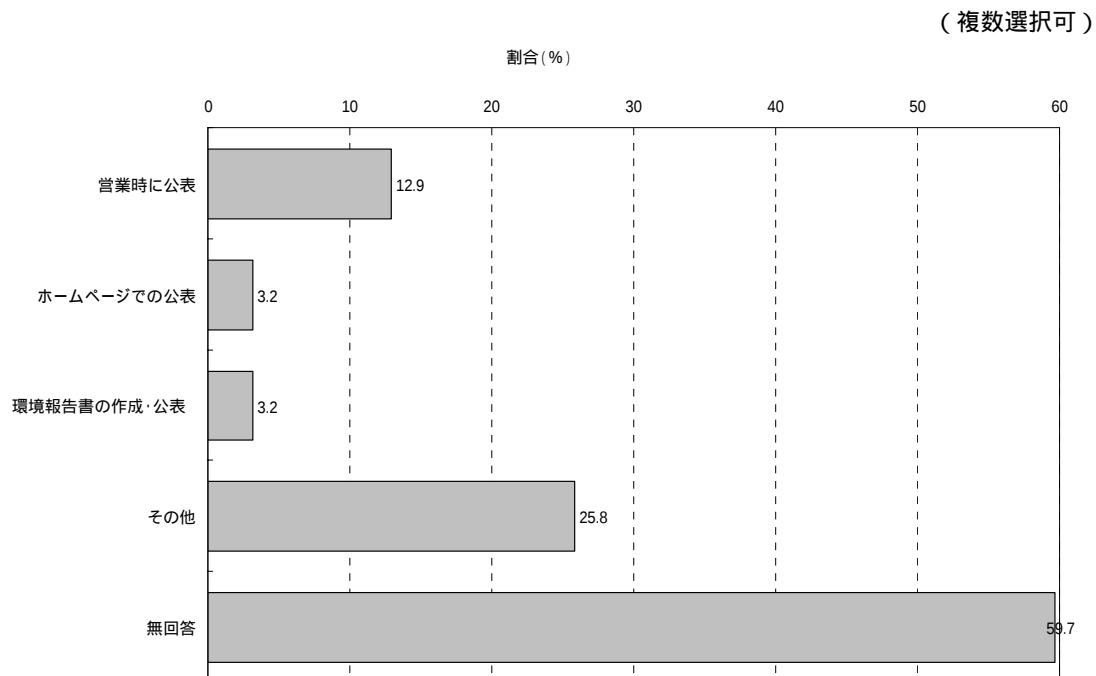
取得する予定のない理由（問 11）

取得する予定のない理由としては、「存在を知らない」と回答した事業者が最も多く、39.0%であった。続いて、「時間がない」(22.0%)、「費用がない」(17.1%)となっており、「興味がない」と回答した事業者は 4.9%であった。



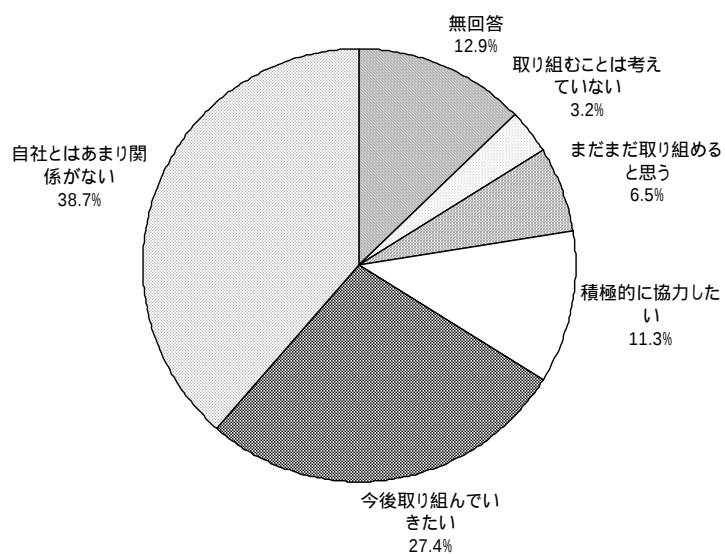
環境への取り組みの公表（問 12）

環境への取り組みの公表については、「営業時に公表」しているとの回答が最も多く（12.9%）、
「ホームページでの公表」、「環境報告書の作成・公表」は 3.2%との回答率となっている。



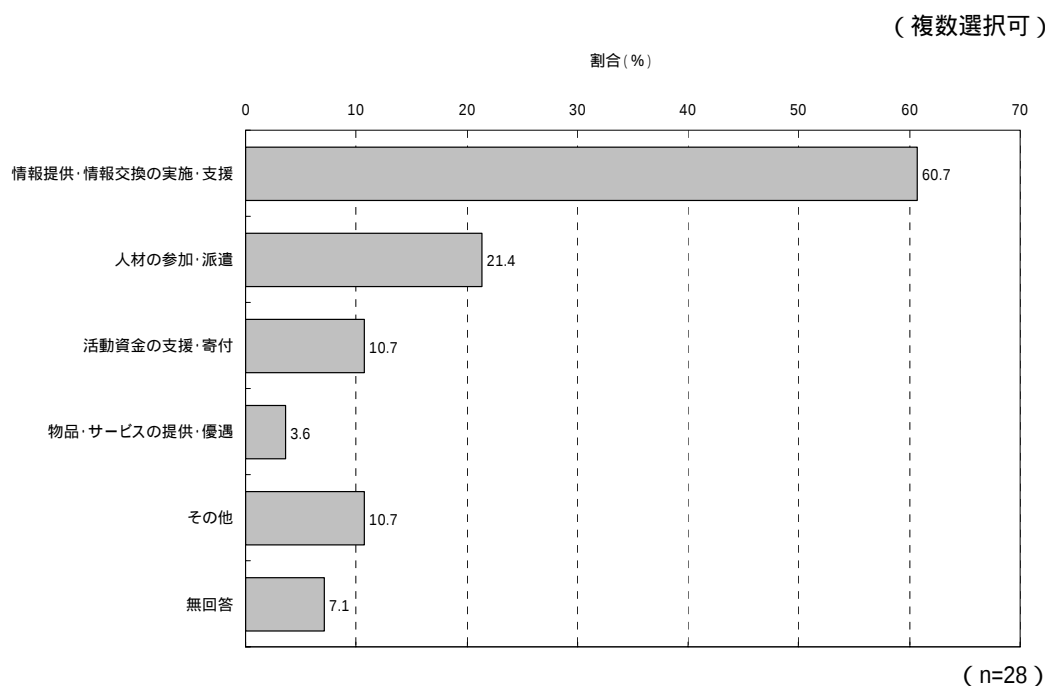
地域での環境保全活動への協力（問 13）

「積極的に協力したい」と回答した事業者は 11.3%で、「取り組んでいるが、まだまだ取り組め
ると思う」、「今後取り組んでいきたい」と合わせると、半数近くの 45.2%となった。



協力できる活動（問 14）

「情報提供・情報交換の実施・支援」について、60.7%の事業者が協力したいと回答した。「人材の参加・派遣」(21.4%)、「活動資金の支援・寄付」(10.7%)、「物品・サービスの提供・優遇」(3.6%)と続いている。



西東京市の環境保全に対する提案、意見、要望等（問 15）

ごみ・リサイクルや廃棄物処理に関するものを始めとして、計 9 つの意見が寄せられた。

- ・糞をそのままにして立ち去る犬の散歩が多い。道路端、特に電柱の付近は歩けない。役所に立看板等を立ててもらいたい。
- ・今年 9 月代理店業を廃業しました。但しマンション 3 部屋を経営しています。廃棄物については注意して管理しています。
- ・先日から始まったゴミ収集とゴミ袋の有料化についてはもう少し検討して欲しい。ゴミのリサイクルを考えて欲しい。
- ・自宅に椿と桜の樹が植えてあります。春先から初夏にかけて害虫が寄生し葉を食い荒らします。環境保全課に相談しても消毒や器材の貸し出しにも応じてくれないので、対応を考えて欲しい。
- ・有料化になるゴミ袋の値段が多摩の他市と比べて高い。値段の正当性はあるのでしょうか？
- ・環境保全のテーマはあまりにも大きく、どこまでが保全なのか内容が不明な所もありました。最近では事業所からのゴミ収集を中止しましたが、アパート等の収集は続けています。何か変な気がします。事業所は税金を払っています。アパートも大家さんは家賃をもらっています。ゴミの内容も同じ物です。事業所の一般ゴミとアパートの住人が出すゴミは変

わりません。

- ・ 小金井市では樹木をどこにでもある平凡な物にせずスモークツリー等珍しくて楽しい物を沢山植えています。是非西東京市でも。数年前に五日市街道のグリーンハイツの前に植えたコケモモ等は花も咲かず全くつまらない。スモークツリーや桜の方が良かった。
- ・ 都市開発や道路計画等も含め環境保全に関する法律と条例を常に分かりやすいようにホームページや市の公機関に置いてください。また、市の条例として策定できる内容についても市民に情報提供してください。
- ・ 市民の大切な健康を推進していくため、地場農産物の地産地消の積極的な取組をお願いします。地元の環境保全に取り組む上で市民参加による自然観察会は大切な事業と考えます。市民団体と一層の協力連携して、より充実した事業となるよう検討してください。

市民の環境意識向上のためには人材教育が必要だと考えます。それには市民の環境リーダーを育成し、自治会・学校等地域とのネットワーク作りを検討してください。

第4章 農業従事者アンケート結果

4.1 調査概要

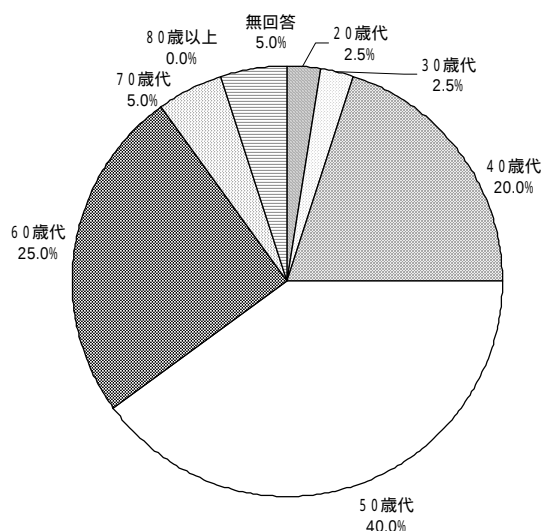
対象者	西東京市内の農業従事者 291 人（平成 19 年）
サンプル数	50 世帯（産業振興課による無作為抽出）
調査期間	平成 19 年 10 月 4 日～平成 19 年 10 月 17 日
調査方法	調査票の郵送配布・郵送回収法
有効回答数（割合）	39（78.0％）

4.2 調査結果

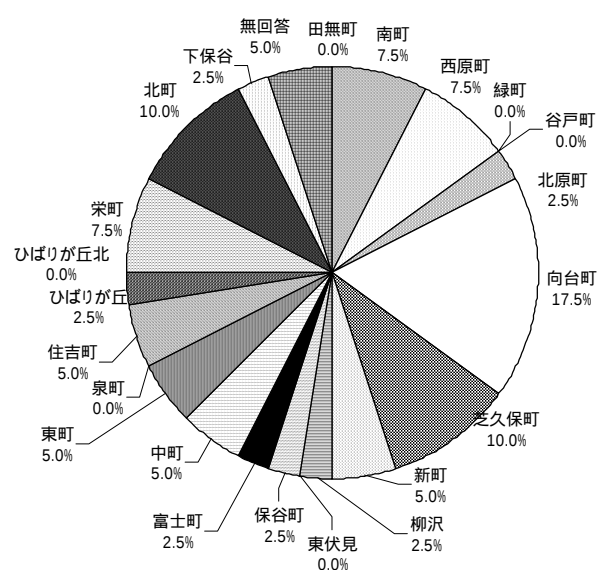
回答総数（ n ）は、明記されているもの以外はすべて 39 である。割合（各回答の百分率）は n を基数として算出し、小数点以下第 2 位を四捨五入したものである。このため、個々の比率の合計が 100.0%にならない場合がある。

4.2.1 回答者自身について

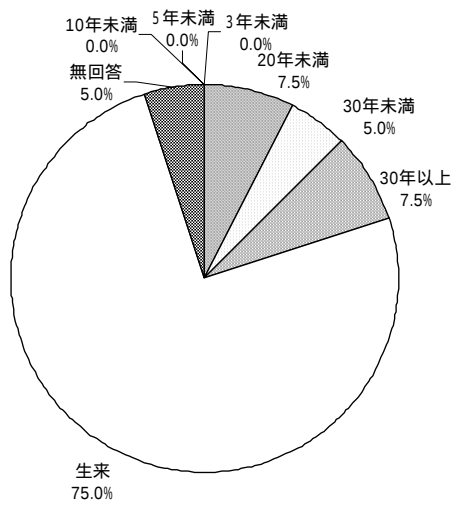
年代



住所



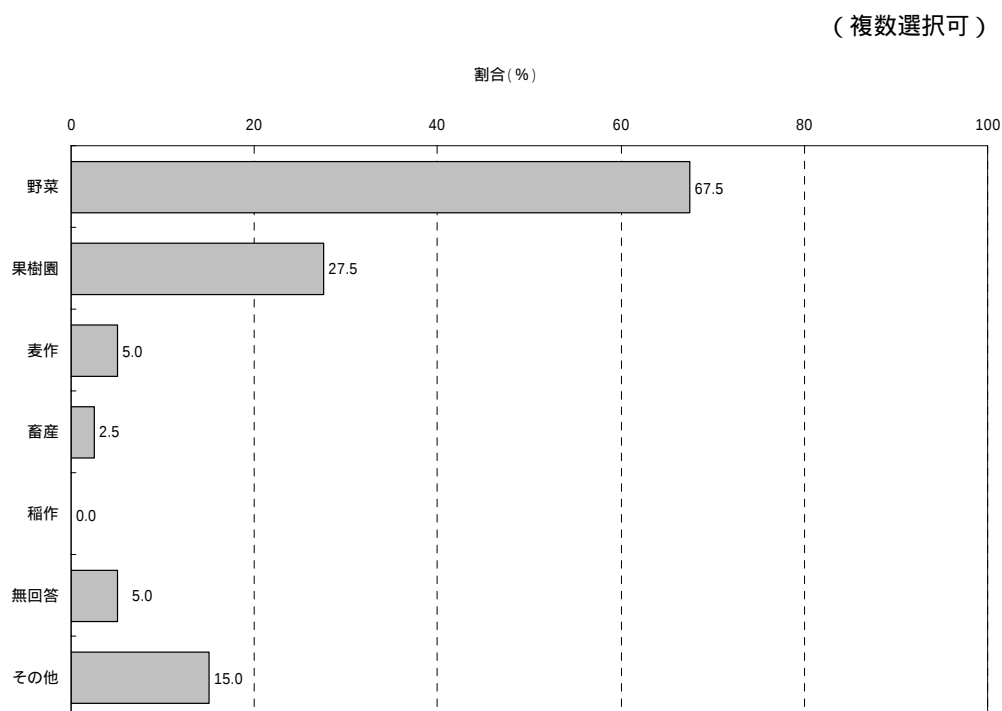
居住年数



4.2.2 営農種・経営形態（問１～問２）

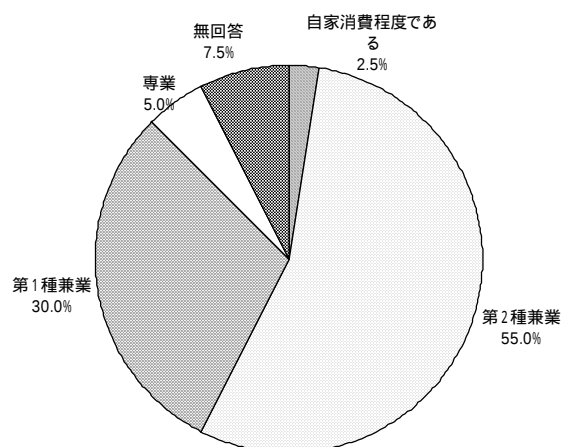
営農種（問１）

営農種については、野菜が最も多く（67.5％）、次いで果樹園となっており（27.5％）、稲作はなかった。前回調査時より野菜が12.5％減少し、果樹園が14.2％増加している。



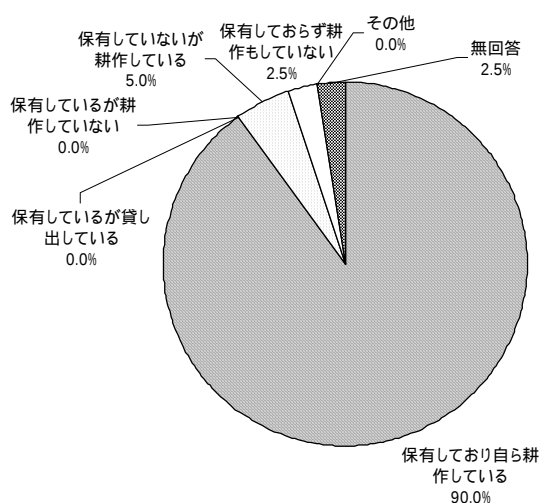
経営形態（問２）

経営形態は、第２種兼業が約半数の55％、第１種兼業が30％であった。専業農家は全体の5％となっている。前回調査時（第２種兼業70％、第１種兼業16.7％）より、第２種兼業が減少し、第１種兼業が増加している。また、前回調査では専業農家はみられなかったが、本調査では5.0％が専業農家と回答した。

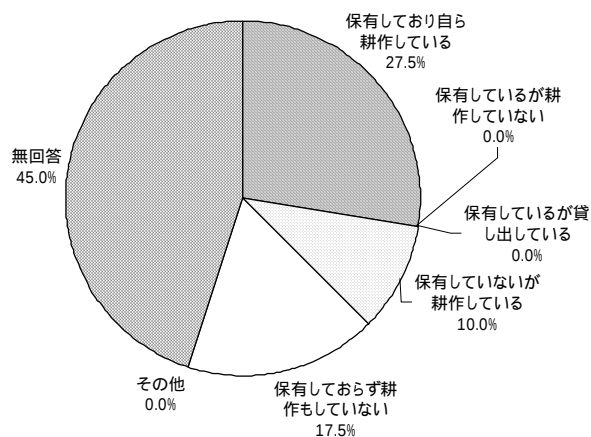


4.2.3 農地の今後の活用方法（問3）

生産緑地の保有・耕作状況



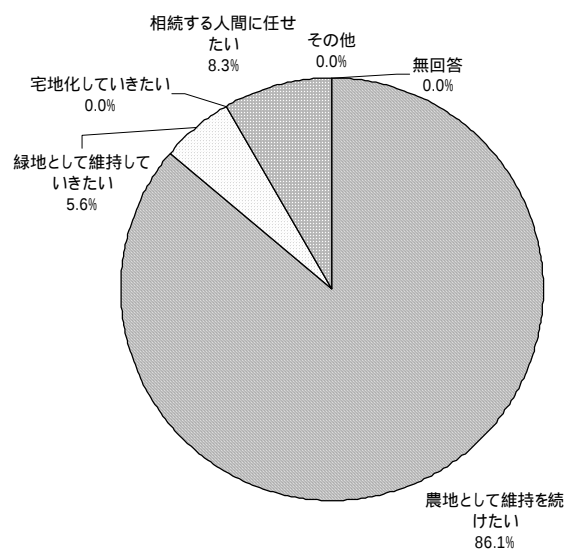
生産緑地以外の農地の保有・耕作状況



生産緑地においては、「保有しており自ら耕作している」人が90.0%、「保有していないが耕作している」人が5.0%であったが、保有されておらず耕作もされていない土地も2.5%存在した。

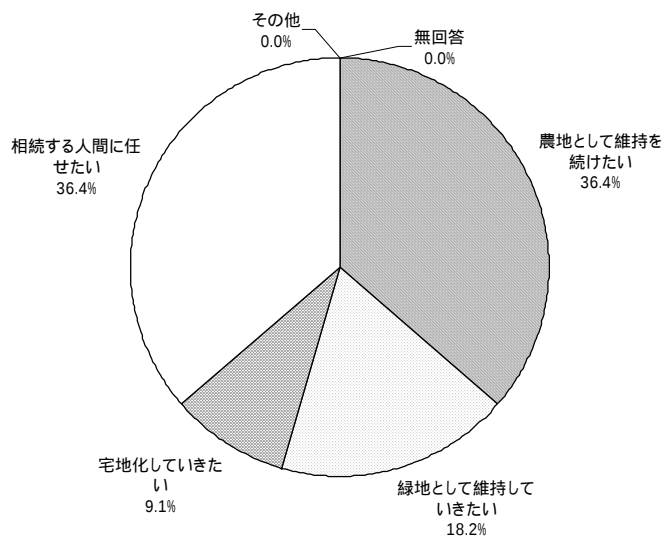
生産緑地以外の農地については、「保有しており自ら耕作している」人が27.5%と最も多く、「保有しておらず耕作もしていない」(17.5%)、「保有していないが耕作している」(10.0%)と続いている。また、無回答が半数近くを占めていた。

農地の将来（生産緑地）



(n=36)

農地の将来（生産緑地以外の農地）

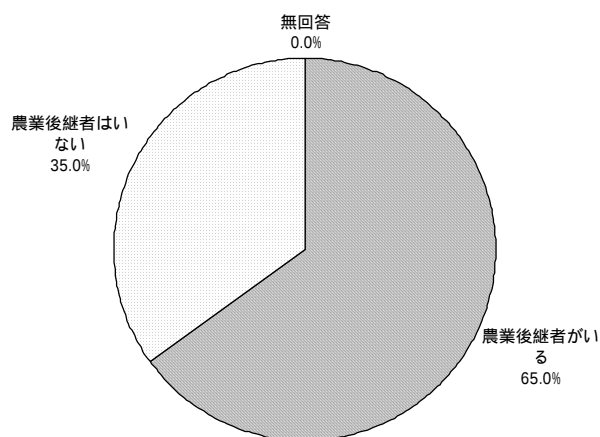


(n=11)

農地の将来については、生産緑地においては「農地として維持を続けたい」との回答が 86.1% で、前回調査に比べて 20%以上増加した。生産緑地以外の農地については、「農地として維持を続けたい」と回答した人が 36.4%である一方、「相続する人間に任せたい」と回答した人も同じく 36.4%となった。

4.2.4 農業後継者（問４）

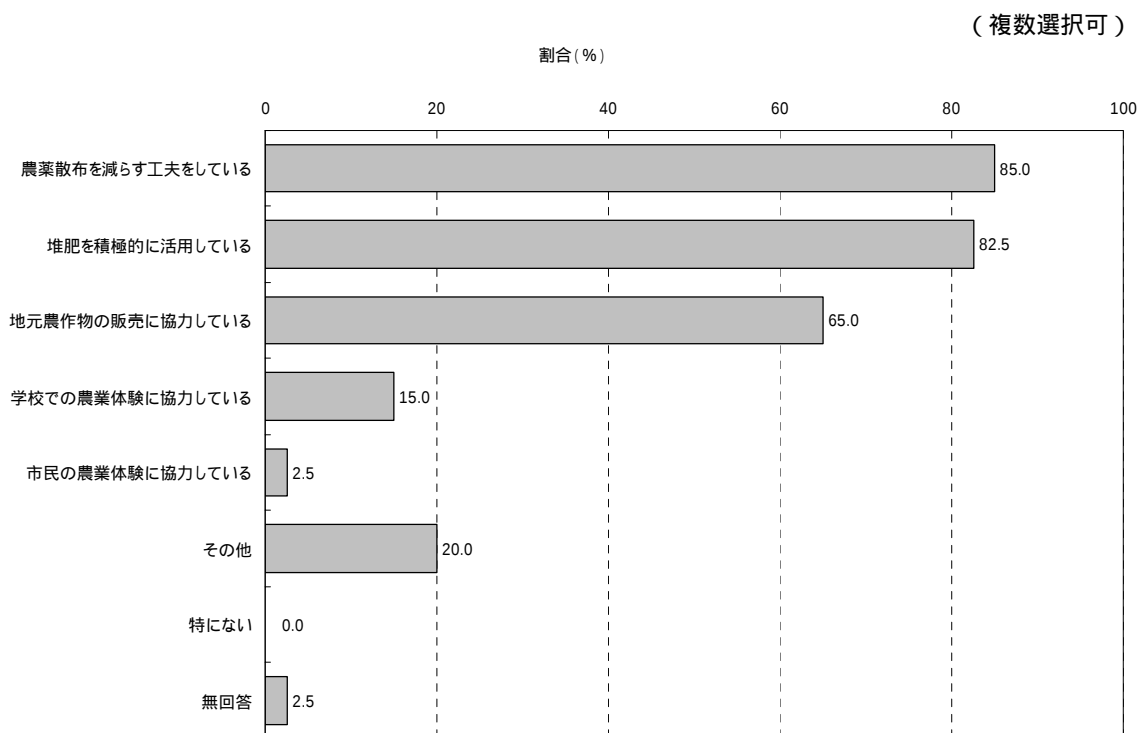
65.0%が「農業後継者がいる」と回答した。前回の調査と比較して 15.0%減少し、逆に「農業後継者はいない」と回答した人は 21.7%増加した。



4.2.5 意欲的な取り組み（問５）

意欲的に取り組んでいること（問５）

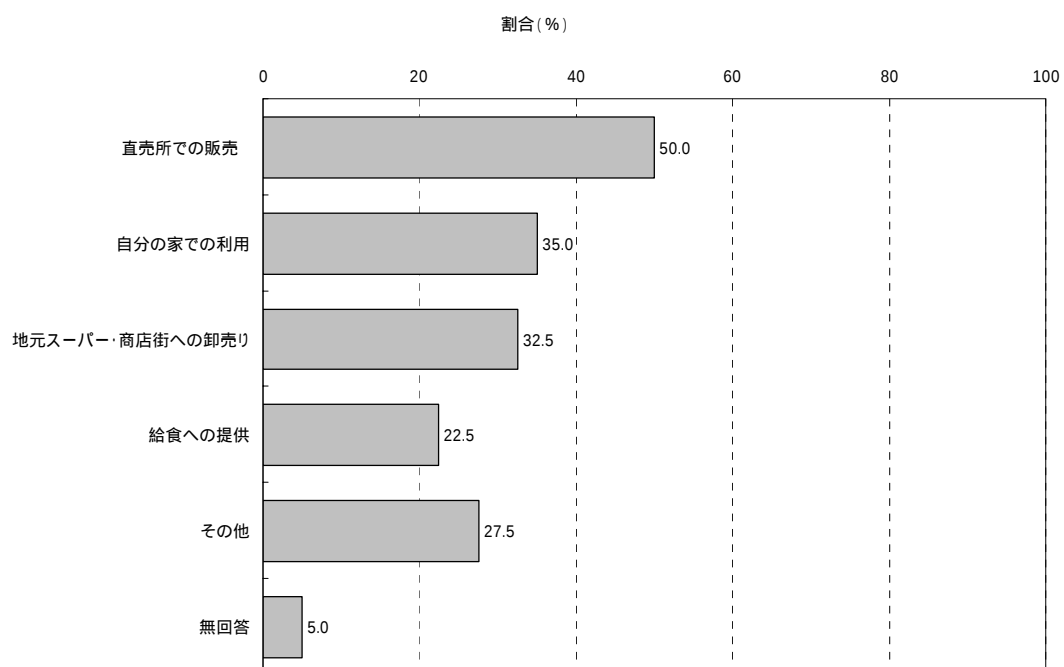
「農薬散布を減らす工夫をしている」、「堆肥を積極的に活用している」の２つの項目に対し、80%以上の人に取り組んでいることが分かった。地元農産物の販売協力も、約 3 分の 2 が取り組んでいると回答していた。



4.2.6 農作物の利用用途について（問6）

「直販所での販売」と回答した人が50.0%と最も多く、「自分の家での利用」(35.0%)、「地元スーパー・商店街への卸売り」(32.5%)、「給食への提供」(22.5%)と続いている。

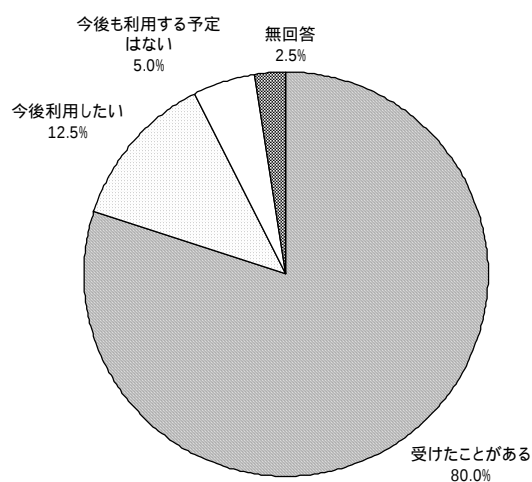
(複数選択可)



4.2.7 有機堆肥について（問 7～問 8）

有機堆肥の補助の経験の有無（問 7）

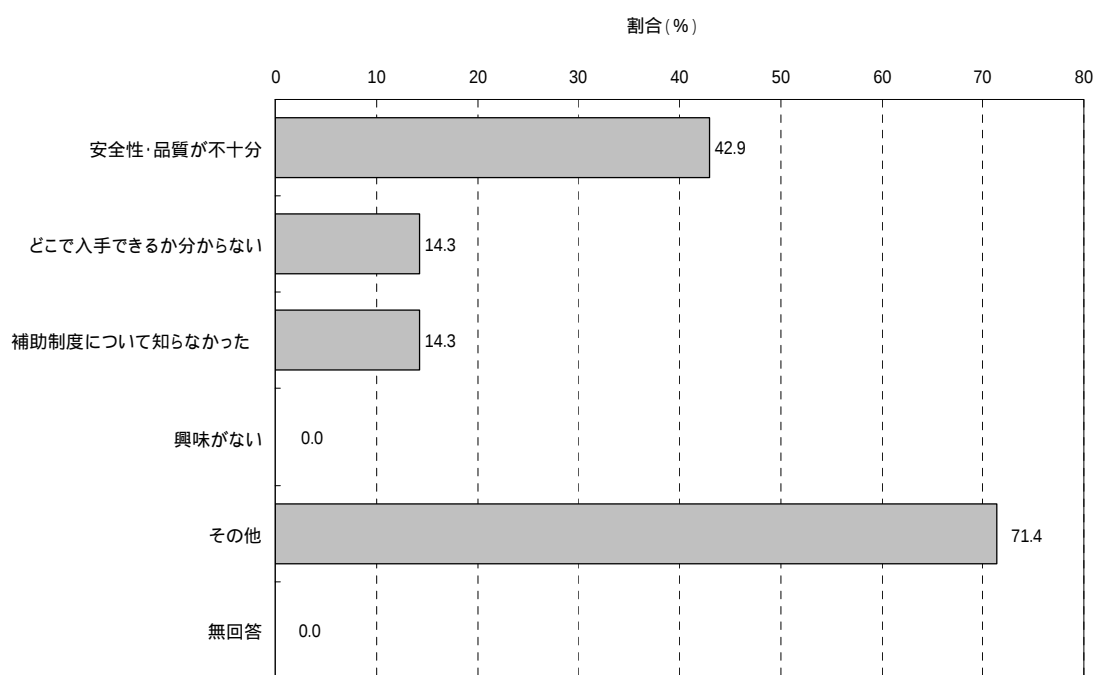
80.0%の人が「受けたことがある」と回答し、「今後利用したい」と合わせると 9 割を超えている。



これまで利用しなかった理由（問 8）

安全性・品質が不十分と回答した人が 42.9%と最も多く、「どこで入手できるか分からない」、「補助制度について知らなかった」（ともに 14.3%）と続いている。「興味がない」という回答はみられなかった。

（複数選択可）

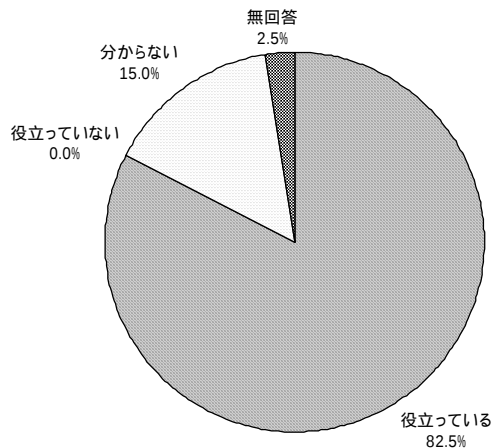


（n=7）

4.2.8 今後の環境施策と農地・農業について（問9～問10）

農地の環境への貢献について（問9）

8割以上が「役立っている」と回答し、「役立っていない」という回答はみられなかった。



西東京市の環境・農業に対する提案・意見・要望等（問10）

以下に示す17の意見、要望等が寄せられた。

- ・畑に空き缶やゴミを捨てられて困っています。
- ・農地の囲いの生垣について刈り込みや虫の防除に助成して欲しい。農薬散布に際し防薬ネットに助成して欲しい。
- ・市は今後西東京市内の各農家がどのような経営をしているか把握し、農業収入を主な収入源としている農家に対してのみ相続税の軽減など農地を残す努力をする必要があると考えます。真剣に農業を営んでいる農家と、取り敢えず農地として認めてもらうだけでの農業収入で後は不動産収入でと考えている農家と同じ扱いをされると、真剣に農業を行っている農家は残らなくなってきます。やる気のある農家の農地が残る策を早急に考える必要があります。
- ・高額すぎるので、相続時の税金対策を。相続時に市にて買い上げる予算化をして欲しい。
- ・市内の環境の保全、災害に備える空間、温暖化に対する緑の供給のためにも農地は必要な物だと思います。今後も安心して農業を継続していけるような政策を進めていただきたいと思います。
- ・野菜類の生産にはゴミの発生が非常に多い。例えば胡瓜、トマト、茄子等収穫終了時の枯れ木類。また、キャベツ、ブロッコリー収穫時の根等々。有害物質の発生はありませんので燃やさせて欲しい。もちろん近隣への迷惑は充分考慮を行います。農業資材類のビニール、ポリエチレン関係の有料収集を実施していただきたいと思います。その折りは1ヶ月1回の回収でも良い。以上のことを強く要望します。
- ・生産緑地の買取請求が出されたら必ず買い取り、生産緑地の保存に努めて欲しい。相続の等分化の時代、相続が発生すれば必ず農地は分散化の方向にある。

- ・東京の都市部の農地は都市計画や環境保護の分野、そして都市住民からも農地保全について大きな期待が寄せられています。今、行政は都市農地保全のために、税制面や生産緑地の買取等思い切った手を打つ時期を迎えていると思っています。
- ・ 営農ボランティアの情報を知りたい。 有料農地制度の補助事業の復活。
- ・ 農地の有効な利用をするために何も利用のない畑には麦を蒔くなどの事を行いたい。
- ・ 広々とした空間や畑でできる緑、屋敷林、雑木林など、建物ばかりでなく潤いや安らぎのある住環境を整えていると思う。これからも都市の中にバランス良く農地が存在することは非常に重要であり、農家の周囲の屋敷林は夏の高気温を少しでも低減していると思う。これらを行政として大事に保護して欲しい。
- ・ 今の農業が環境に与える影響がどのようなものか分からないので、どうして良いか分からない。今やろうとしている環境保全型農業は肥料についてだけなので、全体ではどうなのか知りたい。
- ・ 猫による畑荒らし。 街灯及びマンションの光公害。 空きビン、空き缶の畑への投入。
農薬散布、有機肥料の散布には近隣及び通行人に非常に神経を使っている。 ビニール資材を除く畑から出た物の多少の焼却。 伝染病菌のある野菜の焼却廃棄を市にお願いしたい。
- ・ 遊休農地や耕作者が病気などで耕作できない農地を意欲ある農家や市民に貸し出し耕作してもらい、将来に渡って残す。 トミー倶楽部のような形で市やボランティアが栽培指導を行い市民に開放したり、遊休農地に小麦やライ麦、蕎麦を作付けし、粉は給食や農地の蕎麦やうどんを提供しているお店や市の食堂などで使ってもらう。 種蒔きや刈り取りなどを市の行事や学校での体験学習として取り入れることで西東京市にヒバリが舞う空を取り戻す。
- ・ 若い世代が将来安心して農業を続けられるように、市の方でも農地の保持について考えていただきたい。
- ・ ここ数年来温暖化の進み方が早くなり、少しでも農地を残す努力をしていかないと空気の悪化など環境に悪い方向に向いていると思う。災害時における役割も大きいのでは？それと次世代に継ぐ役目をする西東京市でありたいです。日本の自給率なんと22%では世界に付いていけないと思います。西東京市だけでも努力。PRしないと。
- ・ 色々と環境によいことだと思っているが、未来はなく、後継者を育てて行くには不安があり、農業や食育の問題は国の教育から立て直すことが必要であり、フランスのような教育が必要では。

第5章 商店者アンケート結果

5.1 調査概要

対象者	西東京市内の商店者 2,034 店舗（平成 19 年 8 月末登録数）
サンプル数	50 店舗 （市内商店会のリストより産業振興課による無作為抽出）
調査期間	平成 19 年 10 月 4 日～平成 19 年 10 月 17 日
調査方法	調査票の郵送配布・郵送回収法
有効回答数（割合）	33（66.0％）

5.2 調査結果

回答総数（n）は、明記されているもの以外はすべて 33 である。割合（各回答の百分率）は n を基数として算出し、小数点以下第 2 位を四捨五入したものである。このため、個々の比率の合計が 100.0%にならない場合がある。

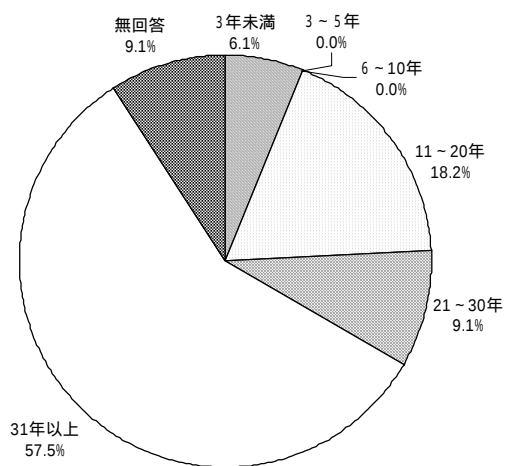
5.2.1 回答者自身について

業種

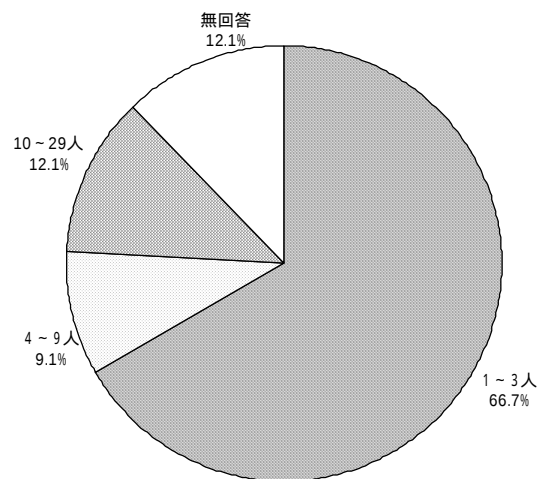
業種	業態	回答数
小売店	薬局	2
	化粧品、婦人服販売	2
	文具販売	1
	コンビニエンスストア	1
	牛乳販売店	1
	米店	1
	酒類小売業	1
	生花小売	1
	青果業	1
	家電販売	1
	書籍、雑誌販売	1
	板ガラス、サッシ販売	1
	その他（「小売業」と回答）	1
飲食店	すし	1
	中華料理	1
	その他（「飲食店」と回答）	2
製造業	パン製造	1

業種	業態	回答数
その他の回答	製麺業	1
	畳	1
	クリーニング	2
	建設	1
	サービス業	1
	内装業	1
	不動産業	1
	自営業	1
無回答		4

営業年数



従業員数



(30 人以上と回答した商店はみられなかった)

5.2.2 環境問題に対する考え（問1）

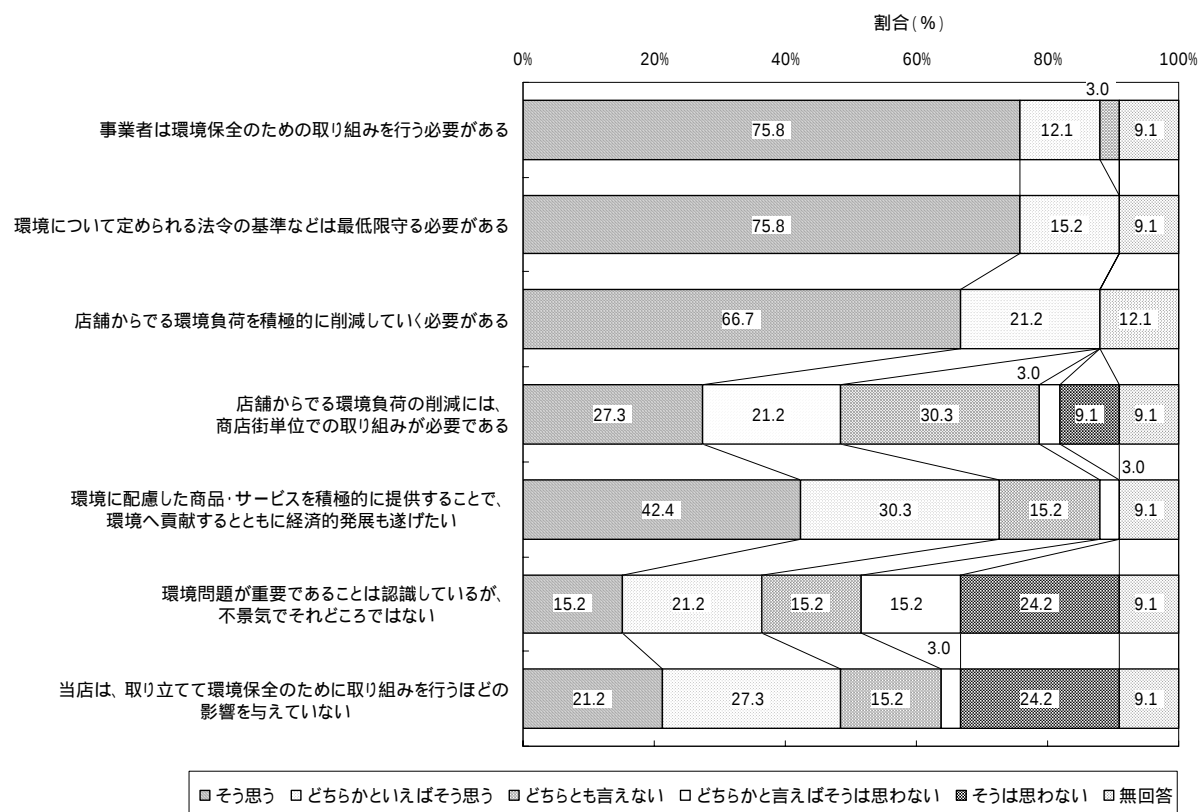
「事業者は環境保全のための取り組みを行う必要がある」、「環境について定められる法令の基準などは最低限守る必要がある」、「店舗から出る環境負荷を積極的に削減していく必要がある」の3項目について、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した人がどれも9割弱を占めた。また、この3項目について、「どちらかといえばそうは思わない」、「そうは思わない」と回答した商店はなく、環境問題へ取り組んでいく姿勢がどの商店にも共通していることが分かる。

「店舗から出る環境負荷の削減には、商店街単位での取り組みが必要である」の項目に対しては、約半数の商店が「そう思う」(27.3%)、「どちらかといえばそう思う」(21.2%)と回答した。

「環境に配慮した商品・サービスを積極的に提供することで、環境へ貢献するとともに経済的發展も遂げたい」の設問については、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した人が7割を超え、商店の発展とともに、環境への配慮・貢献も行っていく姿勢が伺える。

「環境問題が重要であることは認識しているが、不景気でそれどころではない」に対しては、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の割合よりも、「どちらかといえばそうは思わない」、「そうは思わない」の割合の方が、若干多くみられた。

「当店は、取り立てて環境保全のために取り組みを行うほどの影響を与えていない」の項目については、「そうは思わない」と回答した商店が24.2%となっており、前回調査時の0%から大きく増加した。



5.2.3 環境問題への取り組み（問2）

商品、ごみ、リサイクルについて

「ゴミ出しの適正化と周辺美化に努めている」については、96.9%の商店が「積極的に取り組んでいる」または「まだまだ取り組めると思う」と回答し、「取り組むことは考えていない」と回答した商店はなかった。

「リサイクル商品や詰め替え商品など、環境に配慮した商品を優先して取り扱うようにしている」、「消費者に環境に配慮した商品に関する情報を積極的に提供している」については、「積極的に取り組んでいる」、「まだまだ取り組めると思う」、「今後取り組んでいきたい」と回答した商店が約85%であった。

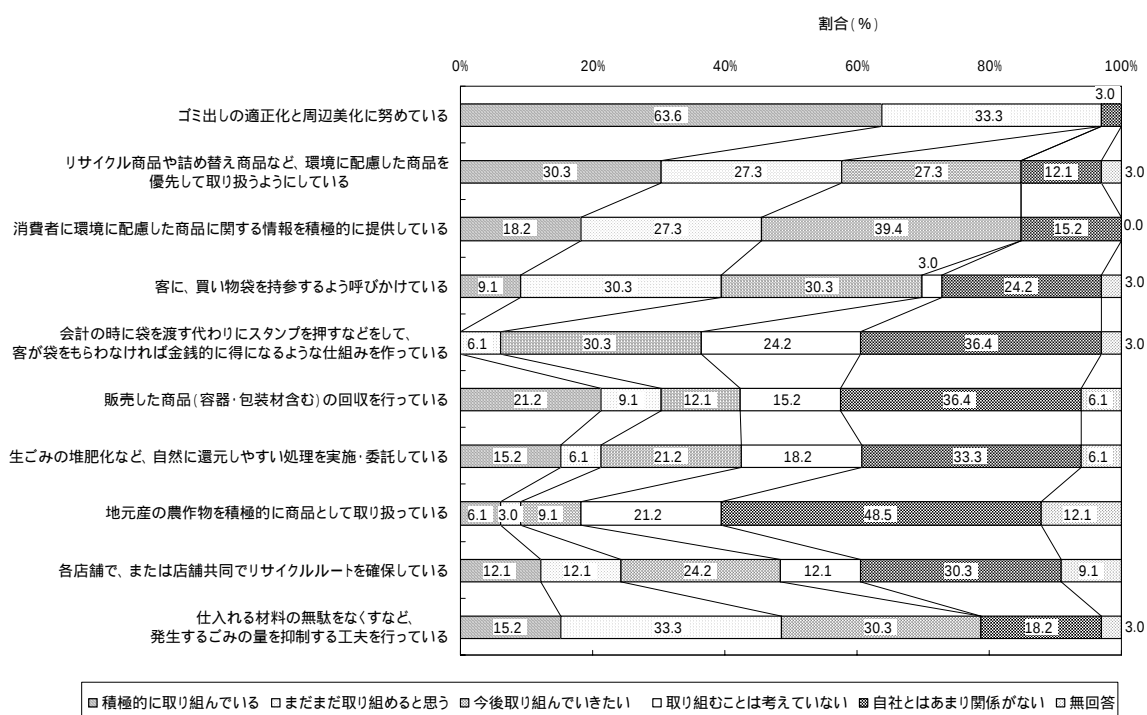
「会計の時に袋を渡す代わりにスタンプを押すなどをして、客が袋をもらわなければ金銭的に得になるような仕組みを作っている」については、「取り組むことは考えていない」、「自社とはあまり関係がない」と回答した商店が半数を超えているが、「今後取り組んでいきたい」という回答も3割を超えていた。

「販売した商品（容器・包装材含む）の回収を行っている」、「生ごみの堆肥化など、自然に還元しやすい処理を実施・委託している」の2項目については、「取り組むことは考えていない」、「自社とはあまり関係がない」と回答した商店の方が、「取り組んでいる」または「取り組みたい」と回答した商店よりも多くみられた。

「地元産の農作物を積極的に商品として扱っている」では、半数近くが自社とはあまり関係がなく、取り組んでいる商店は1割を下回っていた。

「各店舗で、または店舗共同でリサイクルルートを確保している」については、「取り組んでいる」または「今後取り組んでいきたい」と回答した商店が50%弱となっている。

「仕入れる材料の無駄をなくすなど、発生するごみの量を抑制する工夫を行っている」については、8割近くの商店が意欲的であることが分かった。



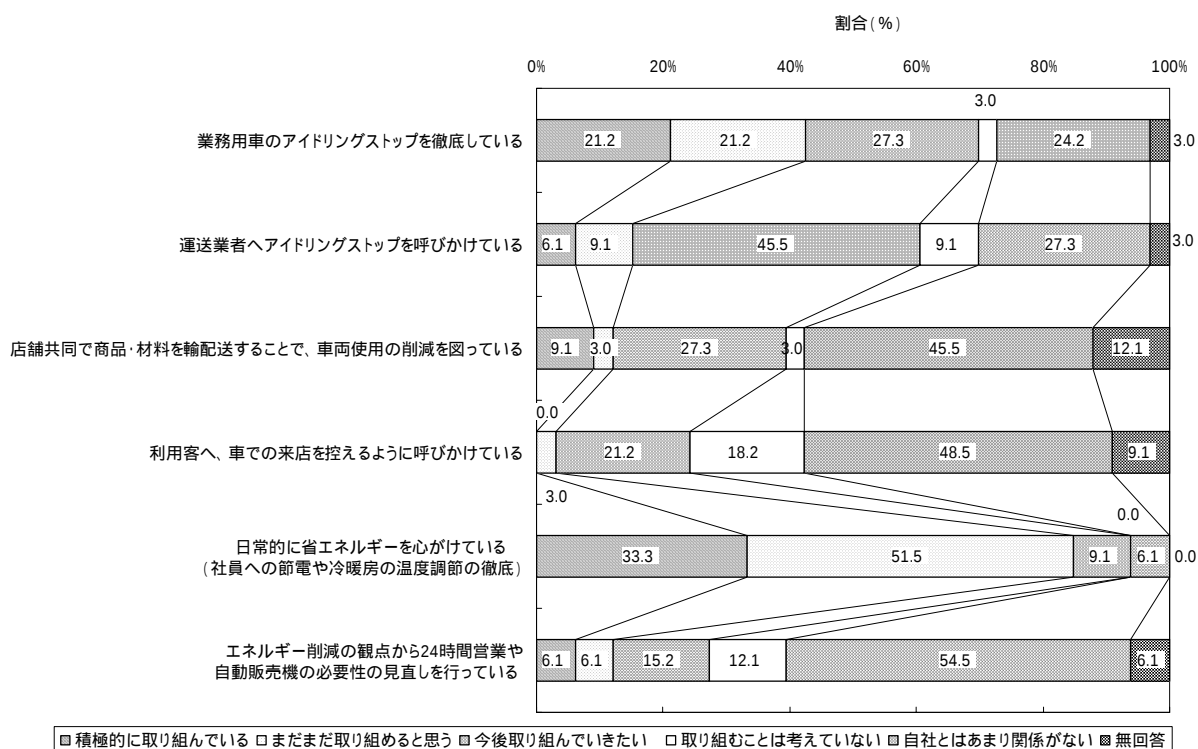
自動車、エネルギーについて

「業務用車のアイドリングストップを徹底している」、「運送業者へアイドリングストップを呼びかけている」の2項目については、3分の2前後の商店が「取り組んでいる」または「今後取り組んでいきたい」と回答している。

「店舗共同で商品・材料を輸配送することで、車両使用の削減を図っている」、「利用客へ、車での来店を控えるように呼びかけている」の2項目については、「自社とはあまり関係がない」と回答した商店が半数近くであった。

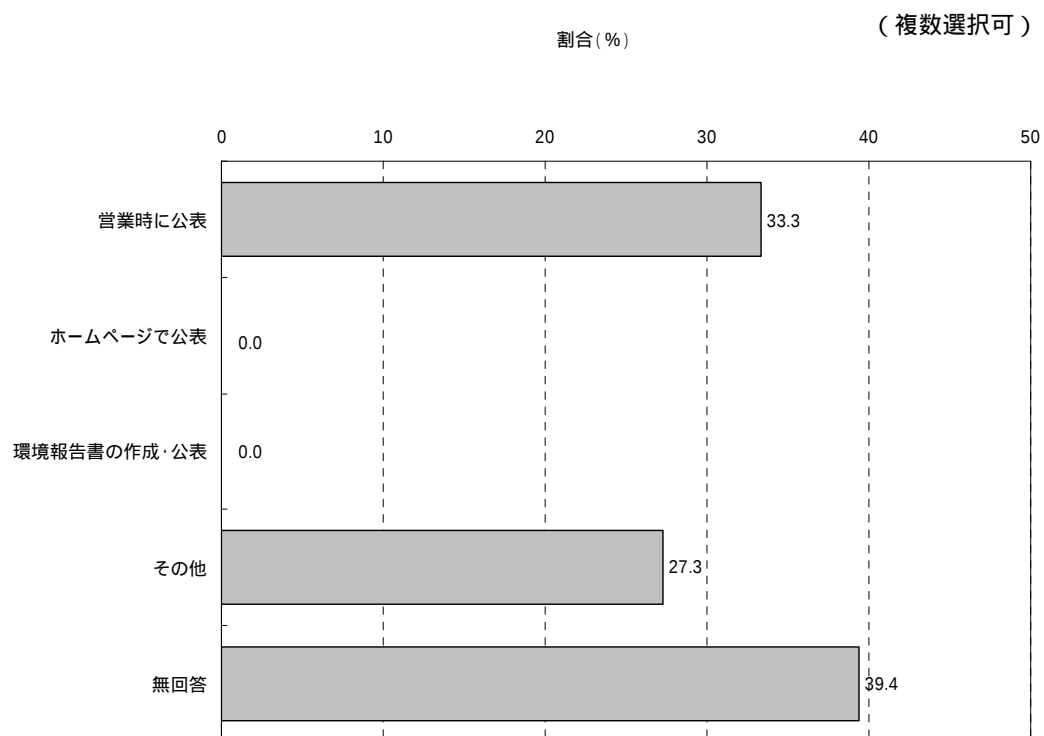
「日常的に省エネルギーを心がけている（社員への節電や冷暖房の温度調節の徹底）」については、8割を超える商店が取り組んでいると回答しており、取り組みが進んでいる。

「エネルギー削減の観点から24時間営業や自動販売機の必要性の見直しを行っている」については、「自社とはあまり関係ない」と回答した商店が50%を超え、最多であった。



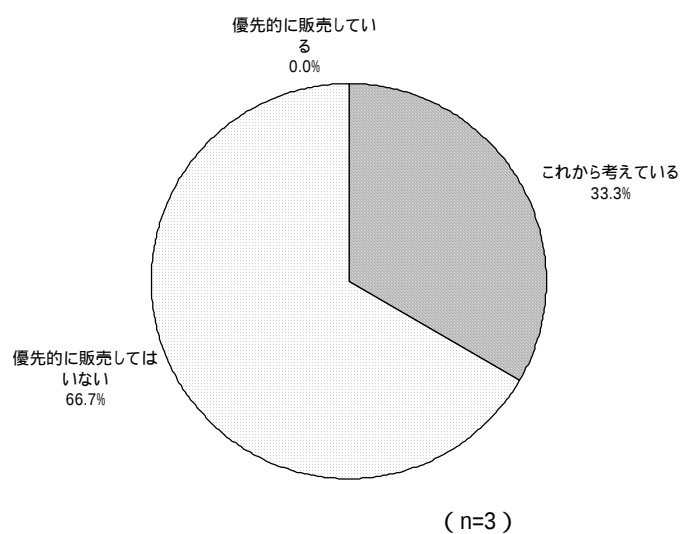
5.2.4 環境の取り組みの公表（問3）

33.3%が「営業時に公表している」と回答していたが、「ホームページで公表」、「環境報告書の作成・公表」を行っているという回答はみられなかった。



5.2.5 農産物の販売（問4）

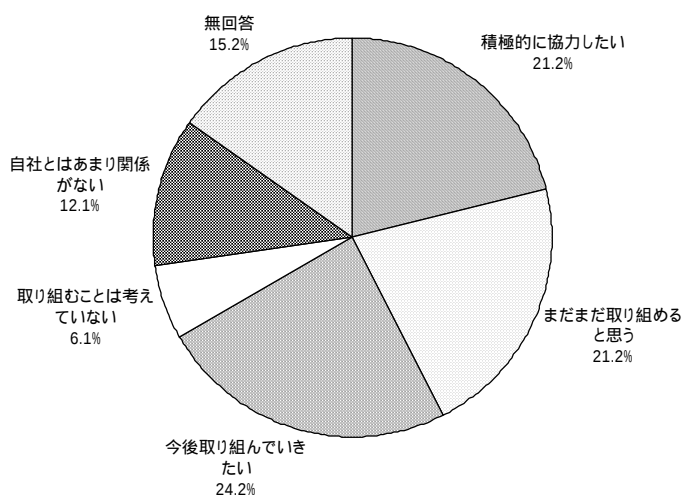
「はい（優先的に販売している）」と回答した商店はなく、「これから考えている」という回答が3分の1、「いいえ（優先的に販売していない）」が3分の2を占めた。



5.2.6 地域での環境保全活動（問5～問7）

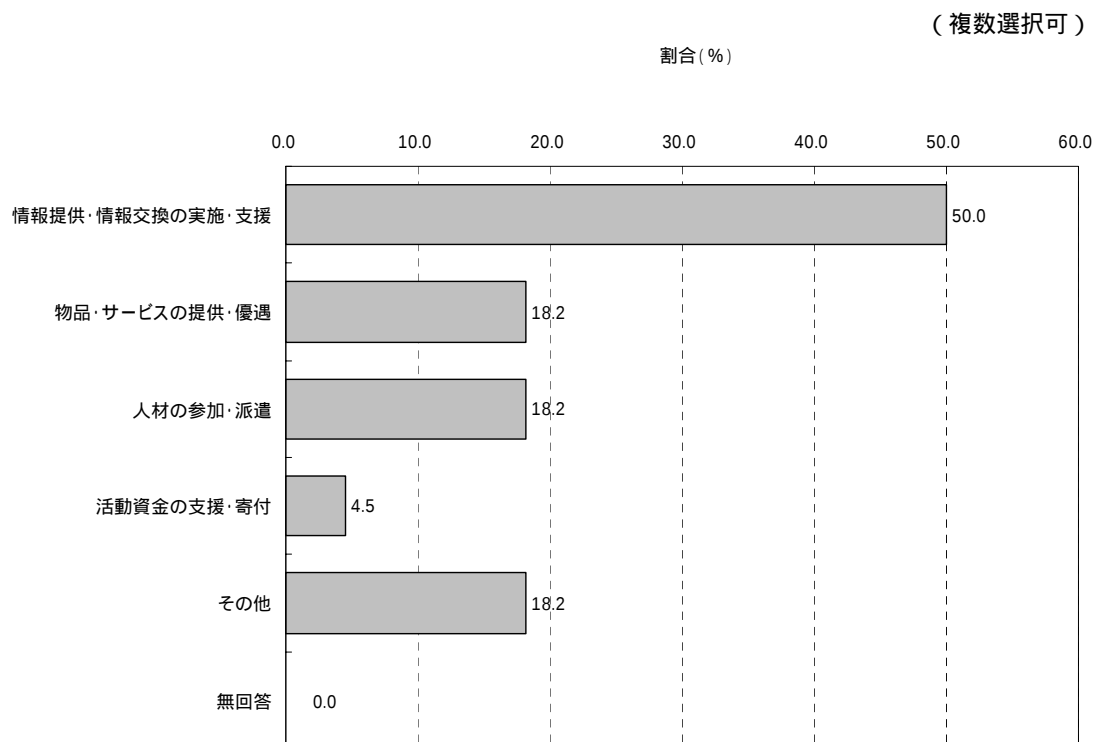
環境保全活動の取り組み状況について（問5）

「積極的に協力したい」、「取り組んでいるが、まだまが取り組めると思う」、「今後取り組んでいきたい」と回答した商店が 66.6%であり、半数以上の商店が環境保全活動へ協力したいと考えていることが分かった。



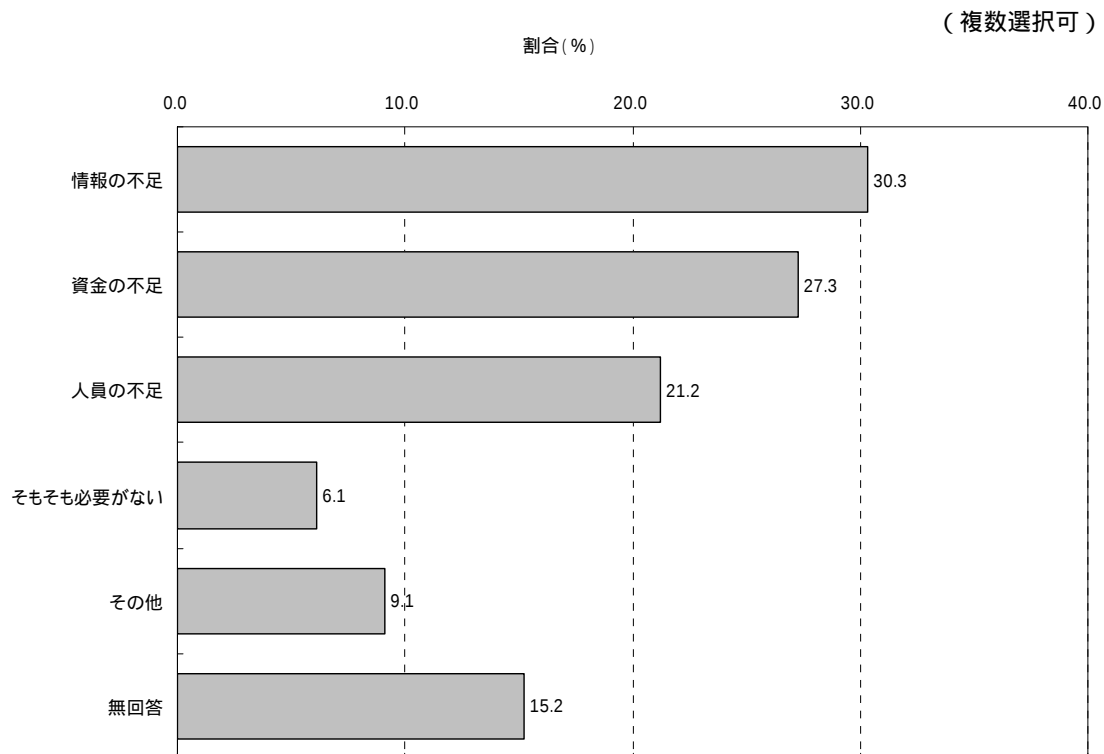
協力できること（問6）

「情報提供・情報交換の実施・支援」という回答が 50%で最も多く、「物品・サービスの提供・優遇」、「人材の参加・派遣」、「その他」については、ともに 18.2%であった。「活動資金の支援・寄付」と回答した人は 4.5%に留まった。



取り組みを行う際の課題（問 7）

「情報の不足」が最も多く（30.3%）、「資金の不足」（27.3%）、「人手の不足」（21.2%）と続いている。



5.2.7 市の環境保全に対する提案・意見・要望等（問 8）

放置自転車に関するもの、水・みどりを始めたとしたまちづくりに関するものなど、9 商店者から意見等が寄せられた。

- ・最近道路がどんどん増えている反面、緑がどんどん見受けられなくなっている。もっと緑を増やして欲しい。
- ・企業が変わらない限り西東京市の環境保全はありえない。
- ・当社は建設会社なので、環境に優しい家づくりを研究していきたいと思っています。
- ・業者宛の連絡用紙について、可能な場合はメールや FAX を積極的に利用してもらいたい。封筒や返信費の削減になる。
- ・自然を大切に市都市計画を作ってください。
- ・ソーラー発電や屋上の緑化への補助などを大きく公表してください。
- ・私の仕事は、環境にやさしい商品を取り扱っています。
- ・暗渠河川を生き返らせる。→水路を巡らせる。 自転車道路を整備し、放置自転車を有効活用する。
- ・土日・祝日における東伏見北口駅前の自転車の放置は目に余る。また、土曜日など塾に来る自転車で一杯である。その自転車をシルバー人材の方が整理しているのは疑問に感じる。

第6章 小学生アンケート結果

6.1 調査概要

小学生アンケートは、市内の小学校（19校、9,360人（平成19年10月1日現在））の中から、緑のカーテンを実施した以下の5つの小学校を抽出して行った。

	田無 小学校	保谷第一 小学校	東伏見 小学校	碧山 小学校	けやき 小学校	合計
対象者	5年生	4年生	5年生	6年生	5年生	-
サンプル数	97人	65人	88人	86人	126人	462人
調査期間 （実施年は 平成19年）	10月18日 ～ 11月5日	10月18日 ～ 11月5日	10月18日 ～ 11月5日	10月18日 ～ 11月5日	10月18日 ～ 11月6日	-
調査方法	授業中に実施					-
有効回答数 （割合）	89 （91.8%）	65 （100%）	88 （100%）	85 （98.8%）	120 （95.2%）	447 （96.8%）

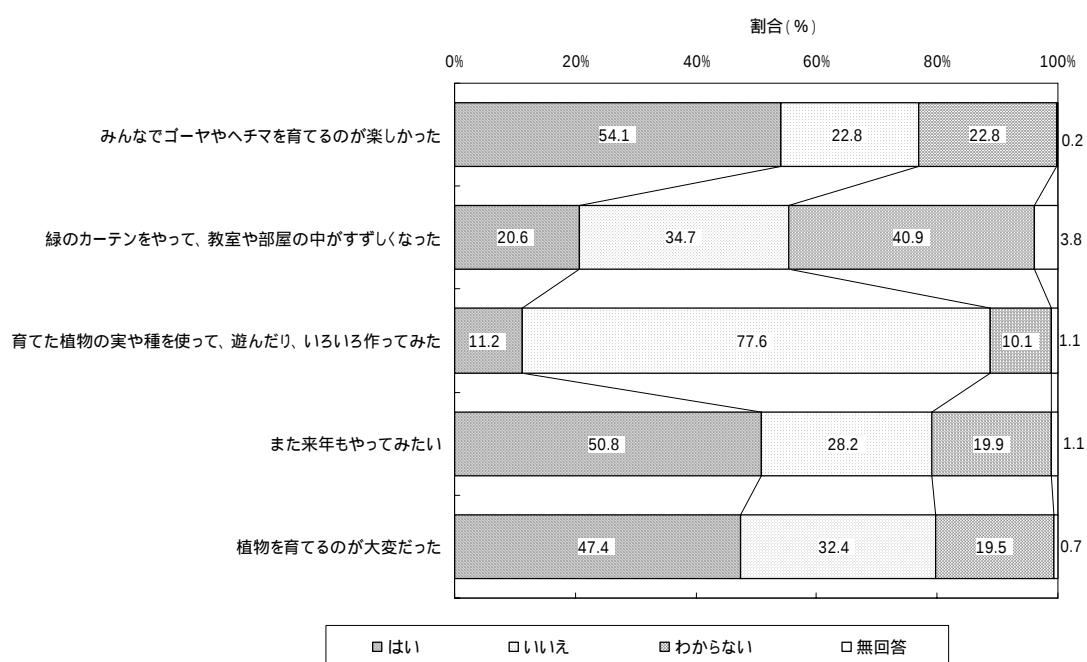
6.2 調査結果

回答総数（n）は、明記されているもの以外はすべて447である。割合（各回答の百分率）はnを基数として算出し、小数点以下第2位を四捨五入したものである。このため、個々の比率の合計が100.0%にならない場合がある。

6.2.1 緑のカーテンについて（問1）

緑のカーテンを行うことそのものについては、半数近く（47.4％）が「植物を育てるのが大変だった」と回答しているものの、半数以上が「みんなでゴーヤやヘチマを育てるのが楽しかった」（54.1％）、「また来年もやってみたい」（50.8％）と回答している。

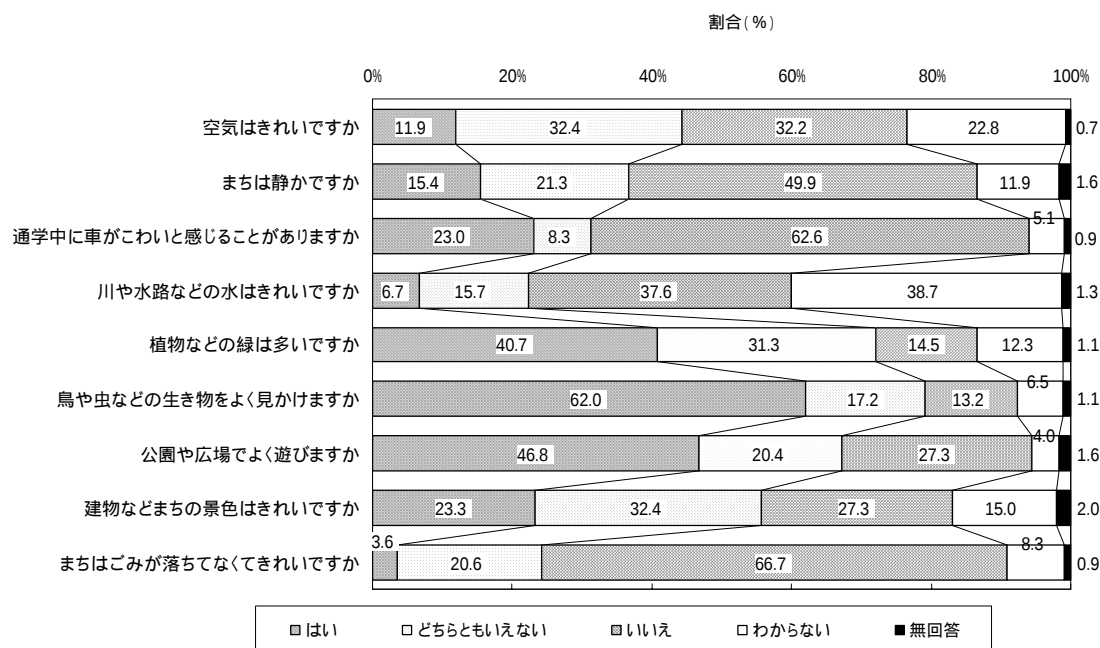
「育てた植物の実や種を使って、遊んだり、いろいろ作ってみた」といった一歩進んだ取り組みを実施したのは11.2％にとどまっている。また、「緑のカーテンをやって、教室や部屋の中が涼しくなった」に対して「はい」と回答した小学生も20.6％と「いいえ」（34.7％）より少数にとどまっている。



6.2.2 通学路や家のまわりの環境（問2）

「植物などの緑は多いですか」「鳥や虫などの生き物をよく見かけますか」「公園や広場でよく遊びますか」の3項目については、「はい」と回答した人が「いいえ」を上回っていた。また、「通学中に車がこわいと感じることがありますか」では「いいえ」が「はい」を上回っていた。

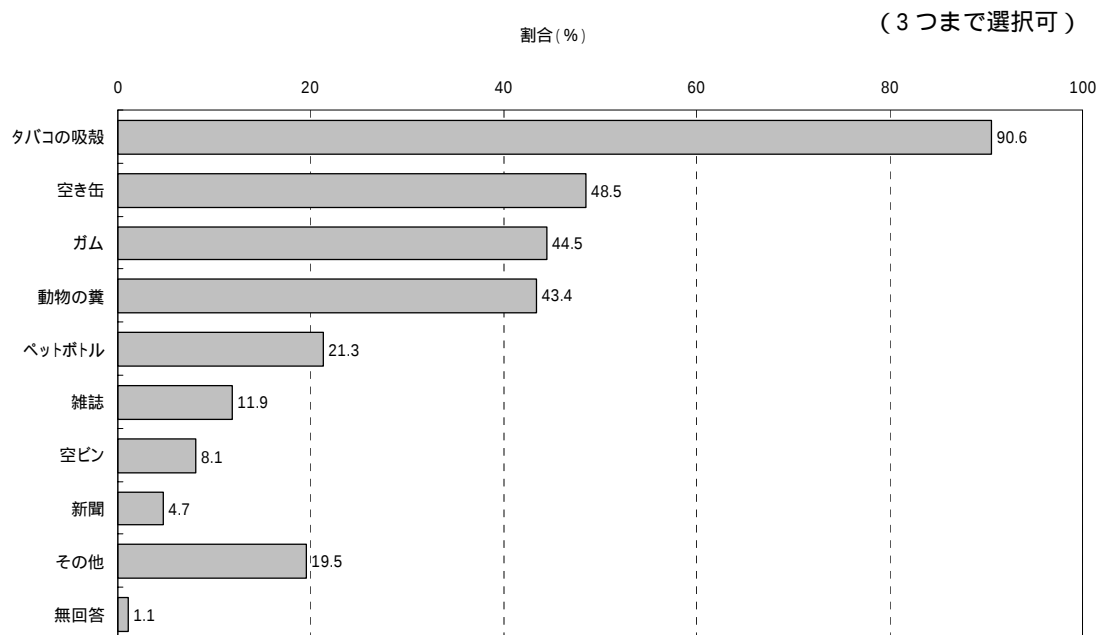
それ以外の質問項目については、環境に対し満足をしていない傾向にあり、特に「まちはごみが落ちていなくてきれいですか」の項目については、3分の2が「いいえ」と回答していた。



6.2.3 ゴミやポイ捨て（問3）

多いと思うゴミの種類

「タバコの吸殻」と回答した人が最も多く、（90.6％）「空き缶」（48.5％）「ガム」（44.5％）「動物の糞」（43.4％）と続いている。



その他の回答

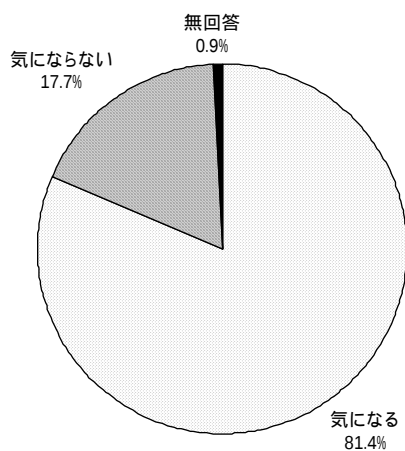
その他として自由記入のあった回答については、お菓子の袋が27人と多く、次いでビニール袋（6人）紙屑（5人）ティッシュ（4人）となっている。また、食べ物の包装ゴミやスーパー・コンビニの袋等も回答数が多くみられた。

回答	回答数
お菓子の袋	27
ビニール袋	6
紙屑	5
ティッシュ	4
葉っぱなど	3
袋	3
食べ物のゴミ	3
よく分からないもの	3
スーパーの袋	3
お菓子や食べ物のゴミ	3
コンビニの袋	2
ゴミ袋	2
本	1
道路に落ちている生ゴミ	1
動物の毛やお菓子の包み紙	1
虫の死骸	1
誰かが吐いたような物	1

回答	回答数
唾	1
粗大ゴミ	1
食べ物が入っていた容器	1
紙屑やお菓子の袋やプラスチックゴミ	1
紙やアイスクリームの棒	1
紙	1
傘、弁当箱のカラ、ビニール、カードパックを開けたゴミ	1
傘	1
靴下	1
靴、紙パック、ウィダーの袋	1
家庭ゴミ	1
プラスチック容器	1
チラシ	1
カロリーメイトの箱	1
お弁当の入れ物など	1
お弁当の食べ残しやお弁当のカラ	1

6.2.4 タバコのポイ捨て（問４）

8割以上が「気になる」と回答した。



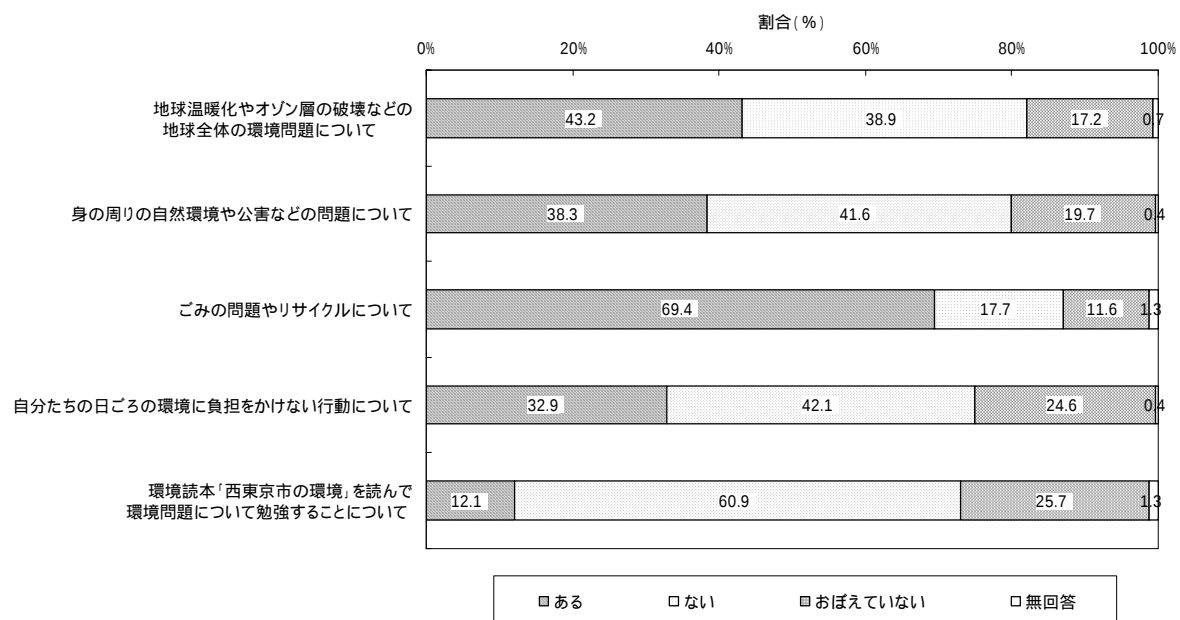
6.2.5 環境に関する授業（問5）

ほぼすべての小学生が、ごみ・リサイクル問題、地球温暖化問題に関する授業を受けたと回答していた。特に地球温暖化問題に関しては、釧路湿原や碧山森を取り上げた授業を受けたという回答が多く見られた。

6.2.6 家での環境教育（問6）

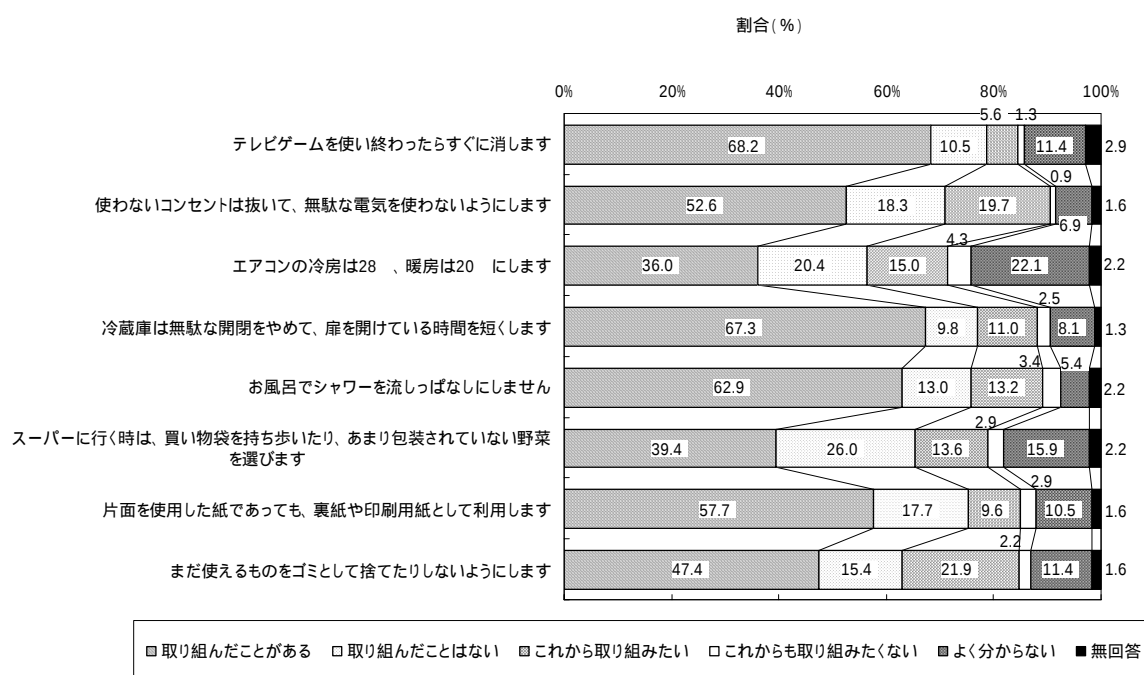
「ごみの問題やリサイクルについて」は、7割近くが「ある」と回答した。また、「地球温暖化やオゾン層の破壊などの地球全体の環境問題について」も、「ある」という回答が「いいえ」を上回っていた。

「環境読本『西東京市の環境』を読んで環境問題について勉強すること」については、60.9%の人が「ない」と回答しており、「ある」と回答した人（12.1%）を大きく上回っていた。



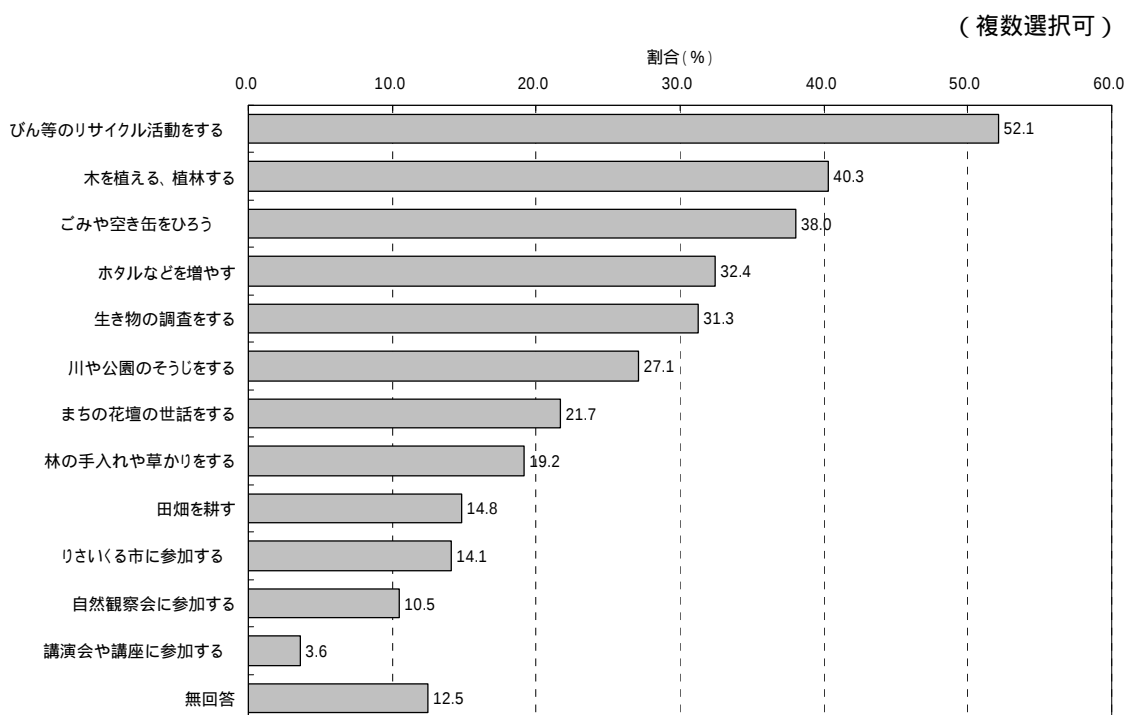
6.2.7 環境を守る活動への取り組み（問7）

「エアコンの冷房は28℃、暖房は20℃にします」、「スーパーに行く時は、買い物袋を持ち歩いたり、あまり包装されていない野菜を選びます」、「まだ使えるものをゴミとして捨てたりしないようにします」の3項目以外は、「取り組んだことがある」と回答した人が50%を超えていた。50%を超えていない3項目は、猛暑などの外的な現象や、小学生個人で判断できないこと（どれがまだ使えるものなのかなど）が原因と考えられる。



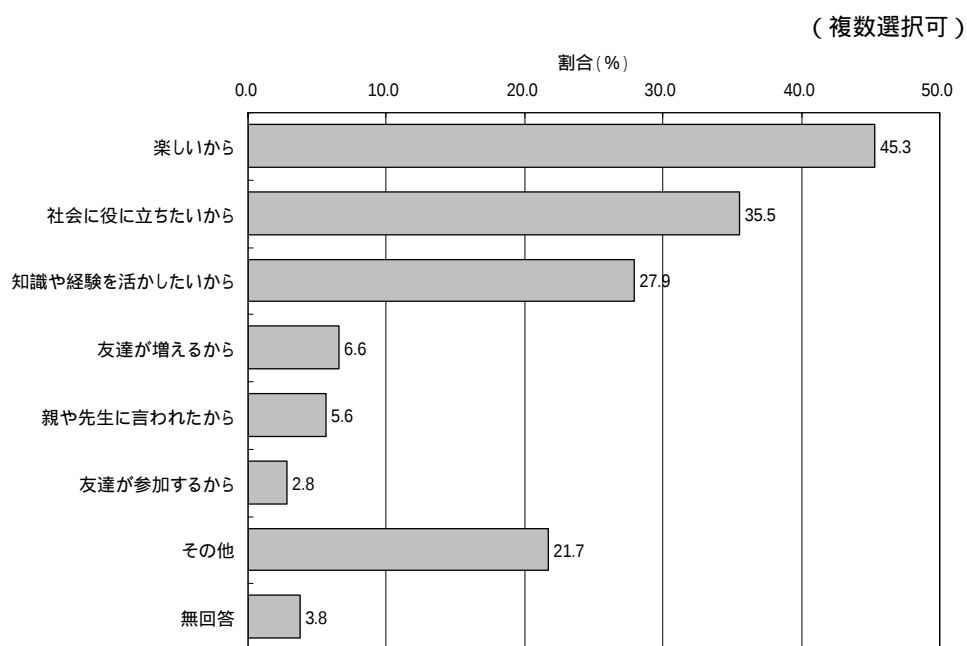
6.2.8 参加したい活動（問 8）

「びん等のリサイクル活動をする」、「ごみや空き缶をひろう」といったごみ・リサイクルに関するもの、「木を植える、植林する」、「生き物の調査をする」、「ホタルなどを増やす」といった緑、生き物に関する活動に対する割合が高かった。一方、「講演会や講座に参加する」という体験型ではないものの割合は 3.6%にとどまった。



6.2.9 参加したいと思った理由（問 9）

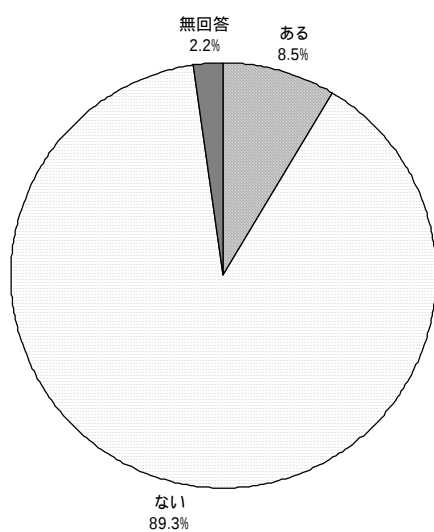
「楽しいから」と回答した人が 45.3%と最も多く、「社会に役に立ちたいから」(35.5%)、「知識や経験を活かしたいから」(27.9%)と続いている。



（n=391）

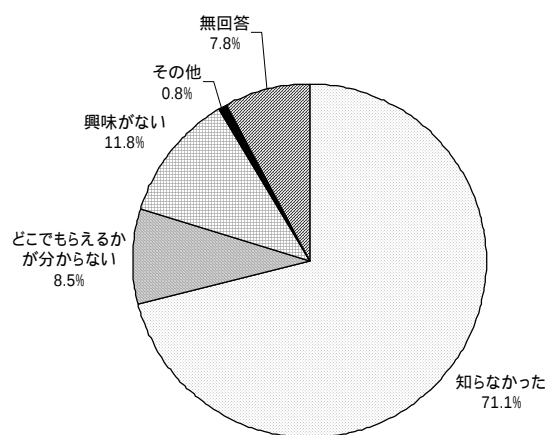
6.2.10 散策マップの利用（問 10）

89.3%の人が「ない」と回答し、「ある」と答えた人は 8.5%であった。



6.2.11 散策マップを使ったことのない理由（問 11）

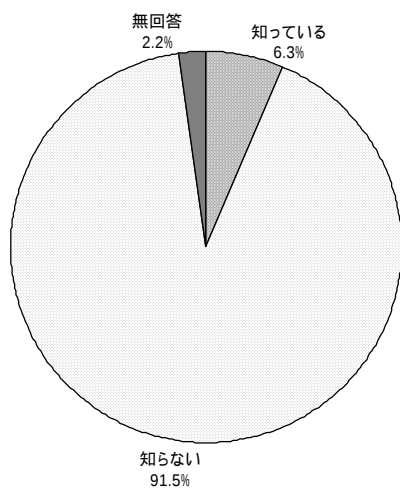
「知らなかった」という回答が最も多く（71.1%）、「興味がない」（11.8%）、「どこでもらえるかが分からない」（8.5%）と続いている。



(n=399)

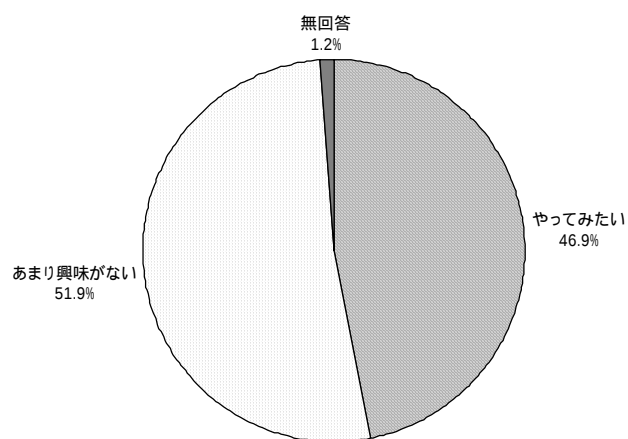
6.2.12 キッズ ISO の認知度（問 12）

91.5%の人が知らないと回答しており、認知度が低いことが分かった。



6.2.13 キッズ ISO への関心（問 13）

「あまり興味がない」という回答（51.9%）が、「やってみたい」（46.9%）を上回っていた。



（n=409）